

(表帳簿式) 用紙半紙

許可年月日	所有者ノ住所氏名
建物所在地	
建物ノ種類	
覆葺材料種類	
許可期間	備考

防火劑「エンベル」ヲ以テ屋上覆葺ニ關スル件

明治四十二年二月十五日
警保收第六六五號保安課長通牒

伊勢佐木町警察署長ヨリ防火劑「エンベル」ヲ以テ家屋屋上ヲ覆葺スルハ屋上制限令ノ不燃質物ト認メ差支ナキヤ否
ヤノ件警務長へ上申ニ付技術者ヲシテ調査ヲ遂ケシムル處右ハ熱ノ導力弱クシテ制限令ノ不燃質物ト認メ差支無之
モノト決定相成候也

横濱區地揚規則

明治十九年六月二十三日
布達甲第六十二號

改正 明治三十二年九月縣令第七三號

横濱區内地揚規則左之通相定メ來ル七月十日ヨリ施行ス
右布達ス

横濱區地揚規則

- 第一條 横濱(區)内ニ於テハ其地盤滿潮面ヨリ四尺以上アルニ非サレハ新ニ人ノ居住スヘキ家屋 學校及ヒ集會所ヲ
建築スルヲ得ス
- 第二條 從來家屋ノ建設アル土地ニシテ滿潮面四尺未滿ノ場所ニ於テハ改築ノ際必右制限以上ニ地揚ヲ爲スヘシ
但現在家屋ノ野敷二分一以下ノ建屋ハ此限ニ在ラス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第三條 此規則實施後人ノ居住セサル目的ヲ以建設シタル家屋ヲ人ノ居住スヘキ家屋ニ轉用セントスルトキ其地盤

滿潮面四尺未滿ナルトキハ此制限ノ地揚ヲ爲スヘシ

第四條 地盤ノ高低ヲ測定スルノ基點ハ縣廳ニ於テ建設シタル高低標ニ據ルヘシ

第五條 地揚ヲ爲シタルトキハ家屋築造前縣廳へ届出検査ヲ受クヘシ

第六條 此制限ニ背キ築造シ又ハ轉用シタル家屋ハ人ノ居住ニ供用スルヲ禁ス

附 則

第七條 本規則ハ山下町ニ限り之ヲ施行セス

地揚規則施行區域

明治十九年七月二十七日
縣令第一號

改正 明治四〇年四月縣令第五三號

本年甲第六十二號布達ハ本年八月十五日ヨリ左ノ町村ヘモ施行ス

但第五條ノ場合ニ於テハ郡市役所へ届出検査ヲ受クヘシ

三浦郡

横須賀市街

船越新田

田浦村ノ内 字船越

逸見村

浦郷村ノ内 字梅田

明治二十一年七月二十日
縣令第二十三號

明治十九年六月甲第六十二號布達ハ來ル九月一日ヨリ左ノ町村ヘモ施行ス

久良岐郡

戸部町ノ内 字石崎

太田村ノ内 字西中耕地及ヒ字前里

第二編 保安 第一章 安寧

吉田新田ノ内 大岡川ヲ境界ニ横濱(區)ヘ接續ノ地
中村ノ内 堀割東北一圓

●縣ニ於テ埋立ヲ負擔スヘキ場合及其ノ種類

明治十九年九月
達第一七號

横濱區役所

其ノ區内ニ於テ滿潮面上高四尺ニ達セサル地所ヲ埋立ツヘキ部分ニシテ左ニ掲ケル地所ニ限リ自己埋立ニ目下差支
アルモノハ縣廳ニ於テ埋立ヲ取扱フヘキニ付望ノ者ハ可申出旨告示スヘシ

但シ埋立ニ要スル土砂ヲ所有スルモノハ本文取扱ノ限リニアラス

- 一、現在家屋敷ノ地上クテ爲サントスルモノ
- 一、家屋修繕ニ際シ地上クテ爲サントスルモノ
- 一、家屋新築ノ爲地上クテ爲サントスルモノ
- 一、右ノ外隣地ト段階ヲ生シ汚水ノ滲溜スヘキ地所ノ地上クテ爲サントスルモノ
- 一、地主自ら埋立ントスルモノハ埋立土ヲ拂下ケルコトアリ

●土木起工規則

大正八年四月二十二日
縣令第四十一號

土木起工規則左ノ通相定ム

土木起工規則

第一條 左ニ掲ケル工事ヲ爲サントスル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外本則ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一、道路、橋梁、隧道、索道、軌道及無軌道電車ニ關スル工事
- 二、港灣、埠頭、船渠、船入堀、棧橋、其ノ他海岸ニ關スル工事

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

三、河川、湖沼及其ノ堤防、土居、土揚、水制、護岸、波除、樋管、堰埭、閘門ノ新築改築及除却

四、運河、水路、溝渠、溜池ノ新築改築及除却

五、公有土地、水面ニ固著シ又ハ接續シ若ハ之ヲ横過シ又ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工事

六、堤外地ノ堀鑿及河川附近地ニ於テ其ノ河川ニ影響ヲ及スヘキ土地形状ノ著シキ變更

七、横濱市、横須賀市、久良岐郡、三浦郡及橋樹郡保土ヶ谷町、生見尾村地内ニ於ケル崖地ニ關スル工事

第二條 願書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一、出願ノ要旨及理由
- 二、起工地名
- 三、工事著手及竣功ノ豫定期日
- 四、出願年月日
- 五、出願人ノ住所氏名(出願人カ法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者名)
- 六、設計書、位置及設計工法ヲ知ルニ足ルヘキ圖面(縮尺適宜)
- 七、漬地アルモノハ其ノ漬地調査書
- 八、郡市町村大字名字地名番地目面積及其ノ所有者ヲ記入シ且之カ處分方法ヲ明示スヘシ
- 九、公共團體ノ議會ノ議決又ハ官廳ノ許可、認可ヲ要スヘキ事項ニ付キテハ其ノ議決ノ年月日及許可認可ニ關スル事項ヲ記載シタル書面
- 十、賃錢ヲ徵收スルモノニ在テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

一、賃錢額

二、徵收期間

三、收支計算

四、費用償却ノ方法

知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ利害關係者ノ同意書又ハ參考圖書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 本則ノ規定ニ基ク權利ハ相續ノ場合ヲ除クノ外知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得

相續ニ依リ權利ヲ承繼シタル場合ハ遲滞ナク其ノ旨届出ツヘシ

第四條 本則ノ規定及許可ノ條件ニ基ク義務ハ其ノ權利ト共ニ其ノ承繼者ニ移轉ス共同シテ許可ヲ受ケタル者ノ義務ハ連帶トス

第五條 左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ若ハ許可ノ條件ヲ變更シ又ハ設計工法ノ變更原形ノ回復若ハ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

一、願書其ノ他提出書類ニ虚偽又ハ錯誤ノ事實アリタルトキ

二、豫定ノ期間内ニ著手又ハ竣功セザルトキ

三、本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ

四、許可ノ設計工法ニ違背シタルトキ

五、工事ニシテ他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル虞アルトキ

第六條 法律命令ノ施行其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ

許可ヲ受ケスシテ第一條ニ掲ケタル工事ヲ施行シタルトキハ知事ハ期限ヲ指定シテ之カ全部又ハ一部ノ撤去若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ之ニ依リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七條 本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ基ク義務ヲ履行セザルトキハ知事ハ代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第八條 本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ依リ命シタル事項ノ爲ニ要スル費用及前條ノ費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ基ク處分ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九條 第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ科料又ハ拘留ニ處ス

附則

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第十條 本則ハ大正八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 明治三十二年八月縣令第六十號崖地取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十二條 本則施行以前ニ許可シタル第一條各號該當ノ土木工事ハ總テ本則ニ依リ許可シタルモノト看做ス

第十節 遺失物、埋藏物

●遺失物法

明治三十二年三月二十四日
法律第八十七號

改正 大正二年四月法律第四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遺失物法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法

第一條 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所特スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限ニアラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ノ返還ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條 警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手数ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス

賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス

第三條 拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第四條 物件ノ返還ヲ受ケル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條 第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過ケルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 拾得者ハ豫メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條 物件ノ返還ヲ受ケヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

物件ノ返還ヲ受ケヘキ各權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シ第一項ノ例ニ依ルコトヲ得
法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニアラス

第九條 拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ横領シタルニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日内ニ第一條第一項又ハ第十一條第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受ケルノ權利並ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

第十條 管守者アル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船車建築物等ノ占有者ヲ以テ拾得者トス自己ノ管守スル場所ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者亦同シ

本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ物件ヲ拾得シタル者ト折半スヘシ

第十一條 犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ

前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノヲ除ク外本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ公訴權消滅ノ日ヨリ一箇月間還付ヲ受ケル者ナキトキニ限り拾得者ニ於テ所有權ヲ取得ス

犯罪捜査ノ爲必要ナルトキハ警察官ニ於テ公訴權消滅ノ日マテ公告ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條 誤テ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件又ハ逸走ノ家畜ニ關シテハ本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシテ其ノ所有者知レサルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ

埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スヘシ

本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六箇月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 本法及民法第二百四十條第二項ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取得ノ日ヨリ六箇月内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

第十五條 本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付ヲ受ケル者ナキトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス

第十六條 (削除)

第十七條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

〔神奈川警〕

準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 埋藏物ニ關シテハ第十條ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ準用ス

學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシテ其ノ所有者知レサルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ

埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スヘシ

本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六箇月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 本法及民法第二百四十條第二項ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取得ノ日ヨリ六箇月内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

第十五條 本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付ヲ受ケル者ナキトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス

第十六條 (削除)

第十七條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則

●遺失物法施行細則

明治三十二年四月八日
内務省令第四號

遺失物法施行細則左ノ通之ヲ定ム

遺失物法施行細則

第一條 遺失物法第一條ニ定メタル公告ハ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模様及拾得ノ場所、日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳記シ十四日間最寄掲示場ニ掲示シ仍貴重ノ物件ト認ムルトキハ官報又ハ新聞紙ニ掲載スルモノトス

第二條 遺失物法第十條ニ依リ管守者物件ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察官署ニ送付スルト同時ニ便宜最寄ノ場所ニ於テ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模様及拾得ノ場所、日時ヲ掲示スヘシ但シ掲示ノ場所ヲ有セサルトキ

ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 遺失物法第二條ニ依リ、賣却ヲ要スル物件ニシテ高價ナリト認ムルモノハ公告シテ競賣ニ付スヘシ但シ即時ニ賣却セザレハ減失又ハ毀損ノ虞アル物件又ハ公告ノ後競買人ナキ物件ハ此ノ限ニ在ラス
公告ハ其ノ地方慣行ノ方式ニ從ヒ之ヲ爲シ且公告ニハ競賣ニ付スル物件ノ名稱、種類、數量、擔任官吏ノ氏名、執行ノ場所、日時ヲ記スルヲ要ス

第四條 賣却物件ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス競賣ノ場合ニ於テ最高價競買人競買當日ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物件ノ引渡ヲ求メザルトキハ更ニ其ノ物件ヲ競賣スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス

第五條 拾得ノ物件國庫ノ所有ニ歸シタルトキハ遺失物法第三條ニ依リ警察費ヨリ支辨シタル保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

●遺失物法施行細則中高價貴重ノ物件價格標準

明治三十二年四月
內務大臣訓第三五七號

省令第四號第三條中高價ノ物件トアルハ大凡其價格三十圓以上ノモノ又第一條中貴重ノ物件トアルハ三十圓以上ノモノハ勿論假令價格ノ評定スヘカラサルモノト雖モ特ニ尊重スヘキ性質ノ物件ヲ指ス儀ト心得ラルヘシ

●遺失物法取扱手續

明治三十二年五月十三日
廳訓第百十八號

改正 明治四二年一月訓令第三號、大正四年五月第二六號

警察署 警察分署

遺失物法取扱手續左ノ通之ヲ定ム
右訓令ス

遺失物法取扱手續

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第二條 遺失物法第一條ニ依リ拾得物ヲ差出シタル者アルトキハ拾得ノ場所、日時、物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模様等ヲ取調ヘ第一號様式ノ拾得物臺帳ニ記入シ差出人ニ署名捺印セシメ若シ署名スル能ハサルカ又ハ印形所持セザルトキハ其ノ事由ヲ記シ置クヘシ其ノ署名スル能ハサル場合ハ受付ヲ爲シタル者ニ於テ代書スヘキモノトス但シ代人ヲ以テ差出シタルトキハ其ノ代人ナルコトヲ附記スヘシ
書面ヲ以テ届出タルトキハ式ノ如ク臺帳ニ記入シ届書ノ欄外ニ第何號記入済ト記シ置クヘシ
臺帳ニ記入済ノ上ハ第二號様式ニ依リ領收證ヲ下付スヘシ但シ法第四條但書ニ依リ警察官吏稅務官吏公ノ法人其ノ他職務上拾得又ハ差押ヘタルモノハ領收證下付ヲ要セス
前各項ノ手續ヲ終リタルトキハ速ニ細則第一條ニ依リ公告ヲ爲スヘシ

第二條 巡查駐在所及派出所ニ於テ前條ノ拾得物ヲ受ケタルトキハ第三號様式ニ依リ假受領臺帳ニ記入シ第五號様式ニ依リ假領收證ヲ附與シ第四號様式ニ依リ所屬警察署ニ物件ヲ添ヘ報告スヘシ但シ拾得物ハ巡查駐在所ニ於テハ一時安全ナル場所ニ保管シ置キ遅クモ五日目毎ニ巡查派出所ニ於テハ毎日所屬警察署ニ送達スヘシ
前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ第一條ノ手續ニ依リ臺帳ニ記入シ假領收證ハ申出ニ依リ引換フヘシ

第三條 前二條ノ場合ニ於テ其ノ物件又ハ價格ノ僅少ナルカ又ハ拾得者ノ住所遠隔ナルトキハ遺失物法第七條ニ依リ拾得物ニ關スル權利ヲ放棄シ義務ヲ免ルルノ申告ヲ爲シ得ル規程アルコトヲ知ラシメ其ノ申立アリタルトキハ事由ヲ臺帳ニ記入シ置クヘシ但シ巡查駐在所及派出所ニ於テハ假受領臺帳ニ事由ヲ記入シ所屬警察署ヘノ報告書ニ附記スヘシ

第四條 拾得ノ物件ヲ差出シタルトキハ其ノ拾得地ノ所轄タルト否トニ拘ハラズ之ヲ受理シ細則第一條ノ手續ヲ爲シ一面關係ノ警察官署ニ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル警察官署ハ細則第一條ニ準シ揭示場ニ公告スヘシ但シ新聞ニ公告ヲ爲ストキハ其ノ期間ハ三日以内トス

第五條 鐵道停車場ニ於ケル多數ノ拾得物件ニ關シテハ便宜臺帳及受領ノ手續ヲ別ニシ整理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ他ノ拾得物ト混同セザル様取扱フヘシ

第六條 拾得者ニシテ領收證ヲ喪失シタルトキハ事實相違ナキモノニ限り更ニ普通露紙ヲ用キテ臺帳ト割印シタル

第二編 保安 第一章 安寧

四九一

第二編 保安 第一章 安寧

領收證ヲ下付シ臺帳ニ事由ヲ記載シ捺印スヘシ其ノ假領收證ニ係ルトキハ本證書ヲ下付スヘシ
第七條 保管スヘキ物件ハ年次番號(臺帳ノ番號ト同一)ヲ記シタル標札(木札又ハ厚紙札)ヲ付シ之ヲ一括ニ繫束シ置クヘシ

保管ノ場所ハ堅固ナル鎖鑰付ノ箱又ハ戸棚トシ閉閉ノトキハ一名以上ノ立會アルヲ要ス

重寶又ハ高價ノ物品若ハ貴重小形ノ物品ハ署長及主任者ニ於テ別ニ嚴戒ヲ加ヘ紛亂ノ恐レナキ場所ニ設置スヘシ

第八條 細則第一條中貴重ノ物件トアリ同第三條中高價ノ物件トアルハ大凡其ノ價格參拾圓以上ノモノトス其ノ價格ノ評定スヘカラサルモノト雖モ特ニ貴重スヘキ性質ノモノト認ムルトキハ貴重品ニ準シテ取扱フヘシ但シ假令參拾圓以上ノ價格ト認ムルモ保管費公告費ヲ償フニ足ラサルモノト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 家畜ノ類又ハ長大若ハ重量ナル物品ハ拾得者又ハ其ノ他ニ保管セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ保管費書ヲ徵シ置キ臺帳ニハ其ノ事由ヲ記入シ置クヘシ

巡查駐在所ニ於テ滅失又ハ毀損ノ虞アルカ又ハ保管ニ不相當ノ費用若ハ手數ヲ要スル拾得物ヲ受ケタルトキハ速ニ所屬署長ニ報告シ指揮ヲ受ケヘシ

第十條 拾得物ニシテ微細無價ノ物件ト認ムルトキハ報勞金ヲ算出スル能ハサルニ付拾得者ニ通告セシメテ處分スルコトアルヘキ旨申渡シ置キ臺帳欄外ニ其ノ旨ヲ記錄シ署長之ニ捺印スヘシ

第十一條 私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ノ拾得者ニハ遺失者アレハ遺失物法第四條ニ依リ報勞金ヲ給セシメ其ノ遺失者カ適法ノ所有所持者ナルトキハ返還ノ手續ヲ爲シ否ラサルトキハ法令ノ規定ニ照ラシ處分スヘシ

第十二條 遺失物法第十五條ニ依リ國庫ニ歸屬スヘキ物件ハ保管期限ヲ過キタル後三十日以内ニ左ノ區別ニ從ヒ處分スヘシ

一 賣却スヘキ物件ハ別ニ定ムル方法ニ從ヒ處分スルコト

二 各種ノ印紙切手郵便葉書ハ二人以上立會ノ上燒棄スルコト

三 印影又ハ印願ハ印面ヲ磨滅スルコト

(神奈川警)

(神奈川警)

四 勳章從軍記章赤十字社員章其ノ他ノ章ハ其ノ下附シタル衙署又ハ社ニ交付スルコト

前項第三條ノ規定ハ拾得者ニ給スル場合ニモ適用ス

第十三條 遺失物法第十一條ニ依リ犯罪者ノ置去リタル物件ノ取扱ハ總テ此ノ手續ヲ準用ス但シ第一條第二條ノ簿冊ハ普通ノ拾得物件ト別冊ニ爲スカ又ハ一簿冊中座別ケテ爲スヘシ

第十四條 罰金店旅人宿湯屋其ノ他ノ市店ニ於テ客ノ取換ヘタル物件又ハ代價ヲ拂ハスシテ立去リタル場合ニ殘シ置タル物品ハ遺失物法第一條他人ノ遺失シタル物件ニ準シ處分スヘシ

第十五條 埋藏物ハ遺失物法第十三條ニ依リ取扱ヒ細則第一條ニ依リ公告シタル後民法第二百四十一條ニ基キ六ヶ月經過ノ後細則及此ノ手續ニ準シ處分スヘシ

第十六條 埋藏物ニシテ學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキモノト認ムルトキハ其ノ發掘ノ年月日、場所及場所ノ經歷、物品ノ名稱、種類、數量、形狀(圖式)、模様、口碑其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ヲ記シ處分方稟請スヘシ

第十七條 拾得物件ニシテ公告ヲ爲シタル後一ヶ月ヲ過キタルモノ及埋藏物ニシテ公告ヲ爲シタル後六ヶ月ヲ過キタルモノ尙ホ三十日以内ニ物件ヲ引取ラサルトキハ郵便葉書其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ權利者ニ一應催告スヘシ

第一號様式 (表面)

拾得品	拾得場所	拾得日時		領收者	公告	
		月	日		何年何月何日	何年何月何日
一衣類(地質色合)	何市何町何丁目何處ニ於テ	何月	何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
一時計(香爐種類)						
一金何程						
何枚						
何個						
公場	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
其新聞何々	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
官報又ハ何々	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

四九四

得物臺帳		官滿	
拾得者	目	報勞金	沒期
住 氏 所 代 人 氏 所 名 名 名 名	右ノ内何々ハ何々ノ事由ニ因リ賣却シ代 金何程ヲ保管ス 外ニ賣却費金何程ヲ支辨ス	何 程	何 年 何 月 何 日
		何 程	何 年 何 月 何 日
備 考		人 管 保	氏 名 住 所 氏 名
記載例 一拾得者ハ英國人某ニシテ旅行中ニ付取 得權報勞金等ヲ抛棄スル旨申立ツル ；署長印以下同シ 一細微ノ物品ナルヲ以テ取得權ヲ抛棄ス ル旨申立ル 一何々ニ付國庫ニ歸ス 一年月日受領證盜難又ハ亡失ニ付書換下 付ス 一何々		氏 名 住 所 氏 名	月 日 何 年 何 月 何 日

第二號様式

署長 官印

第何號 拾得物受領證

住 所

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

拾得者 氏 名

一何々 何 枚
 一何々 何 個
 一何々 以上

右受領致置候也
 明治何年何月何日

何警察(分)署長

警 部 氏 名

名 官印

凡 例

- 一 番號ハ毎年之ヲ改ムヘシ
- 二 臺帳及領收證ノ番號ハ同一トス
- 三 滿期下付濟ニ付返納シタル領收證ハ一括トシ三ヶ年間保存スヘシ
- 四 各欄記入シ能ハサル事項ハ備考ニ附記スヘシ

第 二

拾得者ノ注意

一 拾得者ハ公告(十四日間)後一箇年内ニ拾得物件ノ所有者知レサルトキハ其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二編 保安 第一章 安寧

四九五

第二編 保安 第一章 安寧

面裏式様一第

- 二 所有權取得者ハ六箇月内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ルヘシ若シ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス
- 三 前項ニ依リ物件ヲ引取ル者ハ物件ノ保管費公告費其ノ他ノ費用ヲ負擔スヘキモノトス但シ一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルコトヲ得
- 四 此ノ領收證ヲ有スル者住所ヲ移轉シタルトキハ速ニ當署ヘ届出ツヘシ

表書ノ物品領收仕候也
明治何年何月何日

氏 名

面裏式様一第

第三號様式 (表面)

物得拾

第何號

一衣類(地質色合
模様等)

何枚

住所

拾得者 氏

名

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

假受領臺帳

一時計(種類番號
器械等)

何個

一金何程

以上
右何年何月何日何時何處ニ於テ拾得ス

第何號

拾得物報告書

住所

拾得者 氏

名

一衣類()

何枚

一時計()

何個

一金何程

以上

印

拾得物假受領證

住所

拾得者 氏

名

一衣類()

何枚

第五號様式

第二編 保安 第一章 安寧

一時計() 何個
一金何程 以上

右假ニ受領シ現品ハ何警察(分)署ニ送致ス但シ本書ハ追テ本證書ト引換ヲ要ス
明治何年何月何日

何警察(分)署
何地巡查駐在所又ハ何地派出所
巡查 氏 名

凡例

- 一 此ノ臺帳ハ巡查駐在所又ハ派出所ニ備フ
- 二 臺帳表紙表面ニハ拾得物假受領臺帳及備付駐在所又ハ派出所名ヲ記シ裏面ニハ表紙ヲ除キタル紙數交附年月日及臺帳用紙ハ書損スルモ破毀スルコトヲ得スト記シ署長檢印スヘシ
- 三 臺帳報告書及受領證ノ番號ハ同一トシ豫メ記入ノ上備付クヘシ
- 四 本表ニトアルハ取扱巡查ノ認印トス
- 五 長大又ハ重量ノ物品ハ拾得者又ハ其ノ他ノ者ニ保管セシメ其ノ事由ヲ報告書ニ附記シ保管請書ヲ添付スヘシ

第五號式樣裏面

- 一 本書ハ二ヶ月以内ニ成ルヘク現品送致シアル警察官署ニ本證書ト引換方請求スヘシ但シ遠隔ノ地ハ郵便切手ヲ添ヘ郵便ヲ以テ請求スルモ妨ケナシ
- 二 本書ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ本證書ヲ受取ルヘシ
- 三 法令ノ規定ニ依リ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ナルトキハ本證書ヲ下付セス
- 四 表書ノ物件ハ受領ノ日ヨリ五日以内ニ所屬警察官署ニ送致シ置クモノトス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第四號式樣裏面

表書ノ物品明治何年何月何日何時何市何町何字何地ニ於テ拾得シタルニ付假受領證附與致置候間現品相添此段及報告候也
明治何年何月何日
何地巡查駐在所(又ハ何地巡查派出所)
警察(分)署長殿
巡查 氏 名

第三號式樣裏面

表書ノ物件ハ明治何年何月何日所屬署ニ送致ス(又ハ何郡市何町村何字何番地何ノ誰ニ一時保管セシメアリ)
取扱巡查 氏 名

●遺失物拾得物届出方

明治二十年三月七日
告示第二十三號

自今金圓物品ヲ遺失又ハ拾得セシトキハ其員數模樣及日時場所等ヲ最寄警察署又ハ分署巡查派出所若クハ交番所ヘ口述又ハ郵便葉書ヲ以テ届出ルコトヲ得但拾得ニ係ル物品ハ持參スルノ外郵便ニ付スル等便宜送致スルコトヲ得

●拾得ニ關スル體面毀傷ノ金貨處分方

明治十四年十二月

拾得シタル體面毀傷之金貨處分之儀ニ付別紙之通何濟ニ有之候間此段及通達候也

(別紙)

拾得シタル體面毀傷ノ金貨處分之儀ニ付何

通用貨幣ヲ溶解又ハ其體面ヲ毀傷シ其他流通用ヲ缺クノ所爲ヲナスヘカラサル旨明治十一年一月第二號ヲ以テ公布相成居候處茲ニ金貨ノ體面ヲ些シク缺傷シ襤褸ノ飾釦ニ製作シタルモノヲ拾得テ届出一箇年ヲ經過スルモ其主分明ナラサルモノ有之右ハ遺失物取扱規則第十二條ニヨリ官沒スルモ尤當ナラス去リ速之レヲ在形ノ儘ニテ拾得者ヘ下附スルモ又尋當ナラサル様思考致シ候ニ付其體面ヲ毀傷シタル金貨ヲ切斷全ク潰金トナシ下附シ可然哉差掛リ疑義ヲ生シ相伺候間至急何分ノ御指揮有之度候也

十四年十一月二十二日

縣長 官名

内務卿殿

指令 十四年十二月二十日

伺之通

●遺失物件取扱方ノ件

大正十一年一月十二日
西警保收第九〇四七號

遺失物件取扱方ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答置候旨内務省警保局長ヨリ通牒有之候條依命此段及通達候也

(甲號)會第二〇一二號大正十年七月二日大阪府知事ヨリ警保局長宛

遺失物件取扱方ノ件

遺失物中金貨ヲ其所持ノ方法トシテ環ニ嵌メ込(時計若ハ帶留等ノ裝飾用ニ供シタルモノ)或ハ鎖輪ヲ施シ開キ難キ候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

容器ニ收メタル場合(セルロイト製ノ囊中ニ在ルモノ)等有之候處金貨タルコトヲ認メ文字枚章等ニ對シ何等變改毀損ヲ加ヘサル場合ノ取扱方ニ關シ左記ノ通り甲乙二説有之候條貴見承知致度目下差懸リタル事件モ有之候ニ付電報ニテ御回答相煩度此段及照會候也

甲、之ヲ金庫ニ寄托スル爲メ金貨ヲ包容物(環或ハ容器等)ヨリ取出スニハ包容物ニ毀損與ヘサレハ取出シ難ク即チ遺失物ニ損害ヲ與ヘ而モ容器ヨリ取出スニ特殊ノ技術ヲ施ス場合ニハ之カ爲ニ費用ヲ要スルコトナキヲ保セス然ルトキハ利害關係人ニ損害ヲ與フルモノナリ而モ一旦之ヲ金庫ニ拂込ムトキハ明治三年頃發行セル五圓拾圓等ノ金貨ニシテ容易ニ求メ難キモノト雖拂渡ノ際金庫ハ有合セノ通貨ヲ以テ仕拂ヒ遺失當時ノ金貨ヲ得サルヘシ然ルトキハ遺失者若ハ拾得者ノ所有權ヲ侵害スルノミナラス遺失物其ノ物ヲ交付シ權利者ヲ保護スル遺失物法ノ精神ニモ悖ルモノト認メラルルニ付之ヲ物品トシテ警察署ニ保管スヘシ

乙、右ハ金貨ヲ所持スル一種ノ方法ニ過キササルヲ以テ保管物取扱規程(明治二十六年九月大藏省令第二〇號)ニ依リ金錢トシテ金庫ニ寄托スル爲メ前記甲號ノ如キ處分ヲ爲スモノニシテ多少遺失物ヲ毀損シ又ハ遺失當時ノ金貨ヲ與ヘサルモ規定ノ結果ニシテ權利ノ侵害ニアラス故ニ此場合ハ現金トシテ寄托スルヲ當然トス

(乙號)阪警第四三號大正十年十二月二十六日警保局長ヨリ大阪府知事宛

遺失物件取扱方ノ件回答

七月二日附會第二〇一二號ヲ以テ遺失物件取扱方ニ關シ御照會相成候處右ハ金貨ニアラサル物件トシテ取扱可然ト存候右經伺ノ上申進候

●遺失物贖物ノ還付又ハ徵收處分方

明治二十八年十二月
示令第七五號

古物商取締法第十七條質屋取締法第十六條ニ據リ遺失物若ハ贖物ノ還付又ハ徵收處分ヲ爲スハ其物件ノ遺失物若クハ贖物タルコトヲ正確ニ認メタル場合ニ限ルヲ以テ若シ疑アル物件ニ對テハ司法警察ノ手續ヲ履行スル儀ト心得ラ

●拾得物處分方ノ件

明治三十二年六月一日
松發第一七八號松田警察署長伺

官設鐵道停車場及該鐵道線路汽車中ニ於ケル拾得物ニシテ法定ノ期間ヲ經過シ返還ヲ受ケル者ナキトキハ從來ヨリ同驛長ヘ還付シ來候處明治三十二年三月法律第八十七號遺失物法實施後前顯ノ場合ニ於テハ一般官署ノ拾得物ト同様法第十五條ニ據リ處分シ該驛長ヘ還付セサル義ト心得然ルヘキヤ
警二受第二五五號 三十二年七月十七日警務長回答
明治三十二年六月一日付松發第一七八號稟議拾得物處分ノ件ハ遺失物法第十條第二項ニ據リ占有者ヲ以テ拾得者トシ取扱フ義ト心得ヘシ

●拾得物處分方ノ件

明治三十三年五月
示令第七一號

遺失物法第十條ニ依リ官廳ニ屬スル船車建築物其他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ拾得シタル物件ニシテ國庫ノ處有ニ歸スル場合ハ其拾得届ヲ受ケタル警察官署ニ於テ現金ハ直ニ物品ハ賣却ノ上收入シ特別會計ニ屬スル官廳カ拾得者タル場合ハ現金物品トモ其官廳ニ引繼クコトニ各省協議濟ノ趣其筋ヨリ通牒有之候條此旨心得ヘシ

●遺失物拾得ニ關スル取扱方ノ件

明治三十二年六月二日
警保局長通牒

別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答致置候條此段通及譯候也

(別紙)

甲號 (明治三十二年五月十六日第二九四四號)
警保局長照會

本年三月法律第八十七號ヲ以テ遺失物法發布相成候處該法施行以前舊法ニ依リテ保管中ノ金錢物品ニシテ既ニ數箇

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

月若クハ四五年ヲ經過シタル分有之右等ニ對シテハ本法第十四條期間起算方ハ如何取扱可然哉聊カ提議ニ涉リ候間至急何分ノ御回答ヲ煩度此段及御問合候也

乙號 (明治三十二年六月二日)
警保局長回答

客月十六日付第二九四四號庶務課長宛遺失物法第十四條ニ付御問合ノ趣了承則チ左記ノ通り被存候右ハ本局主管ノ事務ニ條條經何ノ上此段及回答候也

- 一 遺失物拾得ノ時期舊法ノ時代ニアルモ所有權取得ノ時期新法施行後ニアルモノハ新法第十四條ニヨリ所有權喪失ノ期間ハ其ノ取得ノ日ヨリ起算ス
- 一 遺失物拾得及所有權取得ノ時期舊法ノ時代ニアリタルモノハ新法第十四條ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ起算ス

●警察官吏ノ拾得シタル遺失物ノ取扱ニ關スル件

明治三十二年六月六日
警甲第一九號警保局長

廳府縣長官宛

別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答置候條此段及通牒候也

甲號

愛知縣知事照會(明治三十二年四月二十八日)
警保發第一七〇號

遺失物件取扱上左ノ件ニ疑義有之候條貴見及御問合候也

記

- 一 遺失物法ニハ警察官吏ニ係ル明文ナシ故ニ一般人民同様取扱可然哉
- 二 前項然リトセハ遺失物法施行以前ニ於テ已ニ警察官吏ノ拾得ニシテ榜示後保管中ノモノモ尙拾得者タル警察官吏ニ給付スヘキヤ

乙號

警保局長回答(明治三十二年六月六日)

本年四月二十八日付警保發第一七〇號ヲ以テ遺失物ノ件取扱ニ關シ御同合ノ趣了承右ハ官吏職務上拾得シタルモノハ國庫ニ於テ拾得シタルモノトシ御取扱相成度從テ遺失物法施行前拾得ニ係ル物件モ右ニ依リ御取扱相成度此段決裁ヲ經テ及回答候也

遺失葉煙草取扱方ノ件

明治三十二年三月 示令第二三號

遺失葉煙草處分方ノ儀ニ付警保局長ヨリ左ノ如ク通牒アリ

警甲第七號ノ内(警保局長通牒) 葉煙草專賣法施行後ニ在リテハ政府ヨリ賣渡ササル葉煙草ハ一般ニ公賣ニ付スルヲ得サルヲ以テ遺失葉煙草ハ其ノ所有者知レサルトキハ法定期間後總テ葉煙草ノ儘拾得者ニ交付シ若シ官沒セラレヘキモノナルトキハ官沒ノ上無價ニテ葉煙草專賣所ヘ引渡スヘキコトニ大藏省ト協議決定候ニ付爲御心得依命及通牒候也

遺失葉煙草其ノ他取扱方ニ關スル件

明治三十八年七月十四日 警甲第二八號ノ内警保局長通牒

遺失物法ニ依リ届出ヲ受ケタル葉煙草、製造煙草、煙草代用品及其ノ原料煙草製造器械並ニ卷紙取扱方ニ關シ大藏省ト協議ノ上別紙各項ノ通決定候ニ付依命此段及通牒候也

(別紙)

一、葉煙草政府ノ證券ヲ付セサル製造煙草(葉煙草專賣法ニ依リ民間ニ於テ製造シタル製造煙草ヲ除ク)煙草製造專用ノ器具機械卷紙ハ物件返還ヲ受ケヘキモノ煙草專賣法ニ依リ右物件ヲ所有スルコトヲ認メラレタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ依リ之ヲ返還スヘキハ勿論ナルモ其ノ他ノ場合ニ於テハ右等物件ハ煙草專賣法ニ依リ私ニ所有

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ其ノ届出ヲ受ケタルトキハ遺失物法第一條第一項但書及同第八條第三項ニ依リ之ヲ處分シ其ノ葉煙草ハ最寄葉煙草收納所ニ其ノ他ノ物件ハ最寄煙草製造所ニ無價ニテ引繼ナ爲スヘシ

- 二、物件ノ返還ヲ受ケヘキ權利者煙草專賣法ニヨリ右等物件ヲ所有スルコトヲ認メラレタル者ナルトキト雖モ其ノ權利ヲ拋棄シ又ハ法定期間内ニ於テ引取ヲ爲サス爲メニ右物件國庫ニ歸シタル場合ニ於ケル該物件ノ處分ハ前項ニ同シ
- 三、遺失物法第二條第一項ニ依リ前項ノ物件ヲ處分セントスルトキハ第一項ノ區分ニ依リ有價引繼ヲ爲スヘシ但シ第二條第一項ノ處分ハ事實已チ得サル場合ニ於テ之ヲ爲スヲ要ス
- 四、政府ノ證券アル製造煙草舊葉煙草專賣法ニ依リ民間ニ於テ製造シタル製造煙草代用品及其ノ原料煙草製造專用ニアラサル器具機械遺失物法第十五條ニ依リ國庫ニ歸屬シタルトキハ政府ノ證券アル製造煙草ハ最寄製造所ニ無價引繼ヲ爲シ煙草代用品及其ノ原料ハ之ヲ廢棄シ其ノ他ノ物件ハ一般遺失物ノ例ニ依リ適宜處分スヘシ
- 五、物件引繼ノ爲メ要スル運搬費ハ引受官署ニ於テ負擔ス

遺失葉煙草取扱方ノ件

明治四十一年八月十九日 警保發第五九一〇號保安課長通牒

遺失物法ニ依リ届出ヲ受ケタル葉煙草其ノ他ノ取扱方ニ付テ左記ノ通り其筋ヨリ通牒有之候條右様御取扱相成度候也

左記

内務省警甲第二一號(明治四十一年八月十日警保局長通牒) 遺失物法ニ依リ届出ヲ受ケタル葉煙草其ノ他ノ取扱ニ付テハ明治三十八年七月十四日付警甲第二八號ノ内ヲ以テ及通牒置候通り舊葉煙草專賣法ニ依リ民間ニ於テ製造シタル製造煙草ハ遺失物法第十五條ニ依リ國庫ニ歸屬スヘキ場合ニ於テハ當該警察官署ニテ適宜處分スヘキコトニ相成居候然レニ卷煙草ニ付テハ明治三十九年四月大藏省令第十四號別煙草ニ付テハ本年四月同省令第十四號ヲ以テ何レモ政府ノ定メタル證券ヲ貼付スルコト、相成候ニ付テハ煙

草專賣法第三十四條ニ依リ私人ニ於テ右貼付ナキ該煙草ヲ所持シ又ハ授受スルコトヲ得サル儀ニ有之隨テ所有權國庫ニ歸屬ノ場合ニ於テモ警察官署ニ於テ便宜賣却スルコトヲ得サル次第二付自今右證票ナキ民間製造煙草ノ遺失物タル場合ニハ其卷煙草タルト刻煙草タルトナ間ハス總テ當該警察官署ニ於テ最寄煙草製造所ヘ無償引繼候様致度大藏省ト協議ノ上此段依命及通牒候也

追テ物件引繼ニ要スル運搬費ハ引受官署ニ於テ負擔スル儀ニ有之候此段爲念申添候

●拾得物ノ公告ニ關スル件

明治三十二年七月二十四日
內務省警甲第三七號警保局長通牒

遺失物法施行細則第一條ニ依リ官報又ハ新聞紙ニ掲載スルハ十四日ノ揭示期間ニ一回又ハ數回必要ト認ムル程度ニ於テスヘキモノニシテ揭示期間掲載ヲ要スル義ニハ無之其ノ掲載ノ如キモ必スシモ廣告欄ニ公告ヲ要セス彙報、雜報公文欄等ニ便宜ノ方法ヲ以テ記載セシメラレ可然要スルニ廣ク告知ノ手段ヲ盡サシムルノ趣旨ニ過キス尤民法第二百四十條ノ所有權取得期間ハ官報新聞紙ノ掲載如何ニ拘ハラズ揭示期間滿了ノ次日ヨリ起算スル義ニ候條右様御了知相成度疑義有之哉ニモ聞及候ニ付依命此段及通牒候也

●遺失物取扱方ノ件

明治三十八年十二月
示令第六六號

明治三十二年五月廳調第一百八號遺失物取扱手續第二條ニ依リ巡查駐在所又ハ派出所ニ於テ取扱ヒタル拾得物ヲ所屬警察官署ニ送致スルトキハ假受領臺帳ヲモ同時ニ送致シ該臺帳裏面餘白ニ物品受領ノ證明ヲ與フヘシ

●遺失物法ニ據ル保管物件公賣處分ニ關スル件

明治三十九年六月二十六日
四保發第一一二號保安庶務兩課長通牒

遺失物法ニ據ル保管物件公賣處分ニ關スル稟議區區ニ涉リ審査ニ手數ヲ要シ間數次ノ往復ヲ要スルモノ有之事務處理上不都合有之候ニ付自今本件稟議ニハ左記様式書類添付相成候様致度依命此段及通牒候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

〔様式〕

公賣保管物件表

拾得月 年月日	公告 年月日	保管満期 年月日	拾得 品目	數量	引取方 年月日	直チニ公賣ニ附 スヘカラサル物 件處置方法	評價格	備 考
------------	-----------	-------------	----------	----	------------	-----------------------------	-----	--------

備考欄ニハ棄權又ハ賊置去リ品證據物件ニ對スル罪質等ヲ記入スルコト

●得遺失食鹽取扱方ノ件

明治三十九年四月十六日
四保收第二五八九號保安課長依命通牒

遺失物法ニ依リ届出ヲ受ケタル鹽ニシテ政府ヨリ賣渡タルモノニアラサルトキハ鹽專賣法第三十四條ニ依リ該鹽ハ鹽務局ヘ交付可相成ハ勿論ニ候ヘ共政府ヨリ賣渡タルモノナルコト判明ナラサル鹽モ遺失物法第二條ニ依リ處分シ而シテ該鹽ハ之ヲ賣却セス所轄鹽務局ニ交付シ專賣法第三十四條ノ賠償金ヲ以テ賣却代金ト看做シ處理スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條依命此段及通牒候也

追テ右運搬ニ要スル費用ハ鹽務局ニ於テ支拂スル筈ニ有之候

●國庫ニ歸屬ノ收入印紙郵便切手類取扱方ノ件

明治四十三年二月二十四日
逓信省訓令第一號

裁判所 警視廳 北海道廳 府縣

法令ノ規定ニ依リ國庫ニ歸屬シタル收入印紙及郵便切手類ハ種類員數ノ明細書ヲ添ヘ之ヲ最寄郵便官署ノ當該會計官吏ニ引渡スヘシ

本訓令ニ概綱スル從前ノ訓令達示等ハ之ヲ廢止ス

●官廳力拾得シタル遺失物取扱ニ關スル件

第二編 保安 第一章 安寧

明治四十四年八月十一日
 內務省警發第九二號會計課長通牒
 官廳力拾得シタル遺失物取扱ニ付テハ明治三十三年五月警甲第一〇號ノ内ヲ以テ當省次官ヨリ各省協議決定ノ次第ヲ以テ及通牒置候處昨年八月大藏省主計局長ヨリ各支金庫ニ發セラレタル通牒ハ前決定ト副ハサル錄有之候趣ヲ以テ御照會ノ向有之候ニ付テハ同省ト協議中ノ旨夫々及回答置候處右ハ明治三十三年通牒ニ依ル從來ノ取扱ヲ變更セサルコトニ協議決定候條御了知相成度候尤モ官廳力拾得シタル現金金庫ニ委託スル場合ニ於ケル期滿失効期間ノ件ニ關シテハ同省限リ相當措置可相成候條此亦御了知相成度此段及通牒候也

●公私債證書拾得届出ノ際ニ於ケル取扱方ノ件

明治四十年十月十一日
 警保收第七二九四號保安課長通牒

公私債證書拾得届出有之候際ニ於ケル取扱方ニツキ其筋ヨリ左記ノ通り通牒有之候條爾今右ニ據リ御取扱相成度此段依命及通牒候也

左記

內務省警甲第二四號(明治四十年十月九日警保局長通牒)
 公私債證書遺失ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付テハ豫テ御問合ノ向ニ對シ舊遺失物取扱規則ニ於テハ遺失物ヲ以テ論セサルノ明文アリタルニ依リ格別ナレトモ新法ニ在リテハ之レニ異ルヲ以テ法定期間内ニ遺失者不明ノ場合ニハ拾得者ニ交付スヘキ管ノモノニ可有之尤モ此ノ場合ニ於テハ公告又ハ其ノ他ノ方法例ヘハ其ノ發行者ニ照會シ且執レノ場合ニテモ公示催告ニ注意シ殊ニ記名式ノモノニ在リテハ記名者ニ通知スル等ノ方法ニ依リ可成返還ノ途ヲ求メラレタキ旨經伺ノ上申置候處國債證券及利札紛失ノ場合ニ付テハ日本銀行ニ於テ官報ニ廣告スヘキニ付右拾得ノ届出アリタルトキハ官報廣告ニ依リ或ハ日本銀行其ノ取扱店又ハ派出所ニ就キ紛失届出ノ有無ヲ確メタル上相當措置相成候條致度此段及通牒候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

●拾得物取扱ニ關スル件

明治四十四年十月二十四日
 內會第九四三號內務部長

官廳ノ拾得金チ警察署ヨリ保管ノ爲メ金庫ヘ寄託スル場合ニ於テ送付書ニ記載スヘキ滿期失効年月日ニ付七月十九日付內會第六〇九號ヲ以テ及通牒置候處今般該通知ノ趣旨ニ關シ事務取扱上誤解ナキ様念爲左記事項其筋ヨリ通牒有之候條右ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也

左記

- 一、官廳ニ於テ拾得シタル物件ヲ規定ノ手續ニ依リ警察官署カ公告シタル後一ケ年ヲ經テ遺失主ヨリ其申出ナキ場合ハ一般會計所屬官廳ノ拾得ニ係ルモノニ付テハ警察官署ニ於テ直ニ歳入ニ收納(物品ナレハ賣却ノ上)スル手續ヲ爲シ又特別會計所屬官廳ニ係ルモノニ付テハ警察官署ヨリ當該官廳ヘ引繼ナ爲スヘキモノナリ
- 二、警察官署ニ於テ遺失者ノ權利喪失後一年間前號ノ手續ヲ爲ササル時ハ金庫ハ右寄託金チ保管スル義務ヲ免レ保管物取扱規程第十四條ニ依リ之レチ歳入ニ編入スルモノトス
- 三、警察官署ハ便宜保管物取扱規程第二十一條第二項ニ依リ金庫側ニ於テ歳入シ編入セシムルモ差支ナシ(但此ノ場合ハ警察官署ノ歳入トナラス)

●遺失物取扱ノ件

大正二年四月十六日
 丑警保收第二〇〇一號保安課長通牒

遺失物取扱ニ關シ別紙ノ通內務省警保局長ヨリ通牒有之候條該通牒ノ趣旨ニヨリ御處理相成度依命此段及通牒候也(別紙)

內務省警第一七〇一號(大正二年四月十日警保局長通牒)
 今回遺失物法中改正セラレ拾得者ノ所有權喪失期間ハ六箇月ニ短縮セラレ候ニ付テハ拾得者所有權取得ノ際ハ今後一層注意ヲ加ヘラレ速ニ物件ノ引取ヲ促スノ方法ヲ講シ同期間内ニ引渡ノ事務ヲ完了シ空シク權利喪失ニ歸セシメサル様相當御措置相成度尙同法改正ノ條項ハ改正前ニ於ケル事實ニ對シテモ適用有之次第ニ付夫々關係ノ向ヘ周知ノ手續ヲ取ラレヘク殊ニ同法改正法律施行期日後六箇月ノ期間到來スヘキモノ又ハ同施行期日迄ニ六箇月ヲ經過スヘキモノニ付テハ此際特ニ御注意相成候條致度

●價格少ナキ拾得金品ノ取扱ニ關スル件

大正元年十一月十六日
內務省警第九〇一號警保局長

遺失物法ニ依ル拾得金品ニシテ其ノ價格ノ少ナキモノニ在テハ拾得者ニ下附スル等便宜ノ處分ヲ爲シ得ルノ規定ヲ設ケラレタキ旨申出ノ向有之候處右ハ同法第七條ヲ活用スルニ於テハ便宜ノ處分ヲ爲シ得ル次第ニ付相當御指置相成候様致度依命此段及通牒候也

●逃走セル蜜蜂集團取扱ノ件

大正二年八月九日
內務省警第三二四〇號ノ內務保局長通牒

本件照會ノ向ニ對シ左記ノ通り回答致候

岐阜縣知事伺出ニ對スル回答

本年五月十三日附保第五五六〇號ヲ以テ本件御照會ノ趣丁承右蜜蜂ハ家畜外ノ動物ニシテ遺失物法第十二條ニ依ル逃走ノ家畜ニ該當セサルヲ以テ遺失物ノ取扱ヲ爲スヘキモノニ非ラズト存候

●遺失物ニ準シ取扱タル阿片ノ處分方ノ件

大正四年五月十二日
神高祕收第三二二一號神奈川縣知事稟申

本月七日日本號附既報英國汽船ベシリキス號船長ヨリ届出ニ係ル阿片煙膏ハ遺失物法ノ規定ニ依リ國庫ニ歸屬セシムヘキモノト思料スルモ之ヲ取扱方ニ關シ如何處分致シ可然哉何分ノ御指揮相仰度此段及稟申候也

警保局長回答大正四年七月二十六日內務省警第一八號

本年五月十二日付神高祕收第二三二一號ノ内ヲ以テ阿片煙膏處分方ニ關シ稟申相成候處右ハ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持ヲ禁シタル物件ナルヲ以テ遺失物法第十五條ニ依リ其ノ所有權國庫ニ歸屬スヘク而シテ東京衛生試驗所ハ其ノ官制ノ規定ニ依リ阿片ニ關スル調製事項ヲ管掌スルヲ以テ葉煙草及鹽ノ遺失物タル場合專賣局ニ引繼クノ例ニ依リ右阿片煙膏ハ同試驗所ニ引繼クトニ相成候條條保管轉讓方相當御取扱相成度尤モ右運搬ノ費用ハ同衛生試驗所ニ於

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

テ負擔スヘキ義ニ有之候條御了知相成度候

●遺失物取扱ノ件

大正五年九月十六日
辰警保收第七一〇一號

陸海軍ニ於ケル記章ニシテ遺失物タル場合ニ於ケル取扱方ニ關シ別紙寫ノ通り通牒有之候條趣旨ニ基キ御取扱ヒ相成度依命此段及通牒候也

〔別紙〕

遺失物取扱ノ件(大正五年九月十六日內務省發警第五七號)

海軍ニ於ケル記章(勅令ニ依リ制定セラレ特ニ海軍軍人ノ佩用シ得ル記章(明治四十四年九月海軍省告示第九號參照)遺失ノ場合ニ於テ法定ノ期間内ニ遺失者發見セサルトキハ海軍省人事局へ廻送相成度右廻送ノ費用及報勞金等ハ同局ニ於テ支辨セラレヘキ旨ニ付請求方相當御取計相成度候

追テ陸軍ニ於ケル勅令ノ規定ニ依ル各種ノ記章ニシテ遺失物タル場合遺失者不明ノトキハ大正元年十一月十六日附警第九〇一號通牒後段ノ通り遺失物法第七條ヲ活用シ拾得届出ノ際ニ於テ便宜ノ取扱ニ出テラレ法定期間經過後ニ在リテハ現形毀損ノ上公賣處分相成差支無候條御了知相成度爲念申添候

●拾得届出ニ係ル郵便爲替券及小爲替券處理ニ關スル件

大正六年十二月六日
巳警保收第一八八三號保安課長通牒

本件ニ關シ朝鮮總督府警務總長ヨリ別紙甲號寫ノ通照會有之候條何ノ上乙號寫ノ通照會致置候趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度依命此段及通牒候也

〔別紙〕

拾得届出ニ係ル郵便爲替券及小爲替券處理ニ關スル件

(大正六年十二月三日內務省開警第六號警保局長通牒)

本件ニ關シ朝鮮總督府警務總長ヨリ別紙甲號寫ノ通照會有之候條何ノ上乙號寫ノ通照會致置候條御參考ノ爲申進候也

(甲號)

(會第九〇九七號大正六年十月十九日朝鮮總督府警務總長對警保局長)

拾得届出ニ係ル郵便爲替券及小爲替券處理ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ左記事項ノ取扱振承知致度候條乍御手数御回報煩度及照會候也

左記

- 一、拾得届出ニ係ル郵便爲替券及小爲替券ハ之ヲ保管スル警察官署ニ於テ遺失物件トシテ遺失物法ニ依リ取扱相成候哉將タ又届出ヲ受ケタル警察官署ハ之ヲ遺失物件トシテ取扱ヲ爲サス直ニ最寄郵便官署ニ廻送相成候哉
- 二、遺失物件トシテ取扱フトキハ受領人無指定ノ小爲替ノ如キハ直チニ警察官署ニ於テ現金ニ引換相成候哉又郵便爲替法第十條ニ依ル郵便爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタルトキハ報勞金其ノ他ハ如何ニ取扱相成候哉
- 三、遺失物法ニ依リ取扱ハサルトキハ拾得者ニ對シ報勞金ハ如何ニ取扱相成候哉
- 四、以上ノ外御氣付ノ事項

(乙號)

(警保局長回答開警第六號)

客月十九日付會第五〇九七號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ左記ノ通ニ有之候條御了知相成度候

左記

- 一、郵便爲替證書又ハ受領人指定ノ小爲替證書拾得届出テタル者アルトキハ單ニ該紙片ヲ拾得シタルニ止マリ證券記載ノ權利ヲ取得シタルニ非ラサル旨ヲ懇示シ一方記名者又ハ發行郵便官署ニ通知スル等可成遺失者又ハ差出人等ニ返還スヘキ途ヲ講スルノ取扱ニ有之候
- 二、受領人無指定ノ小爲替證書ニ在リテハ届出ヲ受ケタル警察官署ニ於テ便宜現金ト引替ノ上之ヲ拾得物ト看做シテ相當保管ノ手續ヲ爲シ且ツ拾得物臺帳ニハ右小爲替證書ノ記號番號發行年月日及郵便官署名並現金ト引換ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ置キ報勞金其ノ他ハ一般遺失物ノ例ニ依リ處理スルヲ適當ト存候
- 三、第一項ノ場合ニ於テ返還ヲ受クヘキ者判明シタルトキハ該證書拾得者ニ對シ德義上相當ノ報勞金ヲ給スル方穩當ナルヘキ旨ヲ諭示シ可成應分ノ報勞金ヲ給セシムルコトニ致居候

[神奈川警]

[科奈川警]

●拾得物事務取扱上注意ノ件

大正七年一月二十八日 午善發第二六號警務課長通牒

拾得物ニ關スル事務ニ就テハ夫夫周到ナル注意ヲ以テ御取扱相成居候事ト被存候モ遺失届ノ受理若ハ拾得物品ノ交付ニシテ代理人ニ對シ行フヘキ場合ニ於テ取扱上遺漏アリシ爲疑惹ナシタル實例モ有之候ニ付將來右之如キ場合ニ於テハ代理人ノ資格ニ就キ篤ト御調査ノ上萬遺漏ナキテ期セラレ候様致度依命此段及通牒候也

●遺失物法ニ依ル拾得金ヲ金庫ニ送付スル場合ニ於ケル期滿失効ノ年月日計算方ノ件

大正七年二月八日 巳内會收第一一〇一五號內務部長

遺失物法ニ依ル拾得金ヲ金庫ニ送付スル場合ニ於ケル期滿失効ノ年月日計算方ノ儀ニ關シ別紙甲號ノ通金庫出納役ヨリ照會有之省議ヲ經乙號ノ通回答相成候旨其筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度
追テ送附書ニ記載セラレヘキ期滿失効ノ年月日ハ所有權ノ得喪ニ關スル次第ニモ有之誤テ政府ノ歲入ニ收納シタル場合ニ於テハ他日歲出ヨリ支出セサルヘカラサル等不都合不勝儀ニ付誤記誤算ナキ様特ニ御注意相成度候

(別紙)

(甲號)

(國第三八九號)
遺失物法ニ依ル拾得金ヲ金庫ニ送付セラレル場合其送付書ニ記載スヘキ期滿失効年月日計上方ニ付テハ明治三十四年六月二十日坤第四二八三號理財局長御通知ニ依ル山梨縣知事ヘ御回答ノ次第モ有之金庫ハ送付書受理ノ日ヨリ起算シ滿一ヶ年半ト十四日以内ノモノニ限ルヘキ義ト相心得取扱來リ候處今般山梨縣出納官吏ニ於テハ民法第四百十條ヲ適用シ官廳ノ公告期間計算上其初日ハ算入セス從テ期滿失効期間ハ一ヶ年半ト十五日以内ト相成金庫ノ取扱ニ對シ一日ノ差ヲ生スルコトト相成候旨申出候尙右公告期間計算方ニ付テハ民法ノ規定ヲ適用スヘキ儀ナルヤ間合セノ向モ有之取扱上疑義相生シ候間左記事項ニ關シ何分ノ御同示相煩シ度此段及御照會候

(大正六年七月五日金庫出納役日本銀行總裁子爵三島彌太郎)

(左記)

- 一、遺失物法第一條第二項ハ警察署ニ於テ返還ヲ受ケヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ即時ニ公告ノ手續ヲ爲ササルヘカラサルノ主旨ト解シ從テ金庫ニ送付セラレル保管金ニ就テハ常ニ必ス期滿失效期日ヲ確定シ在ルモノト心得可然哉
- 二、前項ノ結果失效期間ノ計算方ニ付テハ民法第四百十條ノ規定ニ從ヒ公告期間ノ初日ハ之ヲ算入セザルモノトシ金庫受理ノ日ヨリ起算シ一年半ト十五日ヲ以テ失效期間ノ最長期間ト心得可然哉
- 三、遺失物法第二條ノ賣却代金ニ就テモ前各項同様ト心得可然哉
- 四、遺失物法第十一條ニ依ル拾得金ニ對スル公訴期間ハ警察官署ノ見込ヲ以テ算定セラレ期滿失效期日計算セラレヘキ儀ト心得取居候得共右ニテ可然哉

(乙號)

- 一、遺失者ノ氏名居所共ニ不明ナル場合ニ於テハ可成速ニ公告ノ手續ヲ爲スヲ要スルモ必スシモ即時ニ公告セラレヘカラサル法意ニアラスト認ム又拾得金ヲ金庫ニ送付スルハ明治二十三年大藏省訓令第七十八號ノ次第モ有之特別ノ事由ナキ限リハ公告後數日ヲ經過シ尙遺失者ヲ知ルノ見込ナキ場合ニ限ル儀ト存シ候從テ保管ノ爲メ金庫ニ送付セラレ、拾得金ニ付テハ來示ノ如ク送付書面上當二期滿失效期日ノ確定シ在ル儀ト存候
- 二、警察官署ノ爲スヘキ公告期間ハ其起算點ニ付遺失物法施行細則中特別ノ規定ナキヲ以テ公告ヲ爲シタル初日ヨリ起算シ十四日間ニシテ終了スルモノト解スルニ相當ト認ムヘキヲ以テ金庫カ拾得金ノ寄託ヲ受ケタル日ト送附書面上ノ期滿失效ノ期日ト間ニ存スル日數ハ當ニ一年六ヶ月ト十四日以内トナルヘキ筋合ト存候
- 三、第一項第二項ト同様御取扱可成然ト存候
- 四、遺失物法第十一條第二項但書ニ所謂公訴權消滅ノ日ハ刑事訴訟法第六條第八條第十條ニ依リ法律上確定スヘキモノナルモ公訴ノ時効期間ノ計算ニ關シ如何ナル刑ニ該當スル犯罪ナルヤハ事件ノ實際ニ就キ當該官吏ノ認定ニ依ルノ外ナク兩シテ其消滅ノ日ヨリ起算シ一年六ヶ月ニシテ失效ノ期間滿了スル次第ナレハ金庫カ寄託金ノ送付ヲ受ケタル日ト送付書ニ記載セラレタル期滿失效ノ期日ト間ニ存スル日數ハ當然一年六ヶ月以

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

内トナルヘキ儀ト存候尙犯罪捜査又ハ賭罪ノ資料トナルヘキ金錢ハ公訴權消滅ノ日マテ物品トシテ物品會計官吏ノ保管ニ屬スヘキモノナレハ絕對ニ金庫ニ於テ受領スヘキモノニアラス但犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル金錢ナルモ犯罪捜査又ハ賭罪ノ資料トナラサル物品ハ所有者等ニ還付スヘキモノナレハ此場合ニ於テハ普通ノ手續ニ依リ必ス廣告ヲ爲スヘキモノニシテ期滿失效ノ期日モ廣告期間滿了ノ翌日ヨリ起算スル等總テ普通ノ遺失物ノ場合ト異ナル所ナキ儀ト存候

●拾得物處分ニ關スル件

大正七年九月二十七日 午內會發第二二〇號會計課長通牒

遺失物法第十四條ノ期間ヲ經過シ同第十五條ニ依リ其ノ所有權國庫ニ歸屬セル物品處分方ニ關シテハ從來會計實況檢査等ニ際シ屢々申進置候尙有之候處往來之レカ處分運送セル爲メ保管物品ノ内品質ニ依リテハ腐蝕ノ爲實際賣却ニ當リ價格減損ノ虞有之兩已ナラス整理上差支有之ニ付爾今夫々成規ニ依リ取扱ヒ相成度

追テ現ニ賣却ヲ要スル尙此際速ニ處理相成度特ニ申置候也

●拾得物件引取期間滿了ニ關スル件

大正十三年三月十二日 十三保收第四一八一號

拾得物件引取期間滿了ニ關シ大阪府知事ヨリ別紙甲號ノ通リ内務省警保局長ニ照會シタルニ對シ別紙乙號ノ通リ同答ノ旨内務省警保局長ヨリ通知有之候ニ付右乙號ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

(甲號)大正十二年十一月三十日會發第三三九二號大阪府知事

内務省警保局長宛

拾得物件ノ時効ニ關スル件照會

遺失物ヲ拾得シタル者遺失物法第十四條ニ依リ其ノ所有權ヲ取得シ當該期間ノ最終日ハ恰モ休日ニ當リ警察官署ハ該物件持渡ノ事務ヲ取ラサルヲ知リ翌月曜日ニ之カ請求ノ爲メ出頭セリ此場合ニ於ケル效力ノ如何ニ付テハ現今我國ノ各官廳ハ事務受付時間ニ別段ノ制限ナク縱令休日ト雖モ宿直員ヲ置キ執務セル慣習ナレハ請求ナキ以上當然當

日ヲ以テ失効ト相成ルヘキ義ト信シ居リ候得共休日ニ於テハ現實ニ本件拂渡ノ事務ヲ爲ササルモノナレハ民法第四百十二條ニ該當シ翌日ハ猶効力ヲ有スルモノトスル意見モ有之疑義ニ涉リ候條何分ノ御指示相煩度候也

(乙號) 大正十三年三月四日內務省阪警第十二號警保局長

大阪府知事宛

拾得物件引取期間滿了ニ關スル件回答

大正十二年十一月三十日付會第三三九二號ヲ以テ拾得物件ノ引取期間ノ滿了ニ關スル件御照會相成候處本件ハ日曜日其ノ他ノ休日ニ遺失物ノ引渡ヲ爲ササルノ慣習アルニ於テハ其ノ翌日ニ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ民法第四百十二條ノ規定ニ從ヒ御處理相成可然モノト存候

●拾得鐵道乘車券處分ニ關スル件

大正十一年一月二十日
百內會收第九八四五號會計課長通牒

拾得鐵道乘車券ノ内定期及回数券等保管滿期處分及届出ノ場合ハ左記ノ通り御取計相成度

(左記)

- 一、保管滿期ノ場合ハ警察官署ノ最寄驛ヲ經テ東京鐵道局ニ同附相成度
- 二、乘車券届出ノ場合ハ其都度乘車券ノ種類、等級、區間、發行月日、通用期間、番號其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ警察官署ノ最寄驛ニ御通知相成度
- 三、現在保管中ニ係ルモノハ(二)ニ依リ御取扱相成度

●拾得届出ニ係ル郵便爲替及小爲替券ノ處理ニ關スル件

大正十二年八月二十八日
十二保收第八〇七一號

首題ノ件ニ關シテハ大正六年十二月六日已警保收第一八八三號ヲ以テ及通牒置候處受領人無指定ニ係ル郵便小爲替

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

替ノ取扱方ニ付今更ニ別紙ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條右ニヨリ取扱相成度依命此段及通牒候也
(別紙)內務省發警第七四號

大正十二年八月四日

後藤內務省警保局長

安河內神奈川縣知事殿

拾得届出ニ係ル郵便爲替及小爲替券處理ニ關スル件通牒

標記ノ件ニ關シ大正六年十二月三日內務省關警第六號通牒中第二項受領人無指定ニ係ル郵便小爲替ノ取扱方ニ付テハ今後左記ニヨリ御處理相成度候

受取人無指定郵便小爲替證書拾得届出アリタル場合ノ取扱方

- 一、警察官署ニ於テ有效期間内ニ於ケル郵便小爲替證書ノ拾得届出アリタルトキハ其ノ記號番號振出局名、同月日並ニ金額等相當臺帳ニ登錄シ直ニ該證書ヲ貯金局ニ送附スルコト
- 二、貯金局ニ於テ前項ノ爲替證書ニ對シ有效期間内ニ再度證書ノ發行又ハ爲替金拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求者ニ對シ爲替證書ハ警察官署ニ拾得届出アル旨ヲ通知シ一面警察官署ニ對シ當該證書ヲ送付スルコト
- 三、貯金局ニ於テハ第一項ノ爲替證書ニ對シ有效期間經過後再度證書ノ發行若クハ爲替金拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ警察官署ニ其旨通知シ一面請求人ニ對シテハ警察官署ニ拾得届出アルモノニ付警察官署ニ出頭ノ上相當措置ヲ了スヘキ旨ヲ通知スルコト
- 四、警察官署ニ於テ前二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ再度證書ノ發行又ハ爲替金拂戻請求者ト拾得者トノ間ニ措置ヲ了セシメタル上貯金局ニ其旨ヲ通知スルコト此場合ニ於テハ該請求者ヲシテ拾得者ニ對シ遺失物法ノ規定ニ準シ報勞金ヲ贈與セシムルコト
- 五、貯金局ニ於テ前項通知ヲ受ケタルトキハ一般ノ例ニ依リ相當措置スルコト
- 六、第一項ノ場合ニ於テ警察官署ヨリ爲替證書ノ送付前貯金局ニ於テ既ニ再度證書ノ發行ヲ爲シ又ハ爲替金ノ拂戻ヲナシタルモノハ直ニ警察官署ニ其旨ヲ通知シ警察官署ハ拾得者ニ其届出ニ係ル小爲替證書無効ノ旨ヲ通知スルコト
- 七、小爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタルモノノ拾得届出アリタル場合ニ於テハ警察官署ハ其無効ナル旨ヲ拾得者

- ニ指示シ之カ害用ノ弊ヲ防ク爲メ任意警察官署ニ提供セシメ直チニ貯金局ニ送付スルコト
- 八、警察官署ニ於テ有效期間ヲ經過セサル爲替證書拾得届出後一年ヲ經過シタルトキハ遺失物法ニ依ル取扱ヲ爲サス拾得者ニ對シテハ郵便爲替法トノ關係ヲ告知シ警察官署ニ於テ臺帳ノ登錄事項ヲ抹消セス其ノ儘處理シ置クコト
- 九、前項ノ場合ニ於テ警察官署ニ於テ第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遺失物法ノ規定ニ準シ第四項ト同一ノ措置ヲ了セシムルコト
- 十、再度證書ノ發行又ハ爲替金拂戻ノ請求ナクシテ爲替證書ノ有效期間經過後三年間ヲ經過シタルトキハ爲替法ノ規定ニ依リ郵便官署ニ於テ爲替金ノ國庫歸屬處分ヲナスヘキニ付警察官署ニ於テハ臺帳中之ニ該當スヘキ爲替證書ヲ調査シ臺帳記載事項ヲ抹消シ事件ノ結了トナスコト

●拾得物取扱ニ關スル件通牒

大正十四年十月一日
内務省官警第二號警保局長通牒

標記ノ件ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答候條爲念

(甲號)

官警縣知事照會 遺失物取扱ニ關スル件 (大正十四年五月十二日) (發會第一七〇號)

遺失物法ニ係ル左記事項取扱方不明瞭ニ付何分ノ儀至急御指示相成度

- 一、爆發物ヲ拾得シ届出タル時ノ取扱方
- 一、明治三十二年六月八日警保局通牒發甲第一九號中官吏職務上拾得シタルアルハ職務執行中ト解シ休日等ノ場合ハ同通牒ニ依ラス拾得品ヲ交付シ差支ナキヤ

(乙號)

警保局長回答 遺失物取扱方ニ關スル件回答 (大正十四年十月一日) (内務省官警第二號)

五月十三日發會第一七〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件左記各項ノ通御取扱相成度候何ノ上

[神奈川警]

[神奈川警]

- 一、照會ニハ單ニ爆發物トアルモ右ハ銃砲火藥類取締法ニ依リ取締ヲ受ケヘキ火藥爆藥及火工品ヲ指示セルモノト認メ本件回答ス
 - (イ) 爆發物ヲ拾得シタル者ヨリ警察官署ニ届出テ受ケタルトキ
保管及貯藏ニ付テハ銃砲類取締法ノ規定ニ從ヒ可然處置ヲ要ス
法ノ規定スル貯藏方法ニ依ルトキ不相當ノ費用若クハ手数ヲ要スルトキハ遺失物法第二項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得
 - (ロ) 銃砲火藥類取締法ノ規定ニ依リ同爆發物ノ所持ヲ許サレタル者ナルトキハ一般遺失物ノ例ニ依リ返還又ハ賣却代金ヲ交付シ然ラサル場合ニ於テハ返還又ハ交附スヘキモノニアラスシテ所有權國庫ニ歸屬ス
 - (ハ) 公告後一ケ年內ニ遺失者發見セザルトキ及遺失者ニ於テ返還ヲ受ケルノ權利ヲ拋棄シタル場合ニ於テハ(ロ)ノ取扱ニ準ス
 - (ニ) 遺失者ヲ拾得者、返還ヲ交付トシ
- 二、官吏職務上拾得ノ意義ハ該官吏ノ職務義務ノ範圍ニ依リ定ムルヘキモノニシテ常時包括的ニ一般國民ノ財產保護ノ職責ヲ有スル者ニ對シテハ職務執行中タルト否トナ問ハス總テ職務上ノ拾得トシテ取扱フヘキモノトス

●海上運送ニ於ケル過剩貨物ノ處理方ニ關スル件

大正八年十月十四日
未警保收第一五九八九號保安課長通牒

標記ノ件ニ關シ別紙甲號大阪府知事ノ照會ニ對シ警保局長ヨリ乙號ノ通回答相成候條依命爲御參考此段及通牒候也
(甲號) (大正十四年十二月十日保第七八六七號大阪府知事照會)
過剩貨物ノ處置ニ關スル件

運送行爲ニ伴ヒ荷受人荷送人ハ勿論其ノ何人ノ物タルヤモ判明セサル貨物ヲ生スルコト多キハ現在ノ實況ニシテ普通ニ過剩貨物ト稱シ之ヲ如何ニ處置スヘキカ其ノ解決如何ハ運送業者ノ利害ニ重大ナル關係アルノミナラス警察取

紳上亦必須ノ事項ニ有之候ヲ以テ是ニ當府ニ於テハ大阪商船會社其ノ他關係數社ノ當務者ト右會社ヲ管轄スル警察署長トノ間ニ此件ニ關シテ協定ヲ爲シ此種ノ貨物ハ商法第六百七條同六百十九條ニ依リ一應供託シタル上責任期間一年經過後ハ會社ノ收入ニ歸スヘキモノト決定致候モ茲ニ明カニ商法ノ誤解ニ出テ何等ノ權威モ無之故ニ折角ノ協定モ今ニ實行セラレサル有様ニ有之候處惟フニ此ノ種ノ貨物ハ荷受人ハ無論其貨物ニ對スル權利者ハ一切不明ナルヲ以テ運送品ナリヤ否モ判明セス唯運送行爲ニ伴ヒテ生スルヲ以テ第一ニ運送品ナルヘキコトヲ想像シ得ヘキモノナ立證スルニ何等ノ根據ナシ從ツテ實際ニ於テハ或ハ入運貨物ナルコトアルヘク或ハ帳簿記入ノ錯誤又ハ荷造ノ粗雑ナルニ因リ不明ナルニ至レルモノアルヘク或ハ保員ノ不注意ニ因リ契約量以上ニ過載シタル物アルヘク或ハ又何人カ不正行爲ニ因リ斯ノ如キニ立チ至レルモノアルヘキモ斯クノ如キ諸原因ハ之ヲ想像シ得ルニ止マルノミ何等舉證ノ方法ナク現在ノ狀態ヨリシテハ自己ノ物ニアラサル而カモ無主物ニモ非サル權利者不明ノ貨物ト云フノ外ナシ之ヲ以テ本問題ハ現行法上ニ於テハ既ニ商法ノ領域ニ非ラスシテ遺失物法ニ依リ解決スヘク而シテ同法第十二條「誤テ占用シタル物件」中ニ之ヲ包含セシムルヲ最モ適當ト信シ候ニ就而ハ今後何等運送品ナルヘキ立證ノ方法無キ貨物ニシテ而カモ何人ノ所有トモ判明セサル運送人ノ占有シツツアル右ノ如キ物品ニ付テハ遺失物法ヲ適用スルコトト致度候得共本問題ニ付テハ利害關係ノ及フ所廣キノミナラス全國ニ互リ理論上並實際取扱上何等ノ歸趣無キモノノ如ク且又聊疑義ノ次第モ有之候條一應貴官ノ御意見承知致度右及照會候也

(乙號) (大正八年十月十日警阪第一九八號警保局長回答)

海上運送ニ於ケル過剩貨物ノ處理方ニ關スル件
 本件ニ關シ八月二十六日警阪第一九八號ヲ以テ過剩貨物ハ一應運送契約ニ依リ船積セラレタルモノト認ムヘキニ依リ遺失物法ニ依リ處理スヘキモノニ非サル旨不取敢同答致置候得共之カ實際ノ處理方ニ付テハ的確ナル法令ナク且選信司法兩省ニモ關係ナ有スル事項ニ係ルヲ以テ右兩省ニモ協議ヲ遂ケ候處商法第六百七條第二項ニ依リ供託スルヲ相當トスルコトニ決定致候ニ付右ニ依リ措置セシメラレ度候

● 船舶内ニ於ケル遺失物取扱ニ關スル件

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

大正十年八月九日
 内務省丘警第一六號警保局長通牒

船舶内ニ於ケル遺失物取扱ニ關シ別紙甲號ノ照會ニ對シ乙號ノ通り回答致置候條御了知相成度候也

(甲號) (大正十年七月四日保發第一二四六號福岡縣知事照會)

海船内遺失物ハ當該船長ヲ以テ拾得者ト見做ス場合有之候處船長ハ航海ノ都合上遺失物法第九條ノ期間内ニ之ヲ警察官署ニ届出ツル能ハサルコトアルヘキヲ以テ假令失期セルモノト雖最初ノ寄港地警察官署へ届出タルトキハ期間内届出ト見做シ取扱可然モノト存候ヘ共爲念御意見承知致度候也

(乙號) (大正十年八月八日丘警第十六號警保局長回答)

七月四日付保發第一二四六號ヲ以テ船舶内ニ於ケル遺失物取扱ニ關シ御照會相成候處右ハ遺失物法第九條ニ於テ拾得ノ日ヨリ七日以内トアルモ船舶航行中ハ届出ヲ爲スコト不可能ノ次第ニ付最初寄港ノ日ヨリ七日以内ト解釋スル外無之從而御見込ノ通船船寄港ノ日ヲ以テ拾得ノ日ト爲シ届出ノ手續ヲ爲サシメ可然ト存候候何ノ上右申進候

● 御陵墓調査上發見ノ古墳届出方

明治七年五月二日
 太政官達第五十九號

府縣

上世以來御陵墓ノ所在未定ノ分即今取調中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所ハ勿論其他古墳ト相見ヘ候地ハ覆ニ發掘爲致間敷候若差向墾開ノ地ニ有之分ハ繪圖面相副(教部省)ヘ可伺出此旨相達候事

● 御陵墓所在未定ノ分取調ニ付人民私有地内古墳等發見ノ節詳細申出方

明治十三年十一月十五日
 宮内省達乙第三號

府縣 神繩縣
 府縣 神繩縣

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今取調中ニ付云云ノ件去ル七年五月第五十九號ヲ以テ公達ノ趣有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地タリ形履リニ發掘不致管ニ候ヘ凡自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候様ノ次第有之候ハ、口碑流傳ノ有無ニ不拘凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名並近傍ノ字等ヲモ取調當省ヘ可申出此旨相達候事

●東京大學ニ於テ考古學研究ノ爲メ埋没ノ古物採集貯藏ノ件

明治十五年十月二日
太政官達第五十八號

警視廳 府縣

文部省所轄「東京」大學ニ於テ考古學研究ノ爲メ教員學生等ヲ各地方ヘ派遣シ介城洞穴ヲ檢出シ地方廳又ハ所有主ヘ協議ノ上埋没ノ古物ヲ採集スルトキハ直ニ同學ニ貯藏爲致候條爲心得此旨相達候事

●學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十二年十月二十六日
內務大臣訓令第九八五號

遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物ヲ發見シタルトキハ其品質、形狀、發掘ノ年月日、場所及口碑等徵證トナルヘキ事項ヲ詳記シ模寫圖ヲ添ヘ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ通知スヘシ

- 一、古墳關係品、其他學術技藝若ハ考古ノ資料トナルヘキモノハ 宮内省 東京帝國大學
- 一、古器時代ノ遺物ハ 宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ前項埋藏物送付ノ通知ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ徵シ物件ノ毀損セサル様裝置シ

テ之ヲ送付スヘシ運送ニ關スル費用ハ警察費ヲ以テ支辨シ宮内省又ハ東京帝國大學ニ要求スヘシ

宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要アル旨通知ヲ受ケタル埋藏ニシテ公告後法定ノ期間ヲ經過シ所有者發見セズ所有權ノ國庫ニ歸屬シタルトキハ其宮内省ニ係ルモノハ相當代價ヲ以テ同省ニ讓渡シ東京帝國大學ニ係ルモノハ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

同學ニ保管轉換ノ手續ヲ爲シ當省ヘ報告スヘシ

宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要ナキ旨通知ヲ受ケタル埋藏物ハ學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ物件ノ取扱ヲ爲サス法定期間經過後發見者ニ交付スル等便宜ノ處分ヲ爲スヘシ

●廳府縣ニ於テ參考ノ爲保存ノ必要アル埋藏物ニ關スル件

明治三十四年四月一日
內務大臣訓令第二二一號

遺失物法第十三條ニ係ル學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物取扱ニ關シテハ三十二年十月訓令第九八五號ヲ以テ訓令及置候處宮内省又ハ帝國大學ニ於テ保管ノ必要ナシト認メタル物件ニシテ地方長官ニ於テ教育其ノ他ノ參考トシテ保存ヲ要スト認ムルトキハ內務大臣ニ報告シ遺失物法第十三條第二項ニ依リ取扱ヒ廳府縣ニ於テ保管スルハ差支無之候而シテ發見者又ハ發見シタル土地所有者ニ給付スル相當代價ハ國庫費中遺失物收得費ノ目ヨリ支出スヘシ

●廳府縣ニ於テ參考ノ爲保存ノ必要アル埋藏物ニ關スル件

明治三十四年四月一日
內務省庶甲第七號ノ內務保局長

遺失物法第十三條第二項ニ依リ取扱フヘキ埋藏物中宮内省又ハ帝國大學ニ於テ保管ノ必要ナシト認メタル物件ニシテ參考用トシテ廳府縣ニ於テ保存スル場合ニ於ケル取扱方ニ關シ本日訓令相成候處右ニ依リ廳府縣ニ於テ保存セントスルトキハ可成豫メ宮内省又ハ帝國大學ニ依頼シ其ノ適否ノ鑑別ヲ受ケ候上保存候事ニ御取扱相成度依命此段及通候候也

●東京帝國大學職員發掘ノ學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物ニ關スル取扱方ノ件

明治四十一年八月六日
內務大臣訓令第六五五號

廳府縣(樺太廳、東
京府ヲ除ク)

遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付テハ明治三十二年十月二十六日附訓第九八五號ヲ以テ訓令ノ次第モ有之候處自今東京帝國大學職員發掘ノ場合ニ於テハ同訓令ニ依ルノ外左ノ通り取扱フヘシ

一、東京帝國大學職員ノ發掘シタル埋藏物ニシテ携帶歸學ノ必要ヲ申出タルモノアルトキハ假領收證書ヲ發シ便宜之ヲ交付スルコトヲ得但古墳ノ疑アル場合ニ於テハ同職員ニ於テ豫メ宮内省ノ同意ヲ得テ發掘ヲ著手シタルコトヲ明記セシムヘシ
二、前項ノ取扱方爲シタルトキハ同大學職員名、同大學ニ於テ宮内省ノ同意ヲ得タルニ付携帶歸學ヲ認メタルコト發掘ノ年月日、場所及口碑等徵證トナルヘキ事項ヲ詳ニシ且ツ埋藏物ノ品質、形狀等ヲ明ニシ模寫圖ヲ添ヘ當省及宮内省ニ通報スヘシ
右訓令ス

●東京帝國大學職員發掘ノ學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物ニ關スル取扱方ノ件

明治四十一年八月六日
內務省東已第一一號(警保局長)通牒

東京帝國大學職員發掘ニ係ル埋藏物取扱方ニ付テハ別紙訓令相成候處右ハ古墳關係品タルト石器時代ノ遺物タルトナ間ハス一旦携帶歸學スル義ニハ候得共必シモ同大學ニ於テ貯藏ノ必要有無ヲ判別スルモノニ無之ニ付或ハ宮内省ヨリ同物件ニ對スル貯藏ノ要否ヲ申出候場合モ無論有之候次第ニ付テハ其ノ執レヨリ通報アル場合ニ於テモ明治三十三年十月二十六日附訓令第九八五號ニ依リ所有權歸屬ノ手續有之候様致度依命此段及通牒候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

●古墳發掘ニ關スル件

明治十三年十一月三十日
布達甲第二百七號

上世以來御陵墓所在未定之分目今取調中ニ付口碑流傳之場所ハ勿論縱令人民私有地タリトモ古墳ト相見候地ハ掘リニ發掘不相成候條自然風雨等之爲メ石槨土器其他古物等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候様ノ次第有之候ハ、由緒口碑ノ有無ニ不拘凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名並近傍ノ字等ヲモ取調可届出此旨布達候事

●古墳發掘ニ關スル件

明治三十四年五月
示令第二〇八號

土地ノ官民有ニ拘ラス古墳又ハ古墳ト認ムヘキ箇所ヲ發掘セムトスルモノアルトキハ宮内省ニ打合ノ必要アル旨ヲ告ケ一應之ヲ中止セシメ詳細ノ圖面ヲ添ヘ本官ヘ報告スヘシ

●古墳又ハ古墳ト認ムヘキ箇所ヲ發掘セントスル者アルトキ宮内省ヘ打合ノ件

明治三十四年五月三日
甲第十七號地理課長警保局長通牒

府縣

古墳又ハ古墳ト認ムヘキ箇所ヲ發掘セントスル者アルトキハ其土地ノ官民有ニ拘ラス豫メ詳細ノ圖ヲ添ヘ宮内省ヘ打合可相成右ハ明治七年太政官達第五十九號明治十三年宮内省達乙第三號ノ趣モ有之候ニ付キ依命爲念及通牒候也

●古墳又ハ古墳ト認ムヘキ箇所ヲ帝國大學ニ於テ發掘方ノ件

明治三十四年十一月四日
地第一三三九號地理課長警保局長通牒

府縣

古墳又ハ古墳ト認ムヘキ箇所ヲ發掘セムトスル者アルトキ取扱上ノ件ニ付テハ本年五月三日甲第一七號ヲ以テ及通

陳置候處帝國大學ニ於テ人類學研究等ノ爲メ發掘ヲ必要トスルトキハ文部省ヨリ宮内省ヘ打合スヘキ様兩者間交渉
濟ノ趣ニ付右ノ外限リ改テ貴廳ヨリ宮内省ヘ打合ニ及ハス候此段及通牒候也

●古墳發掘ニ關スル件

大正二年六月十一日
內務省警部第二六五三號警保局長通牒

古墳發掘ニ付テハ曩ニ及通牒置候處近來宮内省ニ申出ツルコトナク往往發掘ニ從事スル場合有之斯クテハ未定御陵
墓調査上大ニ差支ヲ生スルヲ以テ相當注意方宮内省ヨリ申越ノ次第モ有之候條一般人民ノ發掘ニ付テハ同省ノ意見
ヲ徵シタル上相當御措置相成度尙一般人民發掘ノ場合大學職員ノ立會ヲ請フ者ニ至リテハ宮内省ニ申出ノ手續ヲ爲
ササル場合往往有之候ニ付テハ特ニ御注意相成候様致度
追テ大學職員發掘ノ場合ハ豫メ大學ヨリ貴官宛通報ノ等ニ有之候條御了知相成度候

●古墳ニ付伺出方ノ件

大正四年九月二十一日
雜第一〇二六號諸陵頭

神奈川縣知事宛

古墳發見ノ場合之カ取扱ニ付テハ明治七年五月太政官達第五十九號ニ基キ當省大臣ニ可伺出答ノ處同十三年十一月
宮内省達乙第三號同三十四年五月內務省內甲第十七號同年十一月同省地第一三三九號ノ通牒等モ有之結果往往報告
通牒照會等ノ形式ニ依リ御申越相成尙モ有之實際ノ取扱區區ニ相渡居候ニ付本件ニ關シテハ爾今右太政官達ニ據リ
宮内大臣ヘ伺出ノ事ニ御取扱相成候様致度右ハ本寮主管ノ事務ニ付小官ヨリ特ニ此段申進候也
追テ發見ノ古墳ニ關シ從來往往伺洩ノ尙モ有之哉ニ聞及候ニ付テハ前記太政官達ノ主旨ヲ徹底候様御心得添相願
度候

●古墳及埋藏物ノ發掘ニ關スル件依命通牒

大正六年二月二十日
內務省五業警部第二號ノ內警保局長通牒

古墳及埋藏物ノ發掘ニ關シテハ屢訓示及通牒ノ次第モ有之候得共今尙宮内省ヘ申出ツルコトナクシテ密ニ古墳ノ發

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

掘ヲ試ミ又ハ學術上ノ參考トナルヘキ埋藏物ヲ發見シタルニ拘ハラズ法定ノ手續ヲ爲サスシテ恣ニ之ヲ所持若ハ處
分スル等古墳ノ内容ヲ非學術的ニ破壞スル者往々有之斯クテハ未定御陵墓ノ調査上ニモ支障ヲ來スノミナラス史蹟
名勝紀念物等ノ保存方法ニ付目下詮議中ニ屬スルヲ以テ是等調査ノ結了ヲ告ケ又ハ保存方法ノ確立スルニ至ル迄ハ
原狀ノ儘存置スルノ必要アルモノモ有之既ニ一部人民中ニ於テモ右等古墳ノ密掘埋藏物不正處分ノ弊アルヲ認メ
之ニ對スル防止方第三十七議會ニ請願シタル尙アリ旁々一層取締ヲ要スヘキ義ト被存候條相當御注意相成候様致度尙
ホ今後古墳又ハ古墳ト認ムヘキ場所ノ發掘ヲ企圖シ若ハ學術技藝考古ノ資料トナルヘキ埋藏物ヲ發見シタル者アル
トキハ既往訓令並通牒ノ趣旨ニ依リ夫々手續ヲ爲サシムル様特ニ御配慮相煩度

第十一節 難破船及漂流物

●水難救護法

明治三十二年三月二十九日
法律第九十五號

改正 明治三十三年三月法律第六六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水難救護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
水難救護法

第一章 遺難船舶

- 第一條 遺難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ
- 第二條 遺難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滞ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ
- 警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ
- 第三條 遺難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ
- 第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ
- 第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得

第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隠匿シタル者アリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フコトヲ得

第九條 市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

第十條 船長ハ遭難後遡港ナク船難報告書ヲ作り市町村長ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲グル事項ノ一二該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

一 物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二 爆發物、容易ニ燃焼スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト

三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市

〔神奈川警〕

町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲グル者ニハ之ヲ適用セス

一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員

二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者

三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五 遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條 左ニ掲グルモノヲ以テ救護費用トス

一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬費

二 第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三 救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條 救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

- 一 船員ノ所持品
 - 二 船員及旅客ノ食料
 - 三 運送貨ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帯スル旅客ノ手荷物
 - 四 第十七條第二項ニ掲グル物件
- 市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ
- 前項ノ處分ニ因リ取得シタル金銭其ノ他ノ物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ
- 市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金銭ヲ保管スル場合ニ其ノ金銭救護費用ノ金額ニ達シタルトキハ直ニ其ノ金銭ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ
- 第十七條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セザルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ
- 前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セズ
- 第十八條 市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其ノ保管ニ係ル金銭ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ
- 第十九條 救護其ノ效ヲ奏セザルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス
- 船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セザル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金銭ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラザルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス
- 第二十條 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タズシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セザルトキハ此ノ限ニアラス
- 第二十一條 本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス
- 第二十二條 第一條乃至第四條、第五條第一項、第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第二十三條

本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二章 漂流物及沈没品

第二十四條

漂流物又ハ沈没品ヲ拾得シタル者ハ遲滞ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限り直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ノ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十五條

市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ

市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須井サルトコトヲ得

第二十六條

第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ準用ス

第二十七條

市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限り所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一ニ相當スル金額並公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス

第二十八條

前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セザルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條 警察官吏ニ於テ航海、鑛地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈沒品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第三章 罰則

第三十一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ費用若ハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三 第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ「重禁錮」ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條 第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ノ一 刑法(第三百八十五條及第三百八十七條)ノ規定ハ沈沒品ニ亦之ヲ適用ス

第三十五條ノ二 漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ又ハ新ニ附記押捺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

罰金ニ處ス

附則

第三十六條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年七月勅令第三百五十七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行)

第三十七條 明治三年二月二十九日^{不開港場規則}難^{船救助心得方條目}、明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條 此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

●水難救護法施行細則

明治三十二年七月二十九日 逓信省令第三十五號

水難救護法施行細則左ノ通定ム

水難救護法施行細則

第一章 遭難船舶

第一條 水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一 船舶ノ種類及名稱

二 總噸數又ハ積石數

三 船籍港

四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

五 發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所

六 遭難及救護ノ顛末

七 船舶ノ損害

第二編 保安 第一章 安寧

八 死傷者ノ氏名
九 滅失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、重量若クハ容積其荷造ノ種類、箇數、記號及備船者若クハ荷送人ノ氏名若クハ名稱

第二條 船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様字體ヲ存スヘシ

第三條 船長船難報告書ニ認證ヲ受ケントスルトキハ該報告書ニ通テ差出スヘシ

第四條 市町村長船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリト認メタルトキハ其一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ當該役場ニ之ヲ保存スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ遲滞ナク一定ノ場所ニ之ヲ揭示スルモノトス

第六條 水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ

第七條 市町村長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ

第八條 市町村長ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ定率ヲ變更スルコトヲ得

第九條 海軍艦船其他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請求セントスルトキハ市町村長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其艦長又ハ船長ニ差出スヘシ

第十條 船長、船舶所有者其他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ市町村長ノ調製シタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章 漂流物及沈没品
第十條 水難救護法第二十四條第一項ノ市町村長トハ拾得地ノ市町村長ヲ謂ヒ航海中ニ拾得シタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到着シタル地ノ市町村長ヲ謂フ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第十一條 水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及價格ニ準シ揭示又ハ新聞紙掲載其他市町村長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量、拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ

第十二條 水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其物件ニ對スル自己ノ權利ヲ市町村長ニ疏明スヘシ

第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ行フヘシ

第十四條 市町村長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ
一 物件ノ種類、數量及品質
二 公賣ノ場所及年月日時
公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル

第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フコトヲ得

附則
第十六條 本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス(明治三十二年八月四日ヨリ施行)

第十七條 明治九年十二月百十七號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

● 水難救護法取扱手續
明治三十二年七月二十九日
逕信省訓令第六號

改定 明治三十五年六月逕信省訓令第一號、四三年六月第三號、大正元年一〇月第三號

水難救護法取扱手續左ノ通定ム
水難救護法取扱手續

第一章 遭難船舶

第二編 保安 第一章 安寧

- 第一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ人ノ招集、物件ノ徵用其他一般ノ處分ニ付テハ救護ノ目的ヲ達スルニ必要ナル程度ヲ限トシ救護費用ノ増加セサル様注意スヘシ
- 第二條 救護ハ人命ヲ先ニシテ逐次郵便物、船内書類其他ノ物件ニ及ホスヘシ
- 第三條 市町村長ハ救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ種類、危險ノ程度及救護ニ從事シタル時間ノ長短ニ留意スヘシ
- 第四條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スルモノナルトキハ市町村長ハ事件ヲ認知シタル後遲滯ナク地方官廳ニ左ノ事項ヲ通知スヘシ
 - 一 船舶ノ國籍及名稱
 - 二 遭難ノ事由、場所及年月日
- 第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ期間ヲ指定スルニハ救護ニ關係シタル者ニ於テ其金額ヲ申立テ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ
- 第六條 救護ヲ爲シタル市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル救護始末書ヲ調製スヘシ
 - 一 遭難船舶ノ種類、名稱及積量並ニ外國ノ船舶ナルトキハ其國籍
 - 二 船籍港
 - 三 船舶所有者ノ住所、氏名若クハ名稱
 - 四 船長ノ氏名並ニ海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其種類及番號
 - 五 遭難ノ事由、年月日時及場所
 - 六 救護ノ狀況
 - 七 救護ニ關係シタル者ノ氏名、勞務ノ種類、時間、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額及市町村長ノ定メタル救護費用、水難救護法第十二條各號ニ掲ケタル者アルトキハ其事項
 - 八 費用シタル物件及使用シタル土地ノ種類、所有者ノ氏名若クハ名稱、使用ノ時間、損傷ノ有無及程度、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額、市町村長ノ定メタル救護費用
 - 九 船員及旅客ノ員數、死傷者ノ氏名及住所
 - 十 救上ケタル物件ノ種類及數量

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 十一 公賣ヲ爲シタル物件ノ種類、數量及公賣代金
- 十二 物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用
- 第七條 市町村長ニ於テ水難救護法第十五條第二項ノ期間ヲ指定スルニハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ
- 第八條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スル場合ニ於テ市町村長水難救護法第十五條第二項及第三項ノ手續ヲ爲サントスルモ船長、船舶所有者又ハ其代理人内國ニ在ラサルトキハ市町村長ハ救護費用ノ金額及之ヲ納付スヘキ期間ヲ地方長官ニ申立ツヘシ
- 地方長官ハ前項ノ金額及期間ヲ最近地ニ駐在スル當該國ノ領事官ニ通知スヘシ
- 第九條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ市町村長ハ領收書ヲ交付スヘシ船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ保管スル金錢又ハ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ差出サシムヘシ
- 第十條 市町村長救護費用ヲ支辨セントスルトキハ之ニ領收スヘキ者ヲ呼出シテ其金額ヲ交付シ又ハ便宜ニ依リ直ニ其金額ヲ送付スヘシ
- 第十一條 市町村長水難救護法第十九條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ救護費用ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル救護費用補給請求書ニ救護始末書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ逓信大臣ニ差出スヘシ
- 第十二條 市町村長ハ救護事務終了シタルトキハ一個月以内ニ救護始末書ノ謄本ヲ當該地方長官ニ差出スヘシ
- 第十三條 市町村長水難救護法第九條第一項ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ其ノ種類、數量及荷主、船長、船舶所有者等分明ナル場合ニ在リテハ其ノ住所並ニ氏名ヲ直ニ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ通知スヘシ
- 第二章 漂流物及沈没品
- 第十三條 市町村長拾得者ヨリ漂流物又ハ沈没品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ拾得ノ日時、場所並ニ物件ノ存在セシ狀況ヲ訊問スヘシ
- 第十四條 市町村長ハ漂流物又ハ沈没品ノ件名書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 物件ノ名稱、數量、品質其他必要ナル表示
- 二 拾得ノ日時及場所
- 三 物件ノ引渡ヲ受ケタル日時
- 四 拾得者ノ住所、氏名
- 五 公告ノ方法、公告又ハ告知ヲ爲シタル年月日
- 六 物件ノ評價額
- 七 公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用
- 八 拾得者ニ支給スヘキ分一金額
- 九 所有者ノ住所、氏名
- 十 水難救護法第二十八條第三項ノ場合ニ於ケル國庫ノ取得額又ハ補給金額
- 第十一條 市町村長所有者又ハ拾得者ニ物件ヲ引渡シタルトキハ件名書中其氏名ノ項ニ何年何月何日引渡ト附記シ氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ
- 第十二條 水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ取得トスヘキ殘餘ヲ生シ又ハ國庫ノ補給ヲ受クヘキ不足ヲ生シタルトキハ市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル漂流物又ハ沈没品計算書ヲ調製シ地方長官ヲ經由シテ逓信大臣ニ之ヲ差出スヘシ
 - 一 物件ノ名稱、數量及品質
 - 二 公賣代金
 - 三 公告、保管及公賣ノ費用
 - 四 殘餘又ハ不足ノ金額
- 第十三條 市町村長ハ毎年一回附錄第一號書式ニ從ヒ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ地方官廳ニ差出スヘシ
- 第十四條 地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル件數表ヲ統計シ同一ノ書式ニ依リテ更ニ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ其年六月三十日マテニ之ヲ逓信大臣ニ差出スヘシ

〔神奈川管〕

地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル救護始末書ノ原本ニ依リテ毎年一回附錄第二號書式ニ從ヒ遺難船舶取扱表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ之ヲ逓信大臣ニ差出スヘシ

補則

〔神奈川管〕

- 第十八條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡サントスル場合ニ於テ該物件關稅未納ノ貨物ナルトキハ其種類並ニ數量及公賣又ハ引渡ノ場所並ニ期日ヲ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ稅關官吏ニ通知シ且稅關手續未済ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ拾得者ニ告知スヘシ
- 第十九條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ其ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ告知セントスル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ之ヲ公賣シ又ハ之ニ關シ告知スルコトヲ左ノ取扱ヲ爲スヘシ
 - 一 水難救護法第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ公賣セントスル場合ニ於テハ葉煙草ニ在リテハ之ヲ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ、其他ノ物件ニ在リテハ之ヲ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ有償ニテ引渡シ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フコト
 - 二 水難救護法第二十八條第一項又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ告知又ハ公賣セントスル場合ニ於テハ該物件ヲ無償ニテ前號ノ例ニ準シ引渡スコト
- 第二十條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣セントスル場合ニ於テ該物件政府ノ證書アル製造煙草ナルトキハ之ヲ公賣スルコトヲ第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ場合ニ在リテハ有償ニテ、第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ在リテハ無償ニテ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ引渡スヘシ
- 第二十一條 前項ノ規定ニ依リ有償ニテ物件ヲ引渡シタルトキハ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フヘシ
- 第二十二條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當シ且同法ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得サルモノナルトキハ之ヲ第十九條第一號ノ例ニ準シ無償ニテ引渡スヘシ
- 第二十三條 前三條ノ規定ニ依リ物件ヲ專賣官署ニ引渡ス爲メニ要スル運搬費ハ該官署ニ於テ之ヲ負擔ス

- 八 町村長ノ定メタル救護費用、水難救護法第十二條各號ニ掲ケタルモノアルトキハ其ノ事項ニ依リシタル物件及使用シタル土地ノ種類、所有者ノ氏名若ハ名稱、使用ノ時間、損傷ノ有無及程度、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額、市町村長ノ定メタル救護費用
- 九 船員及旅客ノ員數、死傷者ノ氏名及住所
- 十 救上ケタル物件ノ種類及數量
- 十一 公賣ヲ爲シタル物件ノ種類、數量及公賣代金
- 十二 物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用
- 第七條 市町村長ニ於テ水難救護法第十五條第二項ノ期間ヲ指定スルニハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ
- 第八條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スル場合ニ於テ市町村長水難救護法第十五條第二項及第三項ノ手續ヲ爲サルトスルモ船長、船舶所有者又ハ其ノ代理人內國ニ在ラサルトキハ市町村長ハ救護費用ノ金額及之ヲ納付スヘキ期間ヲ當廳ニ申立ツヘシ
- 第九條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ市町村長ハ領收書ヲ交付スヘシ船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ保管スル金銭又ハ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ差出サシムヘシ
- 第十條 市町村長救護費用ヲ支辨セムトスル時ハ之ヲ領收スヘキ者ヲ呼出シテ其ノ金額ヲ交付シ又ハ便宜ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ送付スヘシ
- 第十一條 市町村長水難救護法第十九條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ救護費用ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ受ケムトスル時ハ其ノ事由ヲ記載シタル救護費用補給請求書ニ救護始末書ノ謄本ヲ添ヘ當廳ヲ經由シテ之ヲ逓信大臣ニ差出スヘシ
- 第十二條 市町村長ハ救護事務終了シタルトキハ一箇月以内ニ救護始末書ノ謄本ヲ當廳ニ差出スヘシ
- 第十三條 市町村長水難救護法第九條第一項ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ其ノ種類、數量及荷主、船長、船舶所有者等分明ナル場合ニ在リテハ其ノ住所並ニ氏名ヲ直ニ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ通知スヘシ

〔神奈川警〕

第二章 漂流物及沈没品

〔神奈川警〕

- 第十三條 市町村長拾得者ヨリ漂流物又ハ沈没品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ拾得ノ日時、場所並ニ物件ノ存在セシ狀況ヲ訊問スヘシ
- 第十四條 市町村長ハ漂流物又ハ沈没品ノ件名書ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 物件ノ名稱、數量、品質其ノ他必要ナル表示
 - 二 拾得ノ日時及場所
 - 三 物件ノ引渡ヲ受ケタル日時
 - 四 拾得者ノ住所、氏名
 - 五 公告ノ方法、公告又ハ告知ヲ爲シタル年月日
 - 六 物件ノ評價額
 - 七 公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用
 - 八 拾得者ニ支給スヘキ分一金額
 - 九 所有者ノ住所、氏名
 - 十 水難救護法第二十八條第三項ノ場合ニ於ケル國庫ノ所得額又ハ補給金額
- 第十五條 市町村長所有者又ハ拾得者ニ物件ヲ引渡シタルトキハ件名書中其ノ氏名ノ項ニ何年何月何日引渡ト附記シ氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ
- 第十六條 水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ所得トスヘキ殘餘ヲ生シ又ハ國庫ノ補給ヲ受ケヘキ不足ヲ生シタルトキハ市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル漂流物又ハ沈没品計算書ヲ調製シ當廳ヲ經由シテ逓信大臣ニ之ヲ差出スヘシ
 - 一 物件ノ名稱、數量及品質
 - 二 公賣代金
 - 三 公告、保管及公賣ノ費用
 - 四 殘餘又ハ不足ノ金額
- 第十七條 市町村長ハ毎年一回附錄書式ニ從ヒ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ翌年四月三十日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

第十八條 本手續其ノ他水難救護取扱上ニ關シ町村長ヨリ當廳又ハ當廳ヲ經由逓信大臣ヘ差出スヘキ文書ハ總ヘテ郡役所ヲ經由スヘシ

第十九條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡サムトスル場合ニ於テ該物件關稅未納ノ貨物ナルトキハ其ノ種類並數量及公賣又ハ引渡ノ場所並期日ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ收稅官吏ニ通知シ且稅關手續未済ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ拾得者ニ告知スヘシ

第二十條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ其ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ告知セントスル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ之ヲ公賣シ又ハ之ニ關シ告知スルコトヲ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一 水難救護法第十一條第一項第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ公賣セントスル場合ニ於テハ葉煙草ニ在リテハ之ヲ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ其ノ他ノ物件ニ在リテハ之ヲ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ有價ニテ引渡シ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フコト

二 水難救護法第二十八條第一項又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ告知又ハ公賣セントスル場合ニ於テハ該物件ヲ無價ニテ前號ノ例ニ準シ引渡スコト

第二十一條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣セントスル場合ニ於テ該物件政府ノ證券アル製煙草ナルトキハ之ヲ公賣スルコトナク第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ場合ニ在リテハ有價ニテ、第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ在リテハ無價ニテ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ引渡スヘシ

第二十二條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當シ且同法ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得サルモノナルトキハ之ヲ第二十一條第一號ノ例ニ準シ無價ニテ引渡スヘシ

第二十三條 前三條ノ規定ニ依リ物件ヲ專賣官署ニ引渡ス爲メニ要スル運搬費ハ該官署ニ於テ之ヲ負擔ス

(附錄書式)

〔神奈川警〕

漂流物沈没品件數表(何年分)

種別	漂流物沈没品合計		
	前年	本年	翌年
取扱件數	前年ノ受	本年ノ受	翌年ノ受
	高	高	高

〔神奈川警〕

物件ノ價格	前年ノ受			本年ノ受			翌年ノ受		
	高	高	高	高	高	高	高	高	高
所有者ニ引渡シタル件數									
拾得者ニ引渡シタル件數									
水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ニ依リテ公賣シタル件數									
拾得者ニ支給シタル分一金額									
公告、保管、評價及取除公賣費用									
國庫ノ取得ト爲リタル金額									
國庫ヨリ支給シタル金額									

地方海員審判所管轄區域

明治四十三年三月二十八日 勅令第九十四號

朕地方海員審判所ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則
本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十二年勅令第二百六十四號ハ之ヲ廢止ス

海難其ノ他ノ事實届出方ノ件

明治三十年六月二十六日 逓信省令第十九號

海難其ノ他ノ事實届出ノ件左ノ通定ム

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職權ヲ行フニ當リ左ニ掲グル事項ニ該當シタルトキハ當該船長、船長不在ナルトキハ代理者ニ於テ其ノ地若ハ爾後始メテ到着シタル地ノ(船舶司檢所)、「同支所」、警察署、警察分署、市町村役場(若ハ浦役場)外國ニ在テハ領事館若ハ貿易事務館ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

一 其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二 自他ノ船舶ヲ同ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 人ヲ殺傷シタルトキ

第二編 保安 第一章 安寧

- 四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
- 五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 六 亂解租暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 第一條各號ノ事項ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ其ノ所在地ニ於テ第一條ニ掲ケル官廳若ハ公署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

附則

第四條 本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第五條 明治二十六年逓信省令第五號海難取調手續、明治二十八年逓信省令第一號外國航海中海難届出手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●海員審判ニ付スヘキ事實認知ノトキ取扱方

明治三十年六月二十六日
逓信省訓令第三號

警視廳 北海道廳 府縣 (船舶司檢所)

〔船舶司檢所司檢官〕、〔同司檢官補〕、警察官吏、市町村長(及浦役人)ニ於テ明治三十年逓信省令第十九號ノ届出ニ依リ若ハ自ラ海員懲戒法ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認定シタルトキハ當該海技免狀受有者及必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ海難事件ニ在テハ左ノ事項其ノ他ノ事件ニ在テハ第一號乃至第五號及第十四號ノ事項ヲ取調ヘ調書ヲ作り直ニ之ヲ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ送致セシムヘシ

- 一 取調ヲ受ケタル者ノ住所、氏名、職業及年齡
- 二 船舶ノ名稱、種類、登録噸數及公稱馬力並其ノ所有者ノ住所及氏名
- 三 船舶職員ノ住所、氏名並其ノ受有スル海技免狀ノ種類及番號
- 四 發航地、到達地並事件ヲ惹起シタル場所及年月日時

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 五 事件ノ顛末
 - 六 發航以後事件ヲ惹起シタル迄ノ天候、航路、速力及船舶職員、舵取、看守ノ當直時間並其ノ氏名
 - 七 船舶損傷ノ箇所並其ノ再用ノ適否
 - 八 船客乗組員ノ員數並其ノ死傷ノ有無
 - 九 貨物ノ種類、數量並其ノ損害ノ有無
 - 十 人命、船舶及貨物救護ノ方法
 - 十一 航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及其ノ航路ニ於ケル自差
 - 十二 使用シタル海圖ノ種類及番號
 - 十三 航海日誌ノ存否
 - 十四 取調ヲ受ケタル者何日其ノ地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト
- 調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ取調ヲ爲シタル者之ニ署名捺印シ其ノ所屬官廳若ハ公署ノ印ヲ捺シ且ツ毎葉ニ契印スヘシ

●船舶沈没破壊ノ原因等電報ニテ届出ノ件

明治二十六年三月二十九日
逓信省訓令第一號

北海道廳 沿海府縣 但東京府 警視廳

船舶衝突乗揚等ノ原因ニ依リ沈没若クハ破壊シ又ハ乗客若クハ乗組員死傷シタル場合ニ在テハ(本年三月當省令第五號)ニ依リ海難取調ノ完結スルト否トニ拘ハラヌ沈没若クハ破壊ノ原因、日時、場所、船名、死傷人ノ員數等電報ニテ直チニ届出ツヘシ

●難破船救護ニ原因スル人命救助ノ褒賞ニ關スル申牒

ハ農商務省へ差出

明治十六年三月十七日
農商務省達第二號

難破船救護ニ原因スル人命救助ノ褒賞ニ關スル諸申牒ハ自今都テ當省へ差出スヘシ此旨相達候事

府縣

●水難救助費用ニ關スル件

明治四十五年四月八日
內務省地第一〇〇四二號ノ内

水難者救助ニ關スル件ニ付航路標識管理所長ヨリ左記ノ通照會ノ次第モ有之候處右費用ハ水難救護法及行旅病人並
行旅死亡人取扱法等別段ノ規定アルモノノ外ハ所在市區町村ニ於テ適宜其費用ヲ支辨スルハ格別ニ候ヘ共是等救助
ノ途ナキトキハ結局府縣ニ於テ其費用ヲ負擔スルノ外無之ト認メラレ候條右標御取扱相成度此段及通照候也
追テ本文ノ趣旨航路標識管理所長ニ回答致置候間爲念申添候也

左記

水難者救助ニ關スル件(明治四十四年十一月十七日航會第三七四一號)
照會航路標識管理所長、地方局長宛

各地燈臺ニ於テ時々水難者救助ノ事アリ而シテ其燈臺所在地ハ概ネ僻處ニ在リテ村落ニ遠隔ノ爲メ市町村長又ハ
警察官吏ニ報告不能ノ場合詰員ニ於テ一時米、味噌、薪炭等ヲ給シ應急手當ヲ爲シ休養セシムルコト往々有之候
處是等費用ノ補給ニ關シテハ何等法規ノ據ルヘキモノ無之候條相當御詮議ノ上要求先御同示煩度

●海難調査ニ關スル件

大正十一年四月十八日
戊午保收第二五七六號

標記ノ件ニ關シテハ夫夫御配慮相成居候事ト存候得共今同別紙ノ寫ノ通リ東京逓信局長ヨリ照會有之候條御調査上
遺漏無之様一層御配慮相成候様致度依命此段及通照候也

(寫)

海難調査ニ關スル件(大正十一年四月四日海第四一號)
東京逓信局長ヨリ神奈川縣警察部長宛

海難調査ハ審判ニ關シ重要ナル資料ナレハ其ノ真相ヲ闡明スル機會ヲ逸セス機敏ナル處理ニ依リ證憑ノ蒐集ヲ爲ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

ハ審判ノ目的ヲ達スル上ニ於テ極メテ緊要ノコトニ屬シ之カ實行ニ付テハ普ク關係吏員ノ共助ニ待タサルヘカラサ
ル次第ニ有之候海難調査ニ關シテハ明治三十年七月逓信省訓令第三號ヲ以テ海員審判ニ付事實認知ノトキ取扱方ヲ
發布シアルモ尙此ノ際左記事項留意ノ上一層努力セラレル様貴管内沿岸各警察署ニ對シ通達方御取計相成度
追テ海難調査用紙ハ必要ニ應シ隨時送付可致

記

- 一、海難報告又ハ届出チ受ケタルトキハ直チニ關係船舶及船員ニ就キ臨檢其ノ他ノ調査ヲ行ヒ速ニ海難調査書ヲ
作成スル等審判上證據ノ保存及蒐集ヲ期シ速ニ之ヲ當該理事官ニ送付スルコト
- 一、海難取調ヲ爲スニ付テハ當該被害者タルモノノ外事件發生當時甲板又ハ機關室ニ於テ當直ヲ爲シタル運轉
手、舵取、見張人又ハ機關士、油差、火夫等ハ勿論其ノ他必要ナル關係人ニ對シテモ取調ヲナスヘキコト
- 三、船燈ニ關係アルト認メタル衝突事件ニ付テハ船燈ノ掃除、燈芯ノ數及燈油ノ種類、油差ノ時期、點燈時刻、
揚揚場所等ニ付詳細點燈方ニ對シ取調ヲ爲シ且ツ其ノ構造及裝置(殊ニ隔壁ノ幅ト燈中心ヨリ隔板等ノ間隔
トノ比較)ニ關シ現場取調ノ上詳細報告ノコト
- 四、覆没、火災、汽機毀損、汽機損傷等ノ如キ動モスレハ證據蒐集ニ困難ナル事件ノ其ノ事實ヲ明確ナラシムル
ト共ニ其ノ原因ヲ闡明シ責任ノ所屬ヲ認議スルニ至ルヘキ様入念ニ調査スルコト又衝突ノ位置及衝突ノ狀況
等ニ關スルコトハ成ルヘク兩船ノ航路等ノ關係並ニ衝突船形(船首角度及方向)ヲ記セル現場ノ圖面作成提出
ノコト
- 五、船舶検査官ニ於テ検査ノ際海難船其ノ他審判ニ付スヘキ事實アルコトヲ認知シタルトキハ海難調査書及船舶臨
検査ヲ成ルヘク迅速ニ處理スヘキハ勿論ナルモ右調査ニ先チ電報、電話、書面又ハ口頭ヲ以テ海難事實ノ大
略ヲ當該審判所理事官ニ通知シ同官ノ搜索證據蒐集ニ關スル參考ニ關スル注意ヲ喚起シ置クコト
- 六、検査其ノ他ニ對シ參考トナルヘキ事件ハ審判所ニ送附スヘキ書類ノ複本又ハ要點ノ拔萃ヲ本省ニ送付スルコ
ト

●海難船至急通知方ノ件

大正十一年九月八日
戊午保收第七五三三號 警察部保安課長

海難船電報届出方ニ關シテハ彙ニ選信省訓令ノ次第モ有之候處今同更ニ別紙ノ通リ東京地方海員審判所長ヨリ通知方照會有之候ニ付テハ爾後暴風雨ニ際シ汽船及帆船(總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上)ノ海難事件發生ノ場合ハ電報其ノ他急速ナル方法ニ依リ當廳ニ報告スルト同時ニ通知相成候様致度依命此段及通牒候也

(別紙)

左記

海難船至急通知方ノ件

海難船ニ關シテハ明治二十六年三月選信省訓令第一號(別紙ノ通)ヲ以テ電報ニテ届出方發令ノ次第モ有之候處當所ニ於テハ毎事件ノ狀況ヲ急速ニ知リ事實ヲ調査シテ其ノ原因ヲ明瞭ナラシムル必要有之若シ其ノ時機ヲ失セシカ事實ノ真相ヲ捕促スルハ勿論證憑蒐集困難ニ陥リ延テ審判上支障ヲ生セシムルニ至ルヘキ次第ニ有之候就テハ事件發生ノ際ハ右訓令ノ趣旨ニ倣ヒ電報其ノ他最モ急速ナル方法ニ依リ當所ヘモ通知方貴管内沿岸各地ノ警察署ヘ御通達相成度此段御依頼ヲ兼テ及照會候也

追而今回ノ如キ暴風雨ノ爲海難船多數可有之見込ナルニ當リテハ其ノ狀況ヲ知り得サル狀態ニヨリ事務上不便ナルノミナラス蓋支テ感シ居ル次第ニ有之又海難船ハ汽船及噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノ帆船ニ限リ御通報相成度

(別紙)

海難電報届出方(明治二十六年三月選信省訓令第一號)

船艙衝突乗揚等ノ原因ニ依リ沈没若シクハ破壊シ又ハ乘客若シクハ乗組員死傷シタル場合ニ在リテハ本年三月當省令第五號ニ依リ海難取調ノ完結スルト否トニ拘ラス沈没若シクハ破壊ノ原因、日時、船名、死傷人ノ員數等電報ニテ直チニ届出ツヘシ

海難取調書類ノ用紙ニ關スル件

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

大正三年四月二十七日
東京地方海員審判所東北發第二八三號

從來海難取調ニ關スル書類ハ其用紙區々ナリシモ都合ニ依リ自今總テ半紙版ヲ限リ使用スルコトニ致候間貴管内沿岸各警察署ヘ其趣旨御傳達相煩候也

追テ審判關係人ヨリ屆書其他ノ書類提出ノ場合ニ於テモ同様指圖有之度旨御傳達相成度候

海難調書様式ニ關スル件

大正十一年十二月十二日
戊警保收第一〇二二八號

縣下沿岸各警察署長宛

海難船通知方ニ關シ本年九月八日附戊警保收第七五三三號ヲ以テ及通牒置候處今同東京地方海員審判所長ヨリ爾後同通知ニ對シテハ別紙調書ヲ使用セラレ度旨申越相成候様可然御取扱有之度依命此段及通牒候也

(別紙)

漂流物沈没品件數表

郡市役所

種別	取扱件數		前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
	前年	本年										
物件ノ價格	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
所有者ニ引渡シタル件數	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
拾得者ニ引渡シタル件數	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ニ依リテ公賣シタル件數	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
拾得者ニ支給シタル分一金額	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
公告件數評價及取除公賣費用	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年
國庫ノ取得トナリタル金額	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年

國庫	支給シタル金額	
遭難船舶救護取扱表		
被救護船數	救護費	公賣代金
		國庫補助金

汽船	帆船	石船	救護費トハ本報救護法第十三條ニ規定スル費用ヲ謂フ
救護費トハ本報救護法第十三條ニ規定スル費用ヲ謂フ			

備考

●遭難船舶救助ニ關スル件

大正十三年一月三十一日
十三保收第一四九號內務部長、警察部長

沿岸郡市長 沿岸警察官署長宛

標題ノ件ニ關シ寺岡橫須賀鎮守府參謀長ヨリ別紙寫ノ通リ通知有之候ニ付爾今右ニ依リ取扱相成度此段及通牒候也
(別紙寫)

遭難船舶救助ニ關スル件 (大正十二年十二月二十八日橫須賀鎮守府參謀長ヨリ松原神奈川縣內務部長宛)

在橫濱北村回漕店ヨリ本府宛一昨二十六日午後八時頃別紙ノ救護要求有之候ニ就テハ驅逐艦時雨ヲ特派シ之カ救助ニ從事セシメラレ候從來遭難船舶救助要求ノ際所有主又ハ最寄警察町村役場等ヨリ逸早ク本府ニ直接交渉シ來リ尙作業終了後ニ於テ何等所管廳ニ報告等ノ手續ヲサササルモノ多多有之ニ被存候處爾今斯ル際ニハ必ス所管廳經由本府ニ申出テシムルコトト致度但シ人命危險ニ瀕シ如上ノ手續ヲ採ル能ハサル如キ緊急ヲ要スル場合ハ直接本府ニ申出ツルト同時ニ所管廳ニ報告セシムルヲ至當ト認メ候條右様右通知旁申進ス
(別紙一葉添付)

電話要領 (大正十二年十二月二十六日午後八時頃受)
橫濱北村回漕店發橫須賀鎮守府宛

本店所有ノ汽船一隻「ライター」四隻ヲ曳キ神戶ヨリ橫濱ニ回航ノ途次本日夕方大島丈ヶ島ノ間ニ於テ暴風(西風)ノ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

爲曳綱切斷「ライター」ハ行方不明トナリ汽船ハ伊東ニ避難セリ尤「ライター」ハ劍崎方面ニ漂流セルモノノ如ク乗員數名アリ至急救助方御配慮ヲ乞フ

●海難電報届出方ノ件

大正十三年八月十三日
十三保收第一七〇〇二號

沿岸各警察官署長宛

本月七日船第一七一號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ別紙ノ通リ逕信省管船局長ヨリ通牒有之候ニ付可然取計相成度依命此段及通牒候也
(別紙)

海難電報届出方ノ件 (大正十三年八月六日船第一七一號)
逕信省管船局長ヨリ神奈川縣知事宛

船舶ノ海難届出ニ付テハ明治二十六年三月逕信省訓令第一號(別紙要領參照)ノ次第モ有之時時御報告相成候得共今役多數ノ人命ヲ喪ヒタル海難ハ可成詳細御回電方相煩度依命
(別紙)

海難電報届出方ノ件 (明治二十六年三月)要領
逕信省訓令第一號

船舶衝突乗揚等ノ原因ニ依リ沈没若シクハ破壊シ又ハ乘客若シクハ乗組員死傷シタル場合ニ在リテハ海難取調ノ完結スルト否トニ拘ラス沈没若シクハ破壊ノ原因、日時、場所、船名、死傷人員數等電報ニテ直チニ届出ツヘシ

●臺灣汽船職員懲戒取扱規則(抄録)

明治三十五年十一月二十五日
臺灣總督府令第八十二號

第一條 海技免狀ヲ受有スル汽船職員其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當シタルトキハ當該船長(船長不在ナルトキハ其ノ代理者)ニ於テ臺灣總督府又ハ本船所在地若ハ爾後初テ到着シタル地ヲ管轄スル郡役所、支廳又ハ警察官署、内地ニ在リテハ海事局、海務署、同出張所、警察署、同分署、市役所、町村役場、市制又ハ町村制ヲ施

行セサル地方ニ在リテハ戸長役場又ハ之ニ準スヘキ役場、外國ニ在リテハ其ノ地駐留ノ日本領事館、同分館若クハ貿易事務館ニ其ノ旨届出ツヘシ

一 人ヲ殺傷シ又ハ自他ヲ間ハス船舶ヲ沈没、破壊シ又ハ船體若クハ機關ヲ毀損シタルトキ

二 船舶ヲ放棄シタルトキ

三 海難ニ罹リタルトキ若ハ海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ

四 法令違反ノ所爲アリタルトキ

第二條 前條各號ニ該當スル事實アルコトヲ認知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ同條ニ掲ケル官廳若ハ公署ニ其ノ旨届出ツヘシ

第三條 海軍官、税關官吏、郡守、支廳長又ハ警察官吏ニ於テ臺灣汽船職員懲戒規則第一條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ當該職員及必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ海難事件ニ在リテハ左ノ各號ノ事項其ノ他ノ事件ニ在リテハ第一號乃至第五號及第十四號ノ事項ヲ取調ヘ取調ヘ調書ヲ作り直ニ之ヲ臺灣汽船職員懲戒委員會ニ提出スヘシ

一 取調ヲ受ケタル者ノ住所、氏名、職業及年齢

二 汽船ノ名稱、種類、登録噸數及公稱馬力並其ノ所有者ノ住所氏名

三 汽船職員ノ住所氏名並其ノ受有スル海技免狀ノ種類及番號(内地ノ役與ニ係ルトキハ其ノ旨附記スヘシ)

四 發航地、到達地並事件ヲ惹起シタル場所及年月日時

五 事件ノ顛末

六 發航以後事件ヲ惹起シタル迄ノ天候、航路、速力及船舶職員、舵取、看守ノ當直時間並其ノ氏名

七 船舶損傷ノ箇所並其ノ再用ノ適否

八 船客、乗組員ノ員數並其ノ死傷ノ有無

九 貨物ノ種類數量並其ノ損害ノ有無

十 人命船舶及貨物救護ノ方法

十一 航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及航路ニ於ケル自差

(神奈川警)

(神奈川警)

十二 使用シタル海圖ノ種類及番號

十三 航海日誌ノ存否

十四 取調ヲ受ケタル者何日其ノ地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト

調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ取調ヲ受ケタル者ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ

臺灣汽船職員懲戒規則發布ノ件

明治三十六年一月九日
示令第二號

沿海警察(分)署長宛

客年律令第八號臺灣汽船職員懲戒規則發布ノ結果職員ノ懲戒ニ付スヘキ事實アルコトヲ認知スルノ必要ニ因リ臺灣總督府ニ於テ同年十一月二十五日府令第八十二號ヲ以テ取扱規則規定候ニ付其ノ第一條第二條ニ依リ届出アリタルトキハ之ヲ受理シ同規則第三條ニ準據シ取扱フヘシ

第十二節 消防

特設消防署規程

大正八年七月十七日
勅令第三百五十號

改正 大正一二年四月勅令第一八一號、一三年九月第二一六號、一二月第三九七號

朕特設消防署規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特設消防署規程

第一條 水火消防ニ關スル事務ニ從事セシムル爲大阪府、京都府、神奈川縣、兵庫縣及愛知縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

地方警視

專任一人

奏任

消防士

專任三十六人

判任

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

消防機關士

專任十四人

判任

五五六

地方警視ハ大阪府ニ限リ之ヲ置ク

消防士及消防機關士ノ各府縣ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 大阪市、京都市、横濱市、神戸市及名古屋市並第三項ノ規定ニ依ル編入區域内ニ於ケル水火災ノ警戒防禦

ヲ掌ラシムル爲大阪府ニ消防署、京都府、神奈川縣、兵庫縣及愛知縣ニ各二消防署ヲ置ク

各消防署ノ管轄區域ハ知事之ヲ定ム

知事ハ土地ノ狀況ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケ第一項ノ市ノ接近町村ノ全部又ハ一部ヲ消防署ノ管轄區域ニ編入

スルコトヲ得

知事必要ト認ムルトキハ消防署ノ下ニ消防分署ヲ置クコトヲ得

第三條 知事必要ト認ムルトキハ消防署ヲシテ其ノ管轄區域外又ハ其ノ府縣外ノ水火災ノ警戒防禦ニ應接セシムル

コトヲ得

第四條 警察部長ハ知事ノ命ヲ承ケ第一條ノ職員、消防手及消防員ヲ指揮監督ス

第五條 第一條ノ地方警視ハ警察部ニ屬シ第二條第一項ノ規定ニ依ル區域ニ拘ラス上官ノ命ヲ承ケ消防事務ヲ掌リ

其ノ執行ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防士、消防機關士、消防手及消防員ヲハ警察部管轄區域外ニ在リテ指揮監督ス

大阪府ヲ除ク外第一條ニ掲ケル府縣ニ在リテハ知事ハ警察部勤務ノ地方警視ヲシテ消防署管轄區域ニ付前項ノ

規定ニ依ル職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條 消防士及消防機關士ハ警察部、消防署又ハ消防分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部下ノ消防手及消防員ヲ指揮監督ス

第七條 消防署長ハ消防士、消防分署長ハ消防士又ハ消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

消防署長及消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管事務ヲ掌リ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第八條 第一條ニ掲ケル府縣ニ消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス

消防手ハ警察部、消防署又ハ消防分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防手ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第九條 第一條ニ掲ケル府縣ニ消防員ヲ置クコトヲ得

消防員ハ消防署又ハ消防分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防員ニ關スル規定ハ知事之ヲ定ム

第十條 本令ニ依ル消防ニ關スル經費ハ其ノ國庫ニ屬スルモノヲ除ク外府縣警察費ノ支辨トス

附則

本令ハ大正八年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ神奈川縣ニ在リテハ同年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市消防規程ハ之ヲ廢止ス

大阪市消防規程ニ依ル警視、消防士及消防機關士ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレ

サルトキハ同官等俸給ヲ以テ各當該官ニ任セラレタルモノトス

●特設消防署規程第一條ニ依ル其ノ縣消防士、消防機

關士ノ定員 大正十三年九月二十九日

内務省訓第八三七號

神奈川縣

其ノ縣消防士消防機關士定員左ノ通改ム

消防士 專任 七人

消防機關士 專任 二人

●特設消防署規程施行細則

大正八年八月二十九日

改正 大正九年四月告示第一六三號、第一七四號、一〇年四月第一五三號、一一年六月第一九五號、一〇月第三四一號、一二年一月第二九

九號、一四年三月第一四四號

特設消防署規程施行細則左ノ通定メ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

特設消防署規程施行細則

第二編 保安 第一章 安寧

五五七

- 第一條** 消防手消防員及器械器具ノ員數ハ別表第一號表ニ依ル
- 第二條** 消防手消防員ニ給與又ハ貸與スル被服其ノ他ノ物品ハ別表第二號表ニ依ル
- 第三條** 消防員ハ體質健全ニシテ徵兵ニ相當セス且左記各號ノ一ニ該當セサル者ノ中ヨリ採用ス
- 一、年齢二十年ニ滿テサル者
 - 二、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ所犯情狀酌量スヘキモノニシテ其ノ執行ヲ終リタル後滿三ヶ年ヲ經過シ若ハ執行猶豫ノ期間ヲ經過シ改後ノ情著シト認メタルトキハ此ノ限ニアラス
 - 三、懲戒處分ニ依リ免職セラレ滿二ヶ年ヲ經過セサル者
 - 四、禁治產者又ハ準禁治產者
 - 五、家畜分散又ハ破産者
 - 六、酒癖又ハ暴行ノ癖アル者
- 第四條** 消防員ハ警察部長ニ於テ命免ス
- 第五條** 消防手消防員ヲ志願セムトスル者ハ消防練習所長ヲ經由シ消防手ハ知事ニ消防員ハ警察部長ニ願書ヲ差出スヘシ
- 第六條** 消防手消防員ニシテ辭職セムトスルトキ亦同シ
- 第六條** 消防員ノ懲罰ハ其ノ情狀ヲ審案シ左ノ各號ニ依リ警察部長之ヲ行フ
- 一、解職
 - 二、呵責
- 第七條** 横濱市内ニ於ケル水火柴ノ警戒信號ハ左ノ七種トス但シ水火柴ノ狀況ニ依リ非番消防手若ハ消防員ヲ召集スル必要ナキ場合ハ信號ヲ爲サ、ルコトアルヘシ
- 一、 $\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc$ (所轄外ニシテ應援ヲ要セスト認ムルトキ) 一點
 - 二、 $\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc$ (所轄内ニシテ出場ヲ要スト認ムルトキ) 二點

(神奈川警)

(神奈川警)

- 三、 $\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc$ (近火ニシテ警鐘奏ヨリ凡三四丁又ハ風下ニ當ル等危険アリト認ムルトキ) 三點
- 四、 $\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc$ (大火其ノ他烈風ノ場合等非當ニ危険ナルトキ) 續打
- 五、 $\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc$ (所轄外ニ應援ヲ要スルトキ) 四點
- 六、 $\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc-\bigcirc$ (所轄外ニ應援ヲ要スルトキ) 一點

第八條 (烟火ノトキ約三十秒ヲ隔テ●三點ニ止ム)

信號ハ五分乃至十分間之ヲ行フヘシ但シ烟火信號ハ此ノ限ニアラス

附則

第九條 本則施行ノ際現ニ横濱市内ノ消防組員タル者ハ別ニ定ムル消防員ノ遵守スヘキ事項ノ宣告ニ對スル誓書ニ署名捺印スルヲ以テ消防員ヲ命セラレタルモノト看做ス

第十條 本則ニ定メタル消防練習所長ノ職務ハ當分ノ内巡查教習所長之ヲ行フ

(別表) 第一號ノ一

消防署消防分署配置人員並主要器具表

所別	種別	消防曹長	消防手	計	自動車 ポンプ	水 自動車	蒸 気 ポン プ	汽 油 ポン プ	水 管 車	オート パ ン ク	ホ ー ス
第一消防署	伊勢佐木町出張所	四	二六	三〇	大一	-	-	-	-	-	-
第一消防署	初音町出張所	二	一〇	一四	大一	-	-	-	-	-	-
第一消防署	浅間町出張所	二	一〇	一四	大一	-	-	-	-	-	-
第一消防署	神奈川分署	二	二二	一四	小一	-	-	-	-	-	-
第二消防署	神奈川分署	四	二六	三〇	大一	-	-	-	-	-	-

第二編 保安 第一章 安寧

消防員配置	谷戸坂出張所	見崎出張所	地蔵坂出張所	水上出張所	第二消防署	中村町分署	藤田出張所	磯子出張所	第二消防署	計
名	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二
組	三	四	三	四	一八	一八	一〇	一四	一四	一六〇
頭	四	四	四	四	二〇	二〇	一	一	一	小三
小	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四
頭	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
消	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
防	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
員	三	四	三	四	二〇	二〇	一	一	一	二四九

備考 水上出張所ノ消防ノ職員ハ水上警察署勤務ノ船長一名、機關士一名及水夫十名ヲ兼務セシム

(別表) 第一號ノ二

消防員配置	伊勢佐木消防組	戸部消防組	南太田消防組	平沼消防組	第一消防署	神奈川分署	神奈川分署	第一消防署	第二消防署
名	三	三	三	三	六	五	六	三	一
組	六	六	六	六	三	四	四	一	二
頭	六	六	六	六	三	四	四	一	二
小	一	一	一	一	一	一	一	一	一
頭	一	一	一	一	一	一	一	一	一
消	一	一	一	一	一	一	一	一	一
防	一	一	一	一	一	一	一	一	一
員	九	九	九	九	三	四	四	一	二

(神奈川警)

(神奈川警)

種別	第二消防署	中村町分署	第二消防署	北分署	計
消防曹長	九	七	一	一	一八
消防手	六	四	六	八	二四
計	一五	一一	七	九	四二

(別表) 第二號

種別	制式	消防曹長	消防手
冬ハ濃紺又ハ黒羅紗、黒又ハ白木綿裏	消防曹長	同	同
夏ハ濃紺又ハ黒羅紗、黒又ハ白木綿裏	消防手	同	同
蛇腹組赤線一分幅一條、蛇腹組銀線一分幅一條	消防曹長	同	同
夏服ハ略火章一個	消防手	同	同
略日章徑五分	消防曹長	同	同
略日章徑五分	消防手	同	同
眞鍮製無地、徑六分五厘五個ヲ胸部ニ附ス	消防曹長	同	同
眞鍮製無地、徑六分五厘五個ヲ胸部ニ附ス	消防手	同	同
濃紺又ハ黒絨	消防曹長	同	同
濃紺又ハ黒絨	消防手	同	同
眞鍮製無地、徑六分五厘五個ヲ胸部及後帶ニ一個ヲ附ス	消防曹長	同	同
眞鍮製無地、徑六分五厘五個ヲ胸部及後帶ニ一個ヲ附ス	消防手	同	同
隱袋各三分、黒角製五分、五個總裂四個雨覆三個	消防曹長	同	同
隱袋各三分、黒角製五分、五個總裂四個雨覆三個	消防手	同	同
蛇腹組赤線一分幅一條	消防曹長	同	同
蛇腹組赤線一分幅一條	消防手	同	同
黒革製美錠付幅五分長一尺五寸	消防曹長	同	同
黒革製美錠付幅五分長一尺五寸	消防手	同	同
黒革幅一寸五分前金具眞鍮製美錠付内徑一寸五分同外二寸	消防曹長	同	同
黒革幅一寸五分前金具眞鍮製美錠付内徑一寸五分同外二寸	消防手	同	同
濃紺又ハ黒絨前庇黒革	消防曹長	同	同
濃紺又ハ黒絨前庇黒革	消防手	同	同
眞鍮製略日章徑一寸	消防曹長	同	同
眞鍮製略日章徑一寸	消防手	同	同
横二寸六分、縦三寸表紙黒革製トシ表面ニ金字ニテ消防手	消防曹長	同	同
横二寸六分、縦三寸表紙黒革製トシ表面ニ金字ニテ消防手	消防手	同	同

第二編 保安 第一章 安寧

官職名 種別 品目 員數 使用期限 給與期節

給與品ノ個數及使用期限ハ左ノ通り

消防員	衣箱	壹	個	十二ヶ月	期限滿年ノ十月
	袴	壹	着	十二ヶ月	同上

衣袴ハ紺木綿製拾トス
 袴付帶革、刺子外套、及手帳ハ貸與品トシ消防手ニ給スル短靴、靴下、襪衣、襟、手袋及グートルハ其ノ代料ヲ交付ス

●消防署消防分署執務心得

大正八年八月二十九日
 訓令第三十五號

消防署長 消防分署長

消防署消防分署執務心得左ノ通り定メ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

消防署消防分署執務心得

- 第一條 水火災ノ際ハ災害地所轄消防署所屬ノ消防手及消防員ハ全部出場スヘシ但シ災害ノ狀況ニ因リ全員出場ノ必要ナシト認ムルトキハ消防官署長ハ其災害地及近接地域ノ消防出張所又ハ消防所員若ハ消防員ノ出場ニ止ムルコトヲ得
- 第二條 水火災ニ際シ應接ヲ要スルトキハ市部ニ在リテハ其災害ノ狀況ニ因リ消防官消防員ノ全部若ハ一部ヲ出場セシメ郡部ニ在リテハ警察部長又ハ其ノ代理官ノ指揮ヲ俟テ出場セシムヘシ郡部接續地ノ消防員ハ直ニ出場スルモ妨ケナシ
- 第三條 消防署長消防分署長水火災ヲ防止シタルトキハ出場消防官消防員ニ對シ直ニ現場點檢ヲ施行シ退場セシムヘシ但シ殘火ノ消滅ニ必要ナル人員ハ之ヲ殘存セシムヘシ
- 第四條 消防署長消防分署長ハ水火災場ニ於テ左記事項ヲ調査シ歸署後警察部長ニ報告スヘシ
 - 一 出場所及消防員ノ數並其異狀ノ有無
 - 二 出場時間
 - 三 地理水利ノ狀況

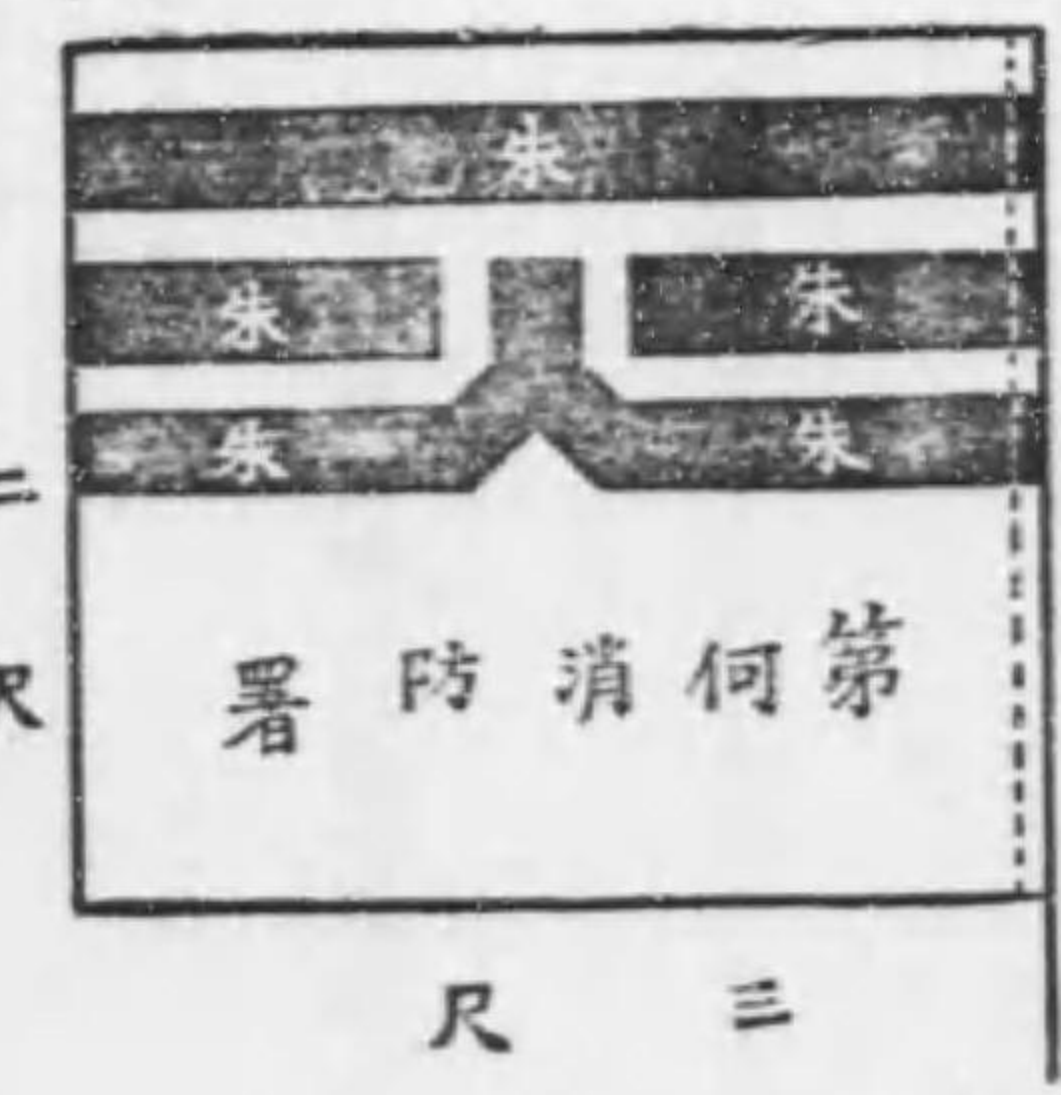
〔神奈川県警〕

〔神奈川県警〕

- 四 使用機械器具及其完否
- 第五條 消防署長消防分署長ハ消防手ニ付テハ毎月二回以上消防員ニ付テハ毎年二回以上ノ演習ヲ施行シ其成績ヲ七日以内ニ警察部長ニ報告スヘシ
- 第六條 消防手消防員ノ賞罰ハ別ニ定ムル手續ニ依リ消防署長消防分署長ヨリ消防手ニ付テハ知事ニ消防員ニ付テハ警察部長ニ具申スヘシ
- 第七條 消防署長消防分署長ハ水火災場ニ於テ其ノ所在ヲ標示スル爲メ別記號形ノ旗座(夜間ハ高張提灯)ヲ掲クヘシ

消防署長提灯

消防署長旗



●神奈川縣消防手消防員服務規程

大正八年八月二十九日
訓令第三十六號

改正 大正一一年七月訓令第四〇號

消防署長 消防分署長 消防練習所長

神奈川縣消防手及消防員服務規程左ノ通り定ム
本令ハ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

神奈川縣消防手消防員服務規程

第一條 消防手消防員ハ法令又ハ上官ノ指揮命令ニ依リ水火災ノ警戒防禦及水火災場ニ於ケル人命救護ノ事務ニ服スヘシ

第二條 消防手消防員ハ常ニ出場區域内ノ地理水利ヲ詳知スヘシ

第三條 消防手ハ常ニ職務上必要ナル學科及實務ヲ練習スヘシ

第四條 消防手ハ勤務ノ當否ニ拘ラス所轄内信號又ハ應援信號アリタルトキ其ノ他出場ヲ要スヘキ水火災ニ際シテハ直ニ制規ノ場所ニ參集スヘシ消防員ニアリテモ亦同シ

第五條 消防手消防員ハ常ニ左ノ各號ヲ恪守スヘシ

一、上官ノ職務上ノ命令ニ對シテハ其ノ事ノ如何ヲ問ハス直ニ之レニ服從スルコト

二、指揮命令ニ從ハス志ニ進退スル等ノ所爲ナキコト

三、勤務ノ内外ヲ問ハス他人ニ對シテ粗暴驕慢ノ所爲ナキコト

四、許可ヲ得スシテ職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス金品ヲ受領セザルコト

五、勤務中飲酒又ハ喧嘩セザルコト

六、擅ニ勤務ヲ缺略セザルコト

七、出場又ハ執務時限ヲ延延シ其ノ他怠慢ノ所爲ナキコト

八、機械器具ハ努メテ鄭重ニ取扱ヒ破損セシメザルコト

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

九、前各號ノ外法令又ハ制規ニ背キ若ハ體面ヲ汚スカ如キ言行アルヘカラス

第六條 消防員若干人ヲ以テ消防組ヲ編成シ必要ニ因リ組ヲ更ニ數部ニ分チ組ニ組頭一人各部ニ小頭若干人ヲ置キ

消防員中ヨリ之ヲ任命ス

組頭小頭ハ消防官ヲ補佐シ左ノ事務ヲ行フ

一、組頭ハ消防員ノ進退賞罰ニ關スル事項ヲ調査シ消防官署長ニ報告スルコト

二、組頭ハ消防官ノ命ヲ承テ消防員ヲ指揮スルコト

三、小頭ハ組頭ノ任務ヲ補助シ組頭不在ノトキハ消防署長ノ指定セル小頭其ノ事務ヲ代理ス

第七條 消防手消防員ハ所屬消防署長消防分署長ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ專掌事務ニ服スヘシ
但シ當該專掌者不在其ノ他支障アル場合ニ於テハ專掌外ノ事務ニ服セシムルコトアルヘシ

一、機關專掌

一、操船專掌

一、筒先專掌

一、水管專掌

一、唧筒專掌

一、旗又ハ高張專掌

一、高口又ハ梯子專掌

一、喇叭又ハ傳令專掌

第八條 消火栓ノ開閉及調節ハ水管專掌ニ相當スヘシ

第九條 消防手ハ隔日勤務トス但シ必要ニ應ジ臨時勤務ヲ命ジ又ハ非番ノ日ト雖モ特別勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第十條 消防手ノ出勤時間ハ自七月十一日至九月十日午前八時自九月十一日至七月十日午前九時トス

第十一條 火ノ見掃ニハ消防署長ニアラサル消防手一名一時間交代ニテ晝夜見張勤務ヲ爲スヘシ

第十二條 消防署長ニアラサル消防手ハ消防署長又ハ消防分署長ノ定ムル勤務一覽表ニ據リ巡回署内見張其ノ他ノ

- 勤務ニ服スヘシ
消防手巡回ノ際ハ受持區内ノ火災警防上特ニ左ノ各號ニ注意スヘシ但シ急迫ノ事情アル場合ノ外他人ノ建物内ニ立入ラントスルトキハ現居住者ノ承諾ヲ受クヘシ
- 一、地理水利ノ便否消火栓ノ位置及配水鐵管並閉閉等ノ異狀
 - 二、街燈電燈瓦斯燈等ノ異狀
 - 三、劇場寄席觀物場官公衙學校病院其ノ他火災警防上必要ト認ムヘキ業體又ハ建物ノ異狀
 - 四、各種ノ工場湯屋石油店其ノ他常ニ火氣又ハ危險物ヲ取扱フ業體又ハ建物ノ異狀
 - 五、祭典其他雜踏ノ場所ニ於ケル煙火或ハ探火
 - 六、前各號ノ外火災警防管成上必要ナル事項
- 第十三條 消防手ハ休憩時間ト雖モ制服ノ服裝ヲ爲スヘシ
第十四條 消防用器械器具ハ各專掌者ニ於テ手入ヲ爲シ整理保存スヘシ
第十五條 自動車喇叭汽汽喇叭筒筒用喇叭筒及水管車等ノ夜間出場ニ際シテハ點燈スヘシ但シ危急ヲ要シ點火ノ過ナキトキハ此限リニアラス
- 第十六條 水火災ニ際シ上官ノ命ヲ待タズ建物ヲ破壞スヘカラス
第十七條 消防手消防員ハ別ニ定ムル地域内ニ居住スヘシ
第十八條 消防手ハ非番外出ノ場合ハ其ノ行先ヲ家人ニ告ケ明カナラシメ置クヘシ但シ強風烈風等ノ場合ニハ許可ナク所轄外ニ外出スヘカラス
- 第十九條 消防手市外ニ旅行セントスルトキハ其行先ヲ記シ所屬消防(分)署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
消防員七日以上市外ニ旅行セントスルトキハ其旨ヲ消防(分)署長ニ届出ツヘシ
- 第二十條 消防員ノ禮式ニ關シテハ警察禮式ノ規定ヲ準用ス
第二十一條 消防手消防員召集ヲ受ケタルトキハ速ニ指定ノ場所ニ參集スヘシ
第二十二條 消防手ハ勤務中左記雜形ノ名刺五枚以上ヲ携帯スヘシ
第二十三條 消防手ノ住所ニハ別記雜形ノ標札ヲ掲グヘシ

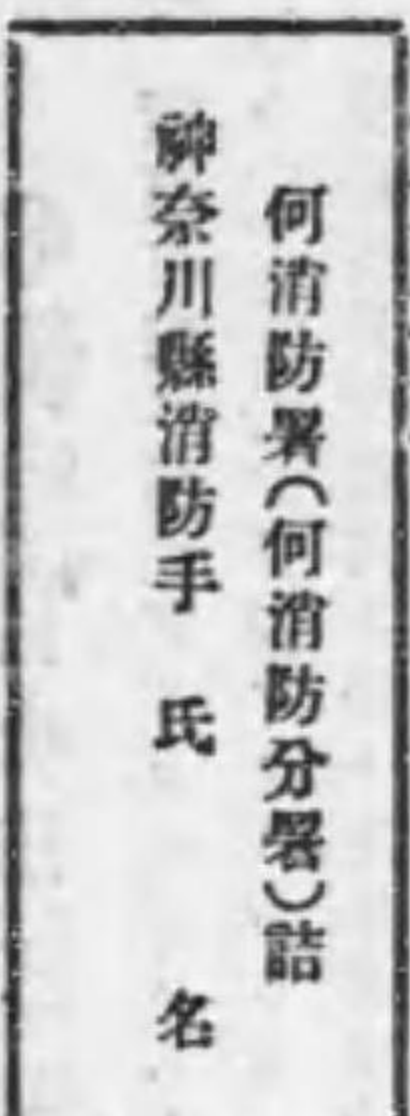
〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 第二十四條 消防曹長ハ所屬消防(分)署長ノ定ムル所ニ隨ヒ所轄内ヲ巡視スヘシ
第二十五條 消防曹長巡視ノ際ハ左ノ各號ニ注意シ其ノ都度上官ニ報告スヘシ
- 一、消防手ノ勤務姿勢禮式及服裝
 - 二、消防器械器具及消防屯所ノ建物並備品ノ狀況
 - 三、消防屯所ニ於ケル文書ノ整理及構内外ノ清潔保持
 - 四、前各號ノ外消防手消防員ノ職務並身分ニ關スル監督上必要事項
- 第二十六條 消防手勤務ニ就クトキハ其都度勤務一覽表ニ捺印スヘシ
第二十七條 消防出張所又ハ消防屯所ニ勤務スル消防曹長若ハ上席消防手ハ毎朝交代ノ際備品目錄簿ト照合シ引繼ヲ爲スヘシ
- 第二十八條 規定ノ勤務ヲ終リ非番ニ相當スルトキト雖モ交代員ノ到着スル迄ハ勤務所ヲ離ルヘカラス
第二十九條 消防手缺勤セントスルトキハ當日出勤一時間以前ニ所屬消防(分)署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
病氣引能願ニハ警察醫ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第三十條 消防手ハ父母疾病ニ罹リ看護歸省ヲ爲サントスルトキハ該地市區町村長又ハ警察官吏ノ證明書若ハ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ往復滞在豫定日數ヲ記シ所屬消防分署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
父母疾病ニ罹リ急速ニシテ前項ノ手續ヲ爲スニ退ナキトキハ親戚又ハ隣佑ヨリ發シタル電報ヲ添ヘ願出ツルコトヲ得但シ歸省ノ上項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三十一條 父母ノ忌引喪後備役ノ軍籍ニ在ル者ニシテ其召集ニ應シ又ハ傳染病ノ爲メ交通遮斷ヲ受ケタルモノニシテ缺勤スルトキハ其旨届出ヘシ

名刺 雜形

(二寸五分)



(分二寸一)

第二編 保安 第一章 安寧

標札 雜形

(七寸)



(分五寸二)

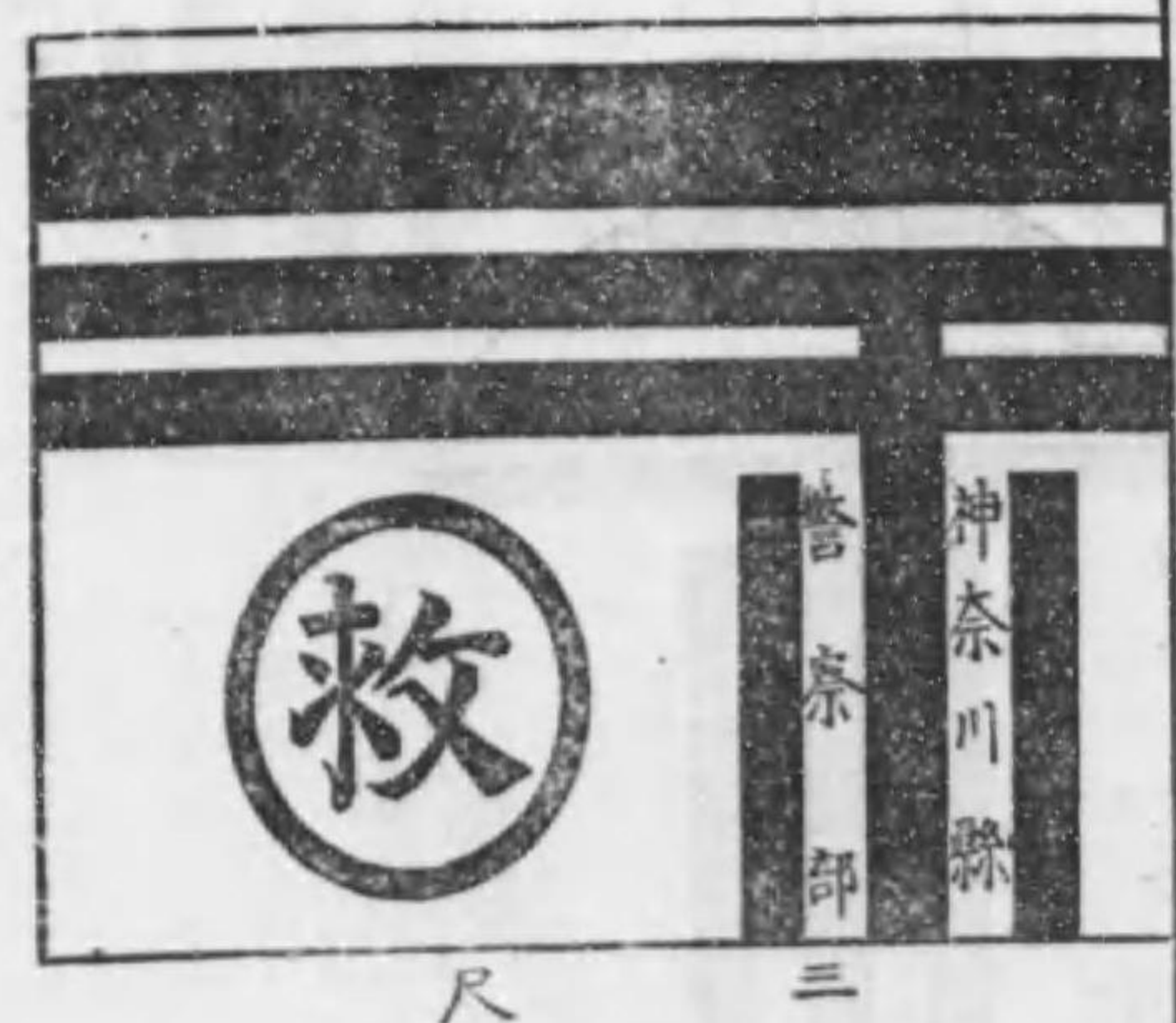
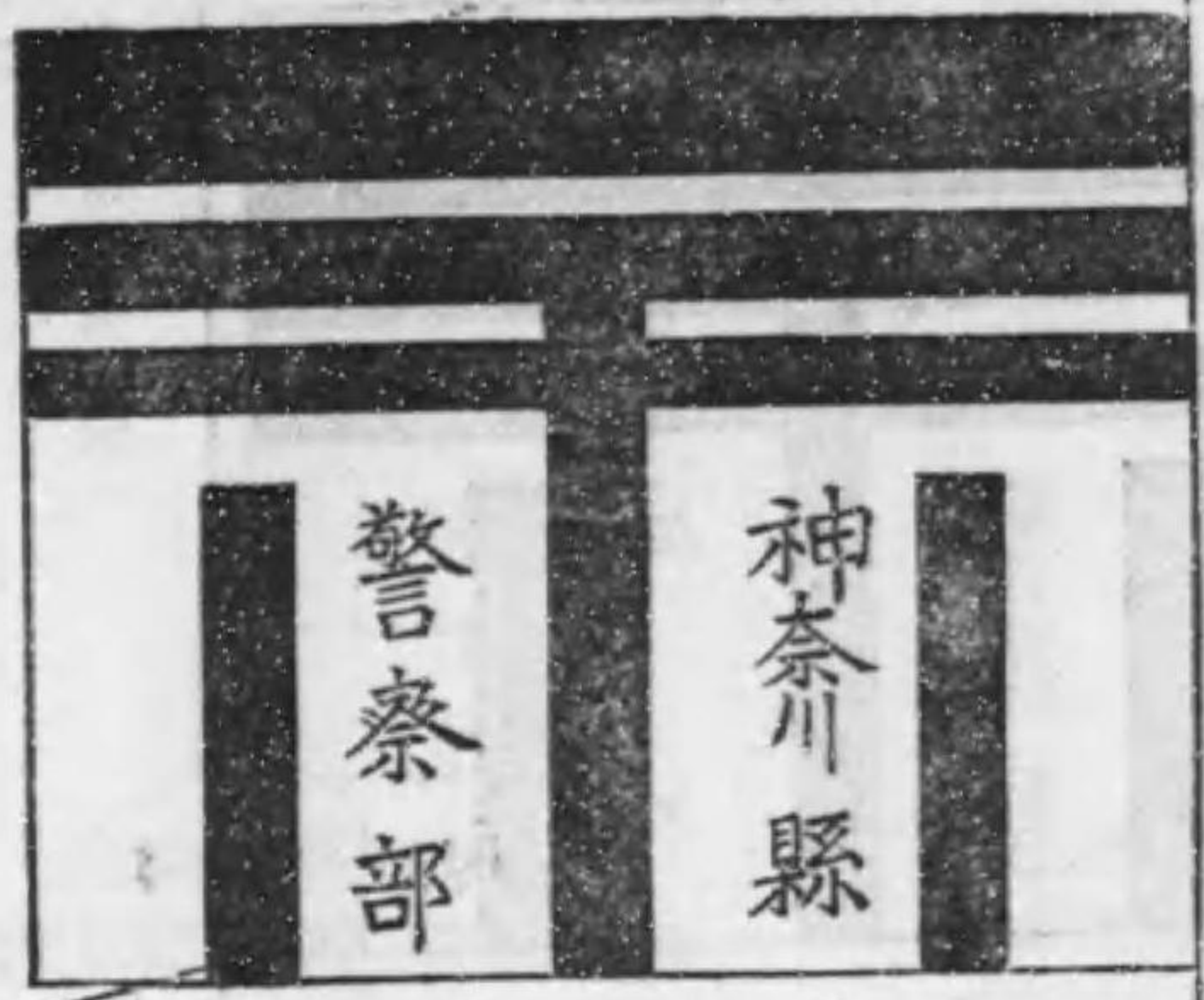
警察官火災場警戒規程

大正八年九月一日 訓示甲第二六號

- 第一條 横濱市内ニ出火アリタルトキハ左記各號ノ規程ニ從フヘシ
 - 一 知セ(二點打)ノ信號アリタルトキハ當非番員共ニ出場ノ準備ヲ整ヘ次ノ信號ヲ待ツヘシ
 - 二 本局警察署所轄内ニ於テ出場信號(二點打)アリ其ノ出火場所轄内ナルトキハ當非ニ拘ハラヌ出場シ所轄外ナルトキハ當番員中休憩時間ニ相當スル者出場スヘシ
 - 三 所轄内ニ於テ近火信號(三點打)アリタルトキハ當非ニ拘ハラヌ出場スヘシ
 - 四 非常信號アリタルトキハ其ノ出火場所轄ノ内外ヲ問ハス總テ出場スヘシ
 - 五 應援信號(四點打)アリタルトキハ非番員全部及當番員ノ約半數出場スヘシ
 - 六 第四號及第五號ノ場合ニハ警察部及水上警察署在勤員ニ於テモ出場スヘシ
- 第二條 警察署長ニ於テ出火アルコトヲ知リタルトキハ急速其ノ方位ヲ所轄消防署長ニ通知シ同時ニ警察部長ニ報告スヘシ
- 第三條 火災ノ狀況ニ因リ其ノ周圍必要ノ地域ヲ限リ非常線ヲ設ケヘシ
- 第四條 前條ノ非常線ニハ巡查ヲ配置シ警部、警部補又ハ巡查部長ヲ以テ監督セシムヘシ
- 第五條 警察署長ハ非常線ノ配置其ノ他火災場警戒ノ爲メニ豫メ署員ニ擔當事務ヲ命ジ置クヘシ
- 第六條 警察部長出場ノトキハ其ノ位置ヲ主タル火勢ノ變フ所ニ定ム
- 第七條 保安課長ハ各方面ヲ巡察シ火勢ノ狀況ヲ警察部長ニ報告シ專ラ防火方略ノ便宜ヲ圖ルヘシ
- 第八條 警務課長ハ非常線ノ警戒人命財產保護ノ狀況ヲ巡察シ傍ラ火勢ニ注意シ之ヲ警察部長ニ報告スヘシ
- 第九條 刑事課長ハ火災原因及盜難ノ狀況ヲ觀察シ警察部長ニ報告スヘシ
- 第十條 衛生課長ハ便宜ノ場所ヲ定メ死傷者ノ手當救護ニ從事シ其ノ場所ハ警察部長ニ報告スルト共ニ各課署長ニ通報スヘシ
- 第十一條 課長警部、警部補中上席者ハ其ノ課長ノ職務ヲ補佐シ不在ノトキハ之ヲ代理ス其ノ他ノ警部、警部補ハ警察部長ニ隨ヒ傳令使其ノ他ノ事務ニ服スヘシ
- 第十二條 警察部在勤ノ巡查部長及巡查ハ所屬課長ノ指揮ニ從ヒ職務ニ從事スヘシ
- 第十三條 出火場管轄地外ノ警察署長現場ニ臨ミタルトキハ警察部長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ警察部長不在又ハ指揮ヲ受クル邊ナキトキハ其ノ所轄警察署長ト協議シ警戒ニ從事スヘシ

〔神奈川警〕

- 第十四條 出火場所轄警察署當直警部、警部補ハ現場ニ臨ミ署長若クハ上席者出場ナキトキハ其ノ事務ヲ代理シ且出火ノ原因調査等司法上ノ手續ヲ執リ其ノ他ノ警部、警部補ハ署長ノ指揮ヲ受ケ事務ニ服スヘシ
 - 第十五條 火災ノ方位ハ可成速ニ警察署、警察分署、派出所、駐在所前ニ揭示スヘシ
 - 第十六條 警察部長、警察署長救護係ノ位置ハ晝間ハ第一號旗形ノ旗、夜間ハ第二號旗形ノ高張提灯ヲ以テ標示ス
 - 第十七條 鎮火シタル後警察署長ハ出場セシ部下ノ點檢ヲ行ヒ其ノ人員並異狀ノ有無ヲ警察部長ニ報告スヘシ
- 明治三十三年四月示令第三十九號横濱市内火災消防勤務心得ハ之ヲ廢止ス
- 第一號旗形ノ一
警察部長
第一號旗形ノ三
救護係

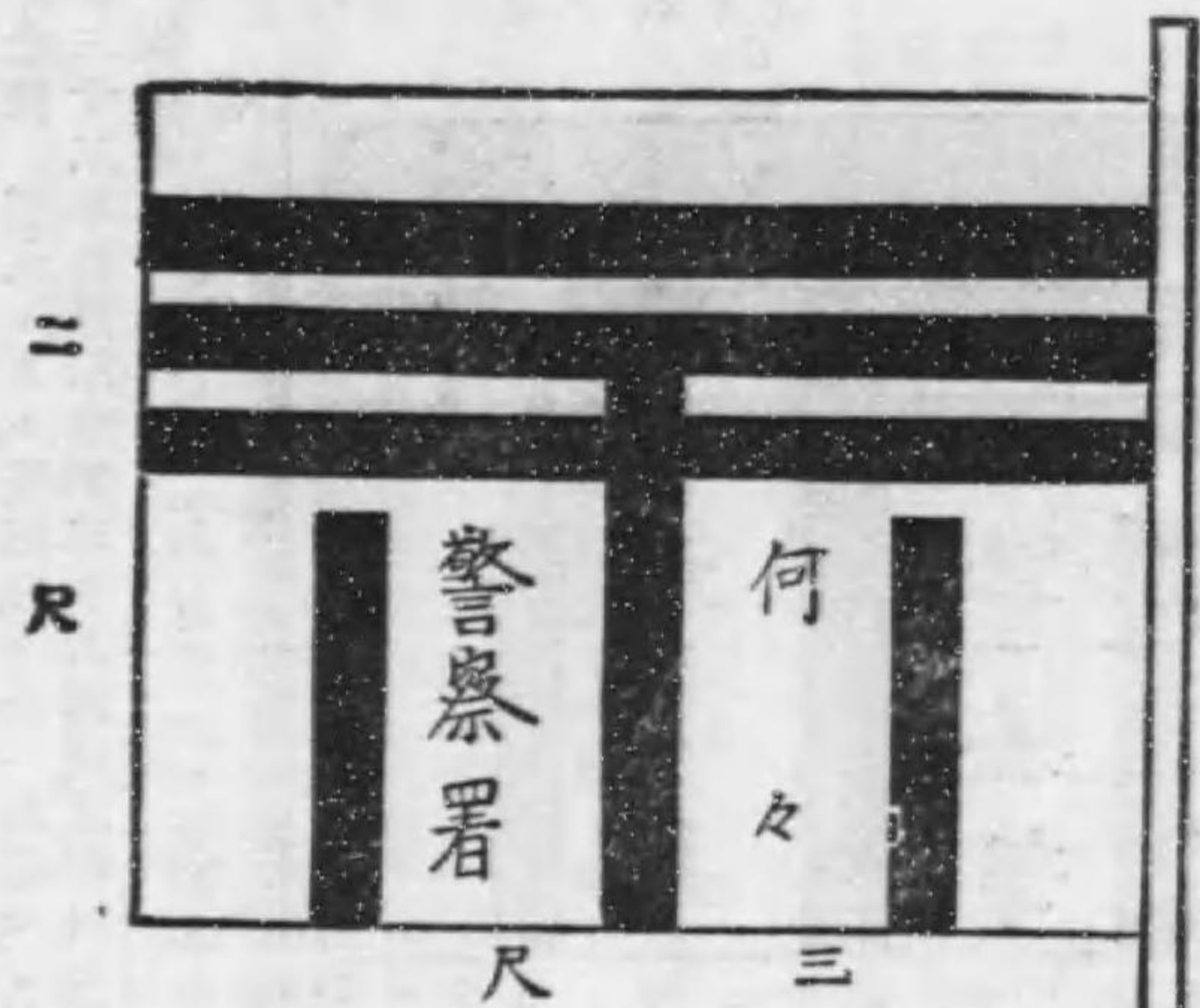


第二編 保安 第一章 安寧

線ノ色彩ハ凡テ現行ノモノニ同シ

同上ノ二

警察署長



第二號 雄形ノ一

警察部長



同上ノ三

救護係

同上ノ二

警察署長



〔神奈川警〕

〔神奈川警〕



線ノ色彩ハ凡テ現行ノモノニ同シ

●消防出場及應援ニ關スル件

大正八年九月一日
未發保第一〇三號

横濱市内消防出場及應援ニ關シテハ消防署消防分署執務心得ニ依ルノ外尙ホ大略左記ニ據リ出場相成依命此段及通牒候也

左記

- 第一 左ノ場合ニ於テハ消防官ニ限リ應援ノ要求ヲ俟タス直ニ出場スルコト
 - 一 關内及埋地七ヶ町ノ火災ニハ第一消防署本署及伊勢佐木町消防屯所ヨリ出場スルコト
 - 二 關外ノ火災ニハ第二消防署及中村町消防出張所ヨリ出場スルコト
 - 三 南吉田町、初音町、黄金町、三春町、英町、霞町、及南太田町、大岡川線方面ノ火災ニハ中村町消防出張所ヨリ出場スルコト
- 第二 消防員ハ各其ノ消防組所在地警察署管轄内ノ火災ノ場合ニ出場スルモノトス但シ應援ヲ要スルトキ及接續地火災ノ場合ハ此ノ限リニアラス
- 接續地ノ火災トハ境ニ接スル他ノ警察署區域中ノ火災ニシテ其ノ場所カ管轄境ヲ距ル凡ソ三四丁以内ニシテ消防員派遣ニ便宜ナルトキ
- 第三 水上消防屯所ニ在リテハ河海沿岸ヨリ噴筒水勢ノ達スヘキ地域ノ火災ニ出場スルコト

●火災應援ニ關スル件

大正十三年一月四日
十三保發第一號

消防官署長宛

昨年九月ノ震火災ノ際消防用器具ノ過般焼失シ未タ復舊セス然ルニ最近頻々トシテ火災發生シ火防上甚々寒心ニ堪ヘサル處ニ有之候就テハ當分ノ間火災發生シタル場合從來ノ應援區域外ト雖モ署長ニ於テ必要ト認メタルトキハ直ニ消防署ニ對シ應援ヲ求メ又ハ應援ニ出場シ互ニ共助ノ上火防上遺憾ナキ様努メラレ度依命此段及通牒候也

●市内警察官消防援助ニ關スル件

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

大正八年八月二十八日
未發保第一〇二號

今般勅令第三百五十號ヲ以テ特設消防署規程制定相成來ル九月一日ヨリ横濱市ニ施行セララル管ニ候處火災消防事務中ノ警備信號ノ如キハ當分小數ノ消防官ノミニテハ善ク其ノ任ヲ盡シ難キコトト思料セララルヲ以テ該制度實施後ニ於テモ警備取置方ニ關シテハ力メテ消防官ヲ援助ノ上若モ消防官消防員ヨリ先ニ出火アルコトヲ發見セラレタル場合ニハ巡查派出所又ハ駐在所員ニ於テ最寄消防員ヲ督スルカ若クハ消防員ヲ俟タス警察官ニ於テ直ニ警備打方ヲ始ムルト共ニ一面所轄消防官署ニ急速通報セララル様致度尙ホ各巡查派出所附近ニ配備セル水管車腕用噴筒等ニ關シテモ精々消防官消防員ニ御援助ノ上消防器具ノ活用ヲ一刻モ速カナラシムル様致度候條右趣旨御部下一般ニ周知方可然御取計ヒ相成依命此段及通牒候也

●消防員ノ服裝及旗提燈製式心得

大正八年十月二十八日
訓令第五十號

消防署長 消防分署長

改正 大正十一年一〇月訓令第五一號
消防員ノ服裝及旗提燈製式心得

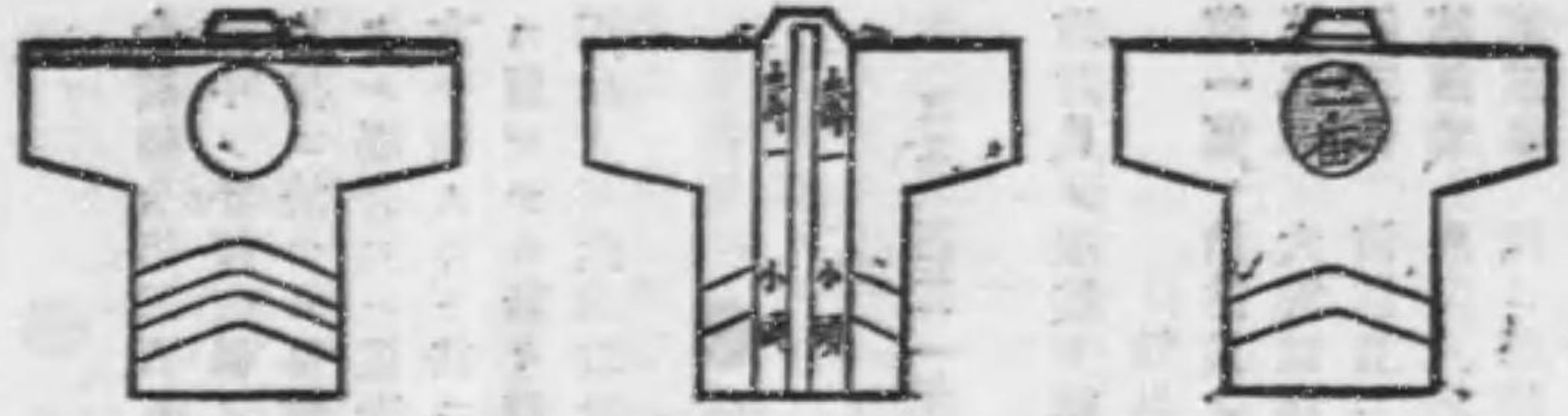
消防員ノ服裝及旗提燈製式心得

- 第一條 消防員ノ服裝及旗提燈ハ一組又ハ一部一個ニ限ル
- 第二條 大旗並高張提燈ハ一組又ハ一部一個ニ限ル
- 第三條 消防員ニシテ提燈携帶ヲ要スルトキハ消防署長之ヲ指定スヘシ
- 第四條 服裝及旗提燈ハ職務ニ從事スルトキニ限リ之ヲ用フルモノトス
- 第五條 現ニ著用スル被服ハ本規定ノ服裝製式ニ至ル迄之ヲ用フルコトヲ得

附則

明治二十七年五月神奈川縣廳訓第百二十二號消防組員ノ服裝及旗提燈製式規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ横濱市ニ適

用七ス
第一號

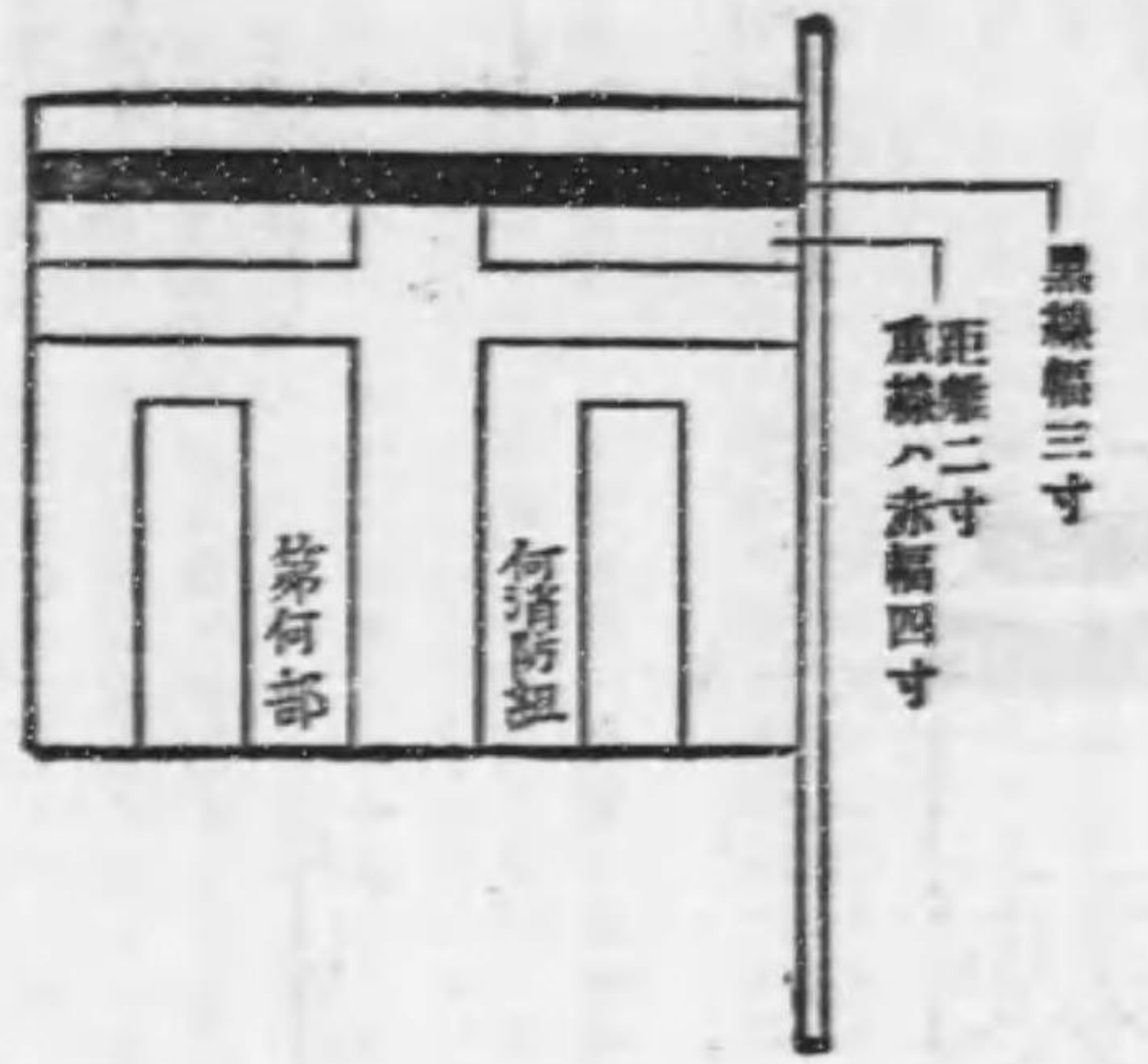


- 一、裨纏ノ兩襟ニハ組名ノ頭字及組頭小頭又ハ消防員ト黒地ニ白ク記シ第二消防署特置員ハ「第二特置消防員」ト記ス事
- 二、裨纏裾ノ波形横線ハ第一消防署所屬員ハ一線第二消防署所屬員ハ二線黒地ニ白ク露ハスモノトス
- 三、小頭ハ肩部ニ赤線一條組頭ハ同ニ條露ハスモノトス
- 四、背面環内ニハ左ノ區別ニ從ヒ地ニ黒ク番數ヲ記シ第二消防署特置員ハ「特」ト記スルコト
- 第一消防署所屬
- | | | | |
|-----|----|-----|----|
| 伊勢 | 佐木 | 消防組 | 一香 |
| 戸部 | | 消防組 | 二香 |
| 神奈川 | | 消防組 | 三香 |
| 子安 | | 消防組 | 四香 |
| 南太田 | | 消防組 | 五香 |
| 平沼 | | 消防組 | 六香 |

〔神奈川警〕

第二號

一、製式ハ總テ現在ノモノニ同シ



第二編 保安 第一章 安寧

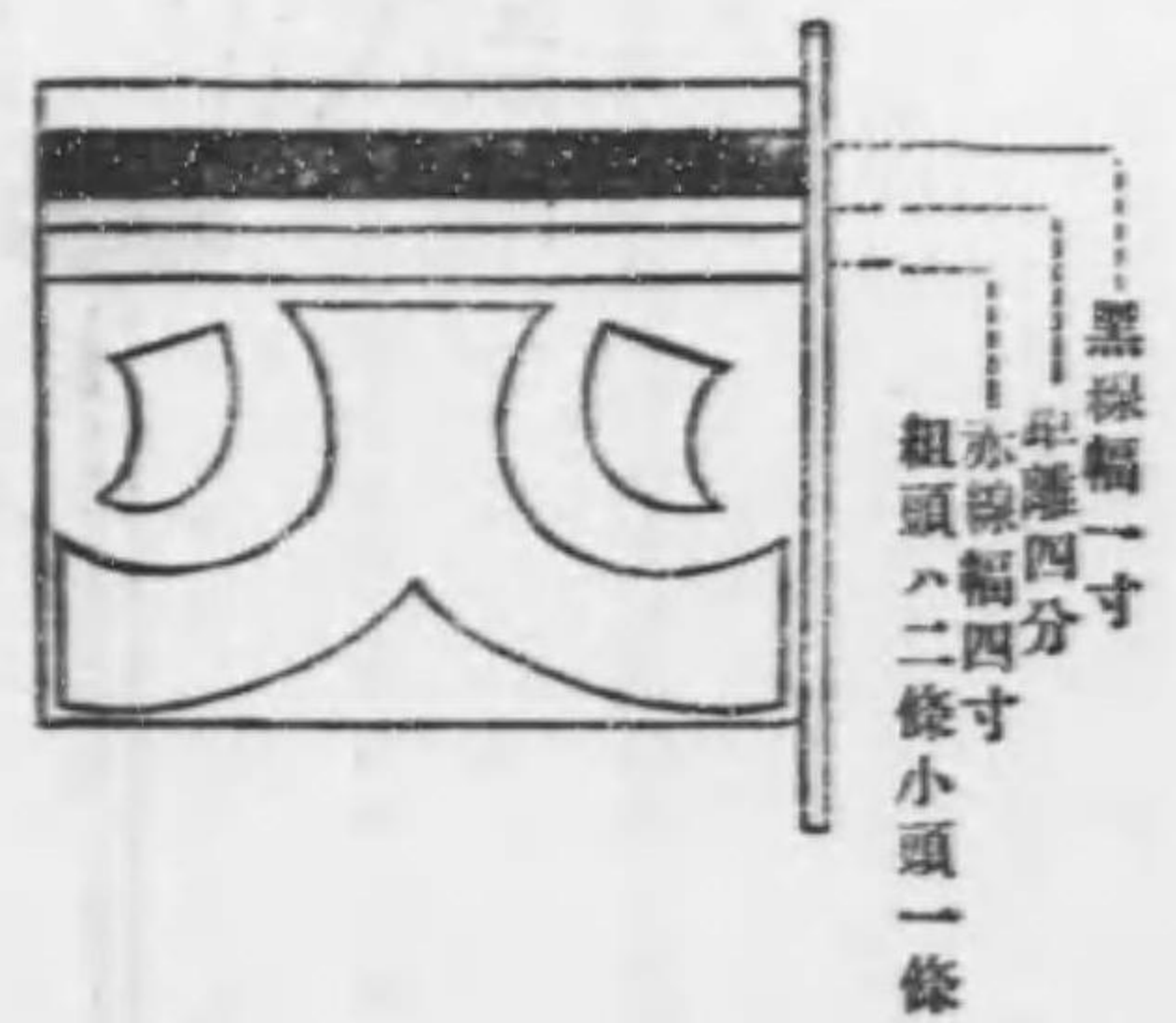


第二消防署所屬

- 五、帽ノ地質ハ濃紺又ハ黒絨
- 制式ハ圓形黒皮革製前庇幅四分ノ黒革製頭紐ヲ付シ兩端ハ櫻花形金色釦ニテ留ム天井噴出ハ幅一分赤線トス徽章ハ左記形ノ眞鍮製縱横徑一寸二分ノ前章ヲ用ヒ組頭ハ金モール製トシ帽ノ周圍ニ幅五分黒色對子毛線二條幅一分同一條幅二分蛇腹組金絲一條
- 關内 消防組 一香
壽賀町 消防組 二香
加賀手 消防組 三香
山方 消防組 四香
北村 消防組 五香
中方 消防組 六香
中子 消防組 七香

〔五七四〕

小頭組用旗
式白地横一尺二寸一尺



五七五

〔神奈川警〕

第三號

(組頭小頭用) 製式ハ總テ現在ノモノニ同シ

高張提燈

正面

一、弓張提燈 (組頭小頭用) 製式前ニ同シ



重線總赤幅四寸
幅三寸

● 消防組規則

明治二十七年二月十日
勅令第十五號

改正 明治三〇年一月勅令第四八號、四三年三月第一二八號、大正二年一〇月第二九六號、八年七月第三五五號、一〇年六月第二五三號

消防組規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

消防組規則

〔神奈川県〕

〔神奈川県〕

第一條 府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得

第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス組頭及小頭ハ警察部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス

第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス

第五條 府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得

第六條 消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若クハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得

第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警戒ニ應授スヘシ

第八條 警察部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

第九條 消防組ノ職務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解散コトヲ得

第十一條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム

第十二條 前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ

- 第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔トス
- 第十四條 第十五條 (刪除)
- 第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム
- 第十七條 府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ規則ノ全部若ハ一部ヲ準用シ水災ノ警戒防禦ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼テシムルコトヲ得
- 第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ
- 第十九條 東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警察部長ノ職務ハ消防部長之ヲ行フ
- 第二十條 此ノ規則中市ニ關スル規定ハ市町村組合並北海道及沖繩縣ノ〔區〕ニ、町村ニ關スル規定ハ町村組合ニ之ヲ準用ス
- 第二十一條 第七條ヲ除クノ外此ノ規則ハ警視廳官制又ハ特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニハ之ヲ適用セズ

●消防組點檢規則

明治三十三年五月二十三日
內務省訓令第十六號

改正 大正二年四月內務省訓令第五號

消防組點檢規則左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他携帯品ノ操法、分解構成、保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス
- 第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシテ小頭ヲ指揮者トス
- 第三條 消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡查點檢規則ヲ準用ス
- 第四條 指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央ニ歩ノ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 第五條 點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ着用スヘシ
- 第六條 點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス
- 第七條 機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ
- 第八條 唧筒其ノ他ノ機械ニシテ組立タルモノハ毎年行フヘキ演習ノ内其ノ一回ニ限リ之ヲ分解シ内部ノ檢査ヲ行フモノトス

●消防組規則施行細則

明治三十年十二月十四日
蘇令第六十二號

改正 明治三十三年七月縣令第四〇號、三十七年二月第一二號、三十八年二月第一號、四一年四月第三六號、大正八年一月第九七號、一三年第九四號

明治二十七年五月神奈川縣令第十九號消防組規則施行細則左ノ通改正ス

- 消防組規則施行細則
- 第一條 消防組ノ設置區域、名稱、人員ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 火災ノ警鐘ハ左ノ如シ
- 一 知ラセ
- 一 出方

第二編 保安 第二章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

五八〇

- 消防組員ノ出場ヲ要スルトキハ二點打トス
- 近 火 ○―○―○ ○―○―○
- 出火場ヨリ凡ソ三四丁ノトキ其ノ他風下ニテ危險アリト認ムルトキハ三點打トス
- 一 非常 ○―○―○! ○―○―○! ○―○―○! ○―○―○!
- 大火ノ際其ノ他非常ナル危險ヲ生スヘキ虞アル際ニハ亂打トス
- 第三條 警備擔當者ハ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ指定スヘシ
- 第四條 火災場周圍凡ソ一丁ヲ限リ非常線ヲ設ケルコトアルヘシ
- 前項ノ場合ニ在テハ左ニ掲ケル者ヲ除ケ外ハ非常線内ニ立入ルコトヲ禁ス
 - 一 線内ニ居住シ又ハ建造物ヲ所有若ハ占有スル者
 - 二 線内ノ官署公署學校病院其ノ他會社又ハ一定ノ詰所等ニ勤務スル者
 - 三 瓦斯、水道、電信線、電話線其ノ他電氣事業ノ係員又ハ危險物、貯藏物若ハ家屋財産ノ被保險物等ノ救護ニ從事スル證アル者
 - 四 所轄警察官署ノ許可證ヲ有スル者又ハ特ニ警察官ニ於テ許可スル者
- 前各號ノ者ト雖警察官ハ防火又ハ救護上必要ト認ムルトキハ立入ルヲ禁スルコトヲ得
- 第五條 消防組員ノ勤務ハ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ左ノ標準ニ依リ分擔ヲ定ムルコトヲ得但シ維持、旗持、高聲、喇叭手等ハ組頭ノ附屬トス
 - 一 高聲又ハ豫防保
 - 二 喇叭保又ハ防禦保
 - 三 救護保
 - 四 供水保
- 第六條 消防組ニ事務所ヲ要スルトキハ別ニ之ヲ指定ス
- 第七條 消防組員ハ身體強壯ニシテ左ノ事項ニ觸レザル者ヨリ之ヲ採用スルモノトス
 - 一 年齡滿十八年以下ノ者

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 二 平素粗暴ノ行爲アル者
- 三 公權褫奪若ハ停止中ノ者
- 四 禁治産中ノ者
- 五 懲罰處分ニ依リ組頭、小頭及消防手ヲ免セラレ滿一年ヲ經過セザル者
- 第八條 消防組員ニシテ前條各號ノ一ニ觸ル、者アルトキハ直ニ其ノ職ヲ免スルモノトス
- 第九條 消防手及小頭ノ命免賞罰ハ警察署長又ハ警察分署長之ヲ行ヒ組頭ノ命免賞罰ハ警部長之ヲ行フ
- 第十條 消防手及小頭ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ職務ニ服スル能ハサルトキハ組頭ニ届出ヘシ其ノ組頭ニ在リテハ警察署長又ハ警察分署長ニ届出ヘシ
- 第十一條 組頭ノ掌理スル庶務ノ概目左ノ如シ
 - 一 小頭以下ノ勤怠、功過及出火現場又ハ演習訓練ニ出場シタル人名ヲ警察署長又ハ警察分署長ニ報告スルコト
 - 二 組員名簿及消防器具臺帳ヲ整理スルコト
 - 三 毎年十二月末日現在ノ器具ヲ取調ヘ翌年一月十五日マテニ警察署長又ハ警察分署長ヲ經テ市參事會若ハ町村長ニ報告スルコト
 - 四 消防器具ノ保管及修理ニ關スルコト
 - 五 前各號ノ外消防組ニ屬スル庶務ノ整理ニ關スルコト
- 第十二條 小頭ハ各部各係又ハ各伍ニ分屬シ組頭ヲ助ケ部下ノ指揮取締ニ從事ス
- 組頭事故アルトキハ小頭之ヲ代理ス但シ小頭數名アルトキハ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ兼メ代理者ヲ指定シ置クヘシ
- 第十三條 消防手ハ組頭及小頭ノ指揮ニ從ヒ受持ノ位置ヲ守リ消防ニ從事ス
- 第十四條 警察署長又ハ警察分署長ハ火災警戒ノ爲必要アルトキハ消防手ニ夜警巡回ヲ命スルコトヲ得
- 第十五條 警察署長又ハ警察分署長ハ毎年一月乃至二月及九月乃至十月ノ間ニ於テ消防組ヲ巡檢シ紀律ノ保持及器具ノ狀況ヲ警察署長ニ報告スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

五八一

第十六條 警部長警察署長又ハ警察分署長ハ消防組員ノ訓練、演習其ノ他監査ヲ要スル場合ニ於テハ臨時ニ消防組員ノ全部又ハ一部ヲ召集スルコトアルヘシ

第十七條 消防組員ハ警察署長又ハ警察分署長若ハ組頭、小頭ノ指揮ニ從ヒ時々消防事務ヲ演習スヘシ

第十八條 消防組員ハ警察官吏ノ指揮命令ニ服從シ一致協力ヲ旨トスヘシ

第十九條 消防組員ハ自己ノ受持區域内ニ於テ出方又ハ非常ノ信號ヲ聞キ若ハ自ラ火災アルチ知リタルトキハ直ニ所屬ノ位置ニ召集スヘシ

第二十條 消防組員ハ現場引揚ノトキハ警察官吏ノ點檢ヲ受ケ退場スヘシ若シ警察官吏ノ出張ナキトキハ組頭、小頭ノ點檢ヲ受ケヘシ

第二十一條 組頭、小頭ハ器具使用ノ都度掃除ヲ爲シ何時ニテモ使用ニ差岡ナカラシムヘシ

第二十二條 消防組員ハ警察官吏ノ指揮ナクシテ建物ヲ破壊スルコトヲ得ス

第二十三條 消防組員ハ召集又ハ消防中若ハ現場出張ノ途中ハ勿論平常タリトモ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 組員互ニ又ハ他ノ組員ト争鬭ヲ企テ若ハ功ヲ争ヒ其ノ他ノ紛議ヲ爲サ、ルコト

二 他人ニ對シ強迫カマシキ行爲又ハ粗暴ノ舉動ヲ爲サ、ルコト

三 警察官吏ノ許可ヲ得スシテ職務上物品又ハ飲食物ヲ受ケ或ハ寄附金ヲ募ル等ノコトヲ爲サ、ルコト

四 消防組ノ名義ヲ以テ諸興行ヲ爲シ又ハ物件ヲ贈與シ又ハ各種ノ約束ヲ爲サ、ルコト

第二十四條 消防組員ニシテ消防上顯著ノ功勞アリタルトキハ賞與又ハ賞狀ヲ下附スルコトアルヘシ

第二十五條 消防組員ノ懲罰ハ左ノ三種トス

一 解職

二 停職又ハ停給

三 誹責

前項ノ外器具ヲ毀損シタルトキハ之ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第二十六條 消防組員ニシテ左ニ掲クル事項ニ該當スルトキハ前條ノ區別ニ依リ懲罰ヲ加フルモノトス

一 規則又ハ警察官吏其ノ他指揮ノ任アル者ノ命令ニ違背シタルトキ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

二 消防組タルノ職務ヲ汚損シタルトキ

三 正當ノ事由ナクシテ二回以上現場ニ出張セス又ハ演習其ノ他ノ召集ニ應ゼザルトキ

四 組員互ニ争鬭シ又ハ故ナク紛議ヲ企テタルトキ

五 濫ニ集合シ又ハ勤務中許可ヲ得スシテ進退ヲ爲シタルトキ

六 前各項ノ外職務上爲スヘカラサルコトヲ爲シタルトキ

第二十七條 消防組員ニ手當並ニ被服ヲ給スルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 月手當

常務者ニ在リテハ組頭ハ金八拾圓以内小頭ハ金六拾圓以内消防手ハ金五拾圓以内常務者ニアラサル組頭ハ金拾

五圓以内小頭ハ金參圓以内消防手ハ金壹圓五拾錢以内但シ小頭ニシテ組頭ノ事務代理ヲ指定セラレタル者ハ組

頭ノ額ニテ増給スルコトヲ得

二 出場及演習手當

一時間又ハ一回ニ付金四拾錢以内

三 夜警其ノ他臨時手當

一日又ハ一夜ニ付金貳圓以内

四 傷疾疾病

職務ノ爲傷疾疾病ヲ受ケタルトキハ休業中一日金壹圓以内若シ不具ニ至リタルトキハ一時金百圓以内ヲ給スル

コトヲ得

五 療治料

一日金壹圓五拾錢以内トス但シ其金額ヲ超過スル治療費ヲ要スル場合ハ實費額ヲ支給スルコトアルヘシ

六 功勞賞與手當

一人ニ付金貳拾圓以内又ハ一消防組ニ付金百圓以内

七 被服

頭巾又ハ帽ノ現品又ハ代料

第二編 保安 第一章 安寧

法被又ハ洋服ノ現品又ハ代料

第二十八條 消防組員死亡スルトキハ左ノ標準ニ依リ弔祭料及扶助料ヲ給ス

一 弔祭料

職務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受テ死亡シタルトキハ金貳百圓以内其ノ他ノトキハ金五拾圓以内

二 扶助料

職務ノ爲メ死亡シタルトキハ遺族扶助料トシテ金五百圓以内

前項ノ弔祭料及扶助料ハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ之ヲ給與ス

一 配偶者

二 直系尊屬

三 直系尊屬

四 兄弟姊妹

五 孫

六 孫

七 孫

八 孫

九 孫

十 孫

十一 孫

十二 孫

十三 孫

十四 孫

十五 孫

十六 孫

十七 孫

十八 孫

十九 孫

二十 孫

二十一 孫

二十二 孫

二十三 孫

二十四 孫

二十五 孫

二十六 孫

二十七 孫

二十八 孫

二十九 孫

三十 孫

三十一 孫

三十二 孫

三十三 孫

三十四 孫

三十五 孫

三十六 孫

三十七 孫

三十八 孫

三十九 孫

四十 孫

四十一 孫

四十二 孫

四十三 孫

四十四 孫

四十五 孫

四十六 孫

四十七 孫

四十八 孫

四十九 孫

五十 孫

五十一 孫

五十二 孫

五十三 孫

五十四 孫

五十五 孫

- 一 警鐘
 - 二 鑼、刺又、旗、高張、提燈
 - 三 喇叭、龍吐水、立管、水管及其ノ附屬品
 - 四 斧、鋸、鋤、萬力、釣瓶
 - 五 鐵網、鐵網、麻繩
 - 六 運水器、水槽、器械車
 - 七 消防器具置場、火ノ見標
- 第三十條 警察署長又ハ警察分署長ハ水災ニ關係アル地ノ消防組員ニ命シ水災ノ警戒防禦ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第三十一條 水災ニ關係アル地ノ消防組員ニ在リテハ土地ノ習慣ニ依リ豫メ水災防禦ニ必要ナル器具ヲ備置クコトヲ得

消防組規則施行細則取扱手續

(神奈川警) (神奈川警)

明治三十年十二月二十八日 示令第一〇六號

- 第一條 大正二年二月二十五日訓示第一七號
- 第一條 細則第二條ノ火災警鐘信號ハ警鐘位置ニ揭示シ置クヘシ
- 第二條 細則第三條ノ警鐘當者ハ警鐘位置ノ近傍ニ居住スル消防手ニ指命シ置クヘシ警察署警察分署ニ備付アル警鐘信號ハ當直巡査ノ擔當ト定ムヘシ
- 第三條 火災ノ方位ハ可成速ニ警察署、警察分署、派出所、駐在所ノ門前ニ揭示スヘシ
- 第四條 細則第四條ノ消防線ヲ設ケルノ必要アルトキハ巡査ヲ配置シ警察署又ハ巡査部長ヲ以テ監督セシムヘシ
- 第五條 細則第七條ニ據ル消防組員ハ消防組設置區域内ニ居住スル者ヨリ採用スヘシ但シ區域内ニ補充スヘキ人員ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 消防手ノ命免ハ別ニ辭令ヲ用キス警察署長警察分署長ノ手許ニ命令簿ヲ備フヘシ但シ警察署警察分署遠隔ノ地ニ在リテハ組頭ノ手許ニ命令簿ヲ備ヘ便宜警察署長又ハ警察分署長ノ決判ヲ受ケシムルコトヲ得
- 第七條 小頭ノ命免ハ小奉書四ツ切ノ辭令ニ署名捺印シ下付スヘシ
- 組頭ノ任命ハ履歷書ヲ添ヘ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ推薦スヘシ其解職ヲ要シ又ハ辭表ヲ提出シタルトキハ事實ヲ上申スヘシ
- 第八條 消防手及小頭ノ賞罰ハ警部長ニ稟議ノ上施行シ其辭令書ハ小奉書四ツ切ヲ用フヘシ
- 組頭ノ賞罰ハ其ノ事實ヲ警部長ニ上申スヘシ
- 第九條 細則第十二條第二項ニ據リ小頭ニ組頭代理ヲ命スルトキハ第七條第一項ニ據リ辭令書ヲ用フヘシ
- 第十條 細則第十四條ノ夜警巡回ヲ命スル場合ハ豫算ノ範圍内ニ於テ人員ヲ配置スヘシ但シ手當ヲ給セサルモノハ適宜組頭ニ於テ巡回方法ヲ定メシムルコトヲ得
- 第十一條 細則第二十二條ノ警察官吏ニテ建造物ヲ破壊スル場合ハ火勢急迫ニシテ防火線ヲ作ルニアラサレハ防禦シ難キ狀況アル場合ニ限リ最モ火勢ニ接近ト認ムル場合ニ限ルヘシ
- 第十二條 規則第七條ニ據リ消防組ヲ區域外ニ應援セシムル場合ハ接續ノ地ナルカ又ハ非常ノ大火若クハ救護ヲ求

- メラレタル場合ニ限ルモノトス
- 第十三條 規則第十條ニ據リ消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ其ノ原因及狀況ヲ具申スヘシ
- 第十四條 規則第二十七條ニ據リ新ニ消防組員ニ手當並被服ヲ支給スルノ必要アリト認ムルトキハ市町村長及郡長ト協議シ其ノ支給金額及支給方法ヲ具申スヘシ
- 第十五條 規則第二十九條ニ據リ消防組ニ要スル器具及設備ノ物件ハ豫メ市町村長及郡長ト協議シ其品名豫算金額設備ヲ要スル理由ヲ具申スヘシ
- 第十六條 規則第十一條第十二條ノ被服器具其ノ他ノ物件ノ設備ハ知事ノ指定アリタル後警察署長又ハ警察分署長ヨリ市參事會若クハ町村長ヘ請求スヘシ
- 第十七條 消防器具火ノ見極警鐘消防器具置場其ノ他ノ附屬品ニ修繕ヲ要スルモノアルトキハ警察署長又ハ警察分署長ヨリ直ニ市參事會町村長ヘ請求スヘシ但シ便宜組頭ノ請求書ニ署長ノ認印ヲ以テ處辨スルコトヲ得
- 第十八條 消防組員ノ諸手當賞與及被服ハ消防組員ヲシテ市役所町村役場ヨリ直接ニ受取ラシムヘシ
- 第十九條 警察署、警察分署ニハ部内ニ在ル消防組ノ編制區域器具備置場火ノ見極警鐘位置事務所及組員ノ名簿ヲ備置其ノ異動アリタルトキハ之ヲ加添スヘシ
- 第二十條 消防組ノ巡檢及演習ハ成ルヘク消防組所在地ニ於テ爲スヘシ但シ接續地ニ於テ便宜集合スルハ妨ケナシ
- 第二十一條 警察署長警察分署長ハ組頭以下ノ命免及停職停給給償並ニ賞與ニ關スル事項ヲ市參事會又ハ町村長ヘ通報スヘシ

●消防組巡檢手續

明治二十七年十二月二十五日
示令第一〇四號

一 人員器具點檢

組頭ハ豫定ノ時限マテニ組員器具ヲ相當ノ場所ニ整列セシメ組頭ハ別紙甲乙丙號ノ製表ヲ巡檢官ニ提出シテ巡檢ヲ受クヘシ

巡檢ヲ受クルトキハ消防手ハ一列又ハ二列トナリ小頭ハ一組ノ標準トナリ左右ニ整列シ組頭ハ巡檢官ノ先導者トナリ號令ヲ下ス但シ警部長ノ巡檢アル場合ハ署長號令ヲ下シ組頭先導者タルヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

二 實地演習

號令ハ「氣ヲ付ケ」ニテ全組正面ノ方向ヲ取り兩手ヲ垂下シ巡檢官通過ノ節ハ之ニ注目シ終テ「休メ」ノ號令ニテ其場ニ休息セシム

人員器具ノ操練ヲ爲スハ著手ノ運速ヲ見ル爲メ一定ノ合圖ニテ著手シ水力ノ強弱器具ノ耐否ヲ檢査シ其儀ノ熟スルヲ以テ中止シ器具ヲ收メ組員ハ巡檢官ノ面前ニ引率スヘシ但シ場所及人員ノ都合ニ依リ組頭小頭ノミヲ引率スルコトヲ得

三 巡檢官ノ演達

巡檢官ハ現在及將來ニ於テ注意ヲ喚起シ之ヲ獎勵スヘシ

四 退散

(甲號)

何消防組(第何部)

組頭	氏名
小頭	出席人員
消防手	出席人員

(乙號)

(注意) 部ヲ設ケタルモノハ其部毎ニ取調フルヲ要ス
缺員及病氣其ノ他ノ事故ニ依リ就職セサル人員アルトキハ之ヲ附記スヘシ
職務ノ爲メ死傷(重輕區別)シタル人名ハ附記スヘシ

器具一覽表

何消防組 (第何部)

器具名	員數	條	中ノ部	破損ノ數
計				

(丙號)

第二編 保安 第一章 安寧

火災事故一覽表 何消防組 (第何部)

演習度數	火災月日夜	火災町村名	焼失戸數	死		傷		消防組出張度數
				死	傷	死	傷	

〔注意〕 一 乙丙號ハ消防組毎ニ調製スヘキモノナレトモ都限リ巡檢ヲ受クルトキハ都限リ調製スヘキモノトス

- 一 丙號ノ事故ハ一ケ年中合計ス
- 一 焼失戸數ノ内半燒ハ朱ニテ附記ス

●消防組員ノ服裝及旗提燈ノ製式並徽章

明治二十七年五月十五日
廳調第一二二號

警察部 警察署 警察分署

警察部 警察署 警察分署

消防組員ノ服裝及旗提燈ノ製式並徽章左ノ通之ヲ定ム
 第一條 服裝ノ腕章及大小旗高張提燈ノ製式並徽章ハ別紙ノ通トス
 第二條 服裝ハ腕章ノ外各組適宜ニ調製スルヲ得ルト雖モ一組毎ニ一定スルヲ要ス
 第三條 大旗高張提燈ハ一組又ハ一部一個ニ限ル
 第四條 服裝小旗弓張提燈ハ給與又ハ貸與若クハ自辨トナスコトヲ得
 消防手ニシテ提燈携帶ヲ要スルトキハ警察署長又ハ分署長之ヲ指揮スヘシ
 第五條 水火災消防ヲ兼ルモノハ其組織ノ主タル一方ノ徽章ヲ付スヘシ
 第六條 消防組員ノ服裝及旗提燈ハ職務ニ從事スルトキ之ヲ用フルモノトス但シ自辨ニ保ル服裝ハ此限ニアラス
 第七條 現在所用ノ服裝ハ第一條ノ腕章ヲ付シ當分著用スルコト

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第八條 消防組員ニシテ火災豫防ノ爲夜警ヲ爲ストキハ擊拆又ハ金棒ヲ用フルコトヲ得

〔水防組頭小頭用〕

一弓張提燈 製式朱線幅五分
ト線トノ距離幅二分

重線ハ赤



面 正



面 側

〔水防組頭小頭用〕

一弓張提燈

製式前ニ同シ



面 正



面 側

幅三寸 重線總テ赤幅四寸



面 正

高張提燈



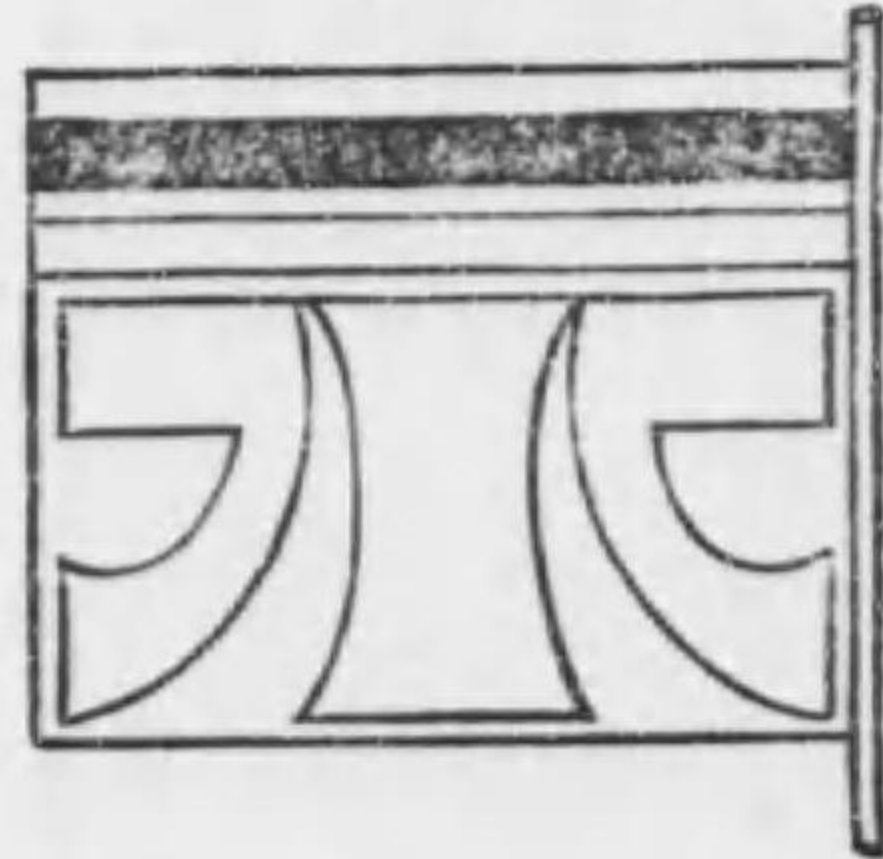
黑線幅三寸
距離二寸
重線ハ赤幅四寸

旗 小
(用頭小頭組防火)
尺一縱寸二尺一横地白式製



黑線幅一寸
距離四分
赤線幅一寸
組頭幅二寸 小頭一條

赤ハ線重
旗小
(用頭小頭組防火)
上同式製



(水防組消防用手用)
一弓張提燈
製式 重線ハ赤
黑線一條幅五分



面 正

面 側



(火防組消防用手用)
一弓張提燈
製式前ニ同シ



面 正

面 側



一注意被服ノ左腕ニ火防ハ甲圖
水防ハ乙圖ノ徽章ヲ附ス
但シ染抜キ又ハ蓋著トス
一製式ハ横線(山形)消防手ハ一
線小頭ハ二條組頭ハ三條トス
線ト線トノ距離ハ二分

甲



幅四分
五分五厘

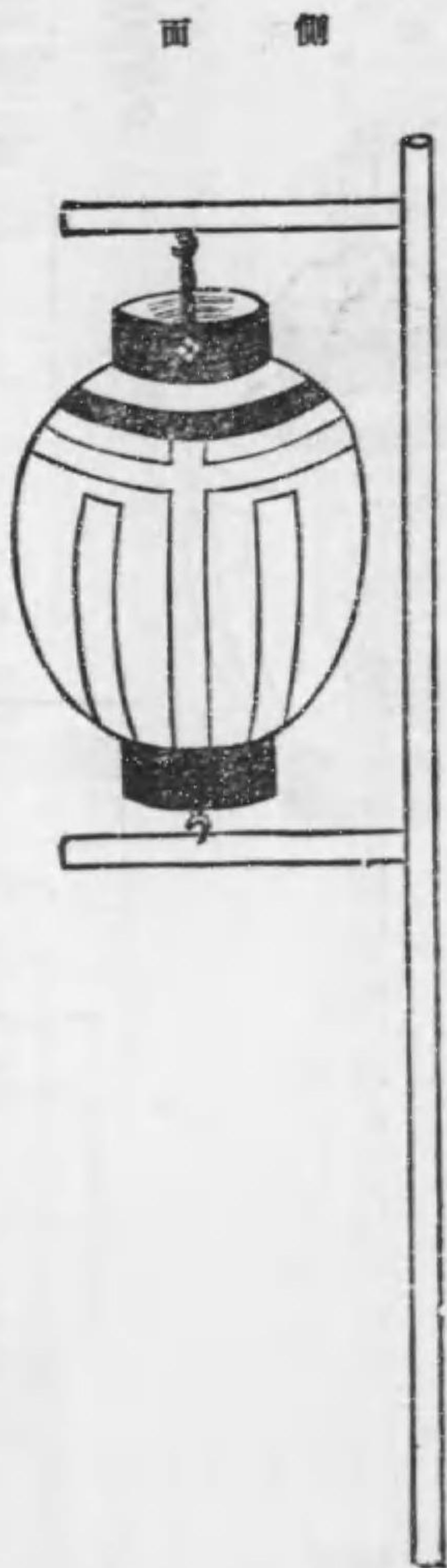
乙



重線ハ赤

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕



● 消防組臺帳様式

明治二十七年十二月六日
示令第九八號

改正 明治三十一年五月六日示令第四五號

凡例

- 一 様式ノ一、二、三、ハ一組毎ニ編綴シ數組アルトキハ見出テ附スヘシ
- 二 臺帳ノ大部ナルモノハ數冊ニナスモ妨ケナシ
- 三 消防組ニ部ヲ設ケサルトキハ様式ノ一ニ器具備場、火ノ見位置、器具員數ノ欄ヲ設ケ記入スヘシ
- 四 此様式ハ警察署分署駐在所及各組各部ニ適用スヘシ

〔神奈川県〕

〔神奈川県〕

〔消防組臺帳様式ノ一〕

〔用紙半紙〕

設置ノ年月日	設置ノ何村ノ内	何消防組
區域	幾部	
部數	幾部	
定員	小組頭 消防手	
手當被服備考		

〔消防組臺帳様式ノ二〕

何消防組何部	何村ノ内	器具員數
區域	何町村字何々	
備置場	何町村字何々	
火ノ見位置	何町村字何々氏名	
定員	小組頭 消防手 (係ヲ設ケタルトキハ一係ノ定員ヲ記ス)	

〔消防組臺帳様式ノ三〕

拜命年月日	解職年月日	賞罰	職	名	住	所	氏	名
年月日	年月日	年月日何々賞罰	消防小組頭	手頭	町	村	番地	何
								某

● 消防組ニ關シ町村長處辨事項

明治二十七年五月七日
訓令第三十八號

郡役所

町村長ニ於テ消防組ニ關シ警察署長又ハ分署長ヨリ左ノ事項ニ付通牒ヲ受ケタルトキハ其事務ヲ處辨セシムヘシ
一 消防組ニ要スル諸建物ノ設備及其修繕ニ關スルコト
二 消防器具ノ設備修繕其他備品消耗品ニ關スルコト
三 被服其他諸手當賞與ノ給與ニ關スルコト

● 消防組ニ關シ市役所處辨方

明治二十七年五月七日
訓令第三十九號

市役所

消防組ニ關シ警察署長又ハ分署長ヨリ左ノ事項ニ付通牒ヲ受ケタルトキハ其事務ヲ處辨スヘシ
一 消防組ニ要スル諸建物ノ設備及其修繕ニ關スルコト
二 消防器具ノ設備修繕其他備品消耗品ニ關スルコト
三 被服其他諸手當賞與ノ給與ニ關スルコト

● 消防組ニ關スル件

明治二十七年五月十一日
內示第一二號

今般消防組ニ關スル規定夫々發布相成候ニ就テハ將來市町村ノ經濟上ニ影響不尠候間左ノ事項心得ラルヘシ
一 消防組設置ノ指定アリタル市町村內ニ從來私設ノ消防器具ハ郡長市町村長ト打合此際市町村ニ寄附セシメ其儘新消防組ニ引受ケ使用スルコト
二 建物及器具ハ此際可成新調ヲ爲サス漸次完備テ企圖スルコト但シ火ノ見警鐘等ニシテ從來不足ノ分特ニ新調ヲ要スルコトアルヘシ
〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

三 將來新設ヲ要スル建物及器具ハ前以テ市町村長ヘ内議シ其品位價額設計ノ概略ヲ定メタル上公然移譯スルコト
四 消防組事務所ノ如キハ經費ニ關スル不尠ニ付此際可成設置セス漸チ以テ指定スルコト

● 消防組ニ要スル消耗品費請求ノ件

明治二十八年五月十三日
示令第三十六號

消防組ニ要スル消耗品費ハ各組支給規則ニ於テ別段ノ明文ナキ限りハ消防組規則第十三條ノ規定ニ據リ市町村ニ於テ當然負擔スヘキモノニ付其豫算ハ市町村長ニ於テ取調之レカ請求手續ハ組頭ノ請求書ニ警察署長分署長（駐在所ニ在リテハ巡查）檢印ヲ爲シ消防組規則施行細則施行手續第八條ニ準シ受取ラシメラルヘシ

● 防火栓使用制限

明治二十八年一月
示令第四號

消防組ニテ防火栓使用ノ儀ニ付横濱市水道事務所ヨリ照會ノ次第モ有之候條右使用方左ノ通り心得ラルヘシ
第一項 ホース其ノ他消防器具ノ洗滌ニハ共用栓ヨリ器物ニ汲ミ取リタル水ヲ用キ防火栓ヲ使用スヘカラス
第二項 演習其ノ他ホース試驗等ニテ防火栓ヲ使用セントスルトキハ其ノ日時ヲ豫メ横濱水道事務所ヘ通報スルヲ要ス
第三項 出火現場ニ於テ水量浪費ノ虞アルニ付實際小火又ハ鎮火ニ傾キタルトキ其ノ必要ナラサル注水ハ之ヲ爲サス既ニ爲シツツアルモノハ速ニ中止セシムル等嚴ニ監督ヲ加フルヲ要ス

● 消防組員ニ對スル贈與金品許可ノ件

明治三十三年三月十三日
示令第二十七號

消防組員ニ對シ消防上顯著ノ功勞アリトシ之ニ謝意ヲ表スルカ爲メ金品ヲ贈與セントスルモノアルニ當リ消防組規則
第二編 保安 第一章 安寧

則施行細則第二十三條三項ニ依リ許可セントスルトキハ其ノ功勞アリシ廉テ詳記シタル書面ヲ添付シ一應本官へ稟議ノ上許否スル義ト心得ヘシ

參照 (第二十三條三項)
警察官吏ノ許可ヲ得スシテ職務上金品又ハ飲食物ヲ受ケ或ハ寄附金ヲ募集スル等ノコトヲ爲ササルコト

●消防組ニ對スル寄贈金取扱内規

明治三十七年二月二十日
内示第一號

- 第一 消防組ニ對シ金品ヲ寄贈セントスル者アル時ハ警部長へ稟議ノ上認可スルコト
- 第二 寄贈金ハ其ノ時々組合員ニ配當セス組員職務上ノ死傷手當療治料弔祭料遺族扶助料ニ充ツルコト
但負傷者死亡者ニ對シ特ニ指定シテ寄贈シタルモノハ此ノ限ニアラス
- 第三 前項ノ給與額ハ消防組規則施行細則第二十七條第二十八條ノ給與額ヲ超過セサル範圍ニ於テ署長之ヲ決定スルコト
- 第四 寄贈者ノ目的他ニ存スル時ハ一應第二項第三項ノ主意ヲ説示シ猶肯セサル時ハ特別ノ事狀アラサル限りハ認可セサルコト
- 第五 寄贈金ハ署長若クハ組頭ニ於テ之ヲ保管スルコト但組頭ニ於テ保管ノ場合ハ署長之ヲ監督スルコト
- 第六 前項ノ金額五圓以上ニ達スル時ハ必ス郵便局又ハ銀行ニ預ケ入レ其旨ヲ組合員ニ告示スルコト
- 第七 保管金ノ收支決算ハ毎年六月十二月ノ二期ニ於テ署長ヨリ之ヲ組合員ニ告示スルコト

●火災報知電話ノ件

大正十四年十月一日
逕信省告示第四百四十八號

左ノ地域内ニ於ケル出火ニ際シ電話ニ依リ之ヲ消防官署ニ報知セムトスルトキハ自動式局所屬ノ電話機ニ依ル場合ハ別ニ定ムル火災報知用電話番號ヲ用ヒ直接消防官署ト通話ヲ爲シ又手動式所屬ノ電話機ニ依ル場合ハ所屬交換取扱局ヲ呼出シ單ニ「火事」ト告クヘシ但シ警鐘前ニ限ル

〔神奈川県警〕

〔神奈川県警〕

交換取扱局ニ於テ前項後段ノ申出ヲ受ケタルトキハ取扱上支障ナキ限り最先順位ヲ以テ便宜ト認ムル消防官署ニ接續通話セシム

大正八年四月逕信省告示第四百二十九號ハ之ヲ廢止ス

東京市内、京都市内、名古屋市、横浜市、岐阜市内、新潟市内、札幌市内、函館市内、小樽市内、旭川市内、釧路市内、大阪中央電話局電話加入區域内、神戸中央電話局電話加入區域内、廣島郵便局電話加入區域内

●神社ニ於ケル失火取締方ノ件

明治四十五年四月十九日
内務省社第五三五號神社、警保局長通牒

神社ニ於ケル失火取締方ノ義ニ關シテハ明治三十一年六月當省訓第五三〇號訓令ノ次第モ有之爾來該訓令ノ趣旨ニ基キ管理者タル神職ニ於テハ平素注意警戒ヲ怠ラズ且水防ノ設備ヲ十分ナラシムル等貴官ニ於テモ相當御監督相成居候事トハ被存候へ共近年官國幣社ニシテ類焼ノ災ニ罹リ社殿全部燒失シ古來由緒アル建物モ一朝ニシテ灰燼ニ歸シ再ヒ舊態ニ復シ能ハサルニ至ルモノ二三ニシテ止マラサルハ詢ニ遺憾トスル所有之右ハ畢竟避クヘカラサル災禍トハ申ナカラ一ハ火防ノ施設完備セサルカ爲メ全燒ヲ免レサルニ至リシモノモ所有之ト存候ニ付テハ此際社殿建物ノ大小狀況ニ應ジ社經費ノ許ス限リ唧筒消火器等ヲ備付ケシムル等萬一ノ變ニ際シ遺憾ナカラシメ豫テ適當ノ方法ヲ講セシメ候様致度尙夜間宿直員ノ境内巡視等平素警衛方法ニ付テハ益々督勵ヲ加ヘ防火等事變豫防ニ注意スルハ勿論神社附近ノ人家ニ對シテモ豫メ警告ヲ加ヘ置ク等夫適當ノ措置ヲ講スル様御示達相成度依命此段及通牒候也

追テ府縣社以下神社ニ付テモ本文ニ準シ相當取締ノ途ヲ講セシメ候様致度此段申添候也

●別荘所在地竝ニ其ノ附近ニ於ケル災害報告方ノ件

明治四十五年四月十六日
警保發第三五號保安課長通牒

實管内別荘所在地並ニ其ノ附近ニ於ケル災害ハ左記事項ニ依リ最モ迅速ニ調査シ電話急報相成度候

- 一、災害發生地
- 二、罹災者ノ氏名職業
- 三、罹災ノ建物數
- 四、神社佛閣教會官公署學校病院別荘其ノ他知名ノ建造物アラハ其名稱並ニ別荘ハ所有者若クハ居住者ノ氏名
- 五、罹災地附近ハ前項ノ建造物ノ有無若シアラハ其名稱氏名

●消防事務取扱方ニ關スル件

大正二年一月十七日
五管保收第七一〇三號保安課長

其ノ筋ヨリ別紙寫ノ通照據有之候條自今本件ノ取扱方ニ關シテハ可成の當該市町村會ノ決議書ヲ添付具申相成度候也

別紙寫(大正元年十一月十六日內務省警第九六號地方警保兩局長通照)

消防組規則第五條第十一條及第十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ市町村會ノ諮問ヲ爲スヘキ場合ニ際シ諮問ニ付セラレヘキ事項ニ付市町村會既ニ其ノ必要ヲ認メ決議ヲ爲シタルカ爲決議錄ヲ添付申出アリタル等市町村會ノ意見明瞭ナルトキハ更ニ諮問ニ付スルコトナク處理ヲ行ヒ差支無之コトニ省議決定候條右御舍ノ上相當御措置相成度依命此段及通照候也

●消防組基本財産其ノ他ノ件

大正四年九月十六日
內務省警第一五號警保局長通照

消防組ハ市町村費ニ依リ經營スヘキ警察機關タルヲ以テ財産ノ主體タルヘカラサルニ拘ハラス往住其ノ基本財産トシテ山林又ハ養魚池等ヲ所有シ又ハ寄附ヲ許シテ利殖ヲ計リ其ノ他夜警料ト稱シテ毎戸ニ就キ集金スルモノ有之候ハ孰レモ不法ノ嫌疑ニ付テハ將來消防組ニ對スル寄附其ノ他ハ一旦市町村ニ於テ收入シ適宜ノ方法ニ依リ消防組ニ關スル經費ニ支出候條致度尙消防組ニ於テ夜警ヲ爲スノ期間夜警料ト稱シ毎戸ニ就キ集金スルカ如キハ絕對ニ禁止相成候條致度候

(神奈川警)

(神奈川警)

●火災警防ニ關スル件

大正四年一月十八日
訓示甲第一號

火災ヲ未然ニ防止シ又ハ之ヲ速カニ鎮滅セント欲セハ平素周到ナル注意ヲ以テ豫防警戒ノ方法ヲ講究シ及消防設備ノ完全ヲ期セサルヘカラス各員ハ之ニ關シ常ニ充分努力シツツ在ルモノト信スルモ向後左記ノ點ニ關シテハ特ニ注意シ其ノ目的ヲ達スル機心掛ケヘシ

左記

一、出火ノ原因タルモノニ對スル注意

- (1) 洋燈石油燈火油壺ノ取締ヲ勵行シ且安全ナル口金ノ使用ヲ獎勵スルコト
- (2) 各種煙筒取締規則施行地ニ於テハ之カ取締ヲ勵行シ地域外ニ於テハ該規則ニ準シ設備警告等ノ方法ヲ取リ構造ノ不備又ハ破損掃除不充分ノモノナキ様スルコト
- (3) 演藝場、觀物場、宿屋、貨座敷、料理屋、待合茶屋貨席、飲食店、病院、觀工場其ノ他大ナル建家ノ燈火ハ電燈ヲ獎勵シ若シ止テ得シテ洋燈ヲ用ユルモノハ(1)ニヨリ處置スルコト
- (4) 諸製造場、工場、湯屋、鍛冶工、燒芋屋其ノ他多量ニ火ヲ取扱フ場所ハ時々臨檢シ防火上ノ注意ヲ爲スコト
- (5) 石油其ノ他發火質物ヲ取扱フ營業ニ對シテハ其ノ貯藏所又ハ取扱場所ヲ時々臨檢シ同上ノ注意ヲ爲スコト
- (6) 自用籠ト揚板又ハ焚物置場等トノ關係及構造ニ危險ナキヤ注意ノコト
- (7) 自用湯殿ト焚物置場又ハ羽目板戸障子等ノ關係及構造ニ對シ同上ノ注意ヲ爲スコト
- (8) 炬燵行火(電氣行火ヲ含ム)燵寸、提灯、火鉢等ハ老幼又ハ低弱者取扱ノ場合ニ火災ノ原因ヲ爲スコト多シ依テ此等ノ者ヲシテ取扱ハシメサル様注意スルコト
- (9) 街路空地仕事場等ニ於ケル車夫夫驗工ノ行火焚火又ハ小兒等ノ火遊等火災ノ原因ヲ爲スコト多シ嚴ニ之レヲ禁止スルコト
- (10) 山林原野ニ於テ狩獵者旅行者又ハ勞働者ノ焚火等同上ノ處置ヲ要ス
- (11) 農家ニ於ケル肥料用取灰中ノ殘火ヨリ火災ヲ惹起シタル實例甚々多シ警戒ヲ加ヘ此弊ヲ防止スル方法ヲ講

二、(12)

汽車及輕便鐵道沿線ニ於ケル草又ハ板葺屋根ノ家屋ハ飛火ニヨリ火災ニ罹リタル實例甚々多シ警戒ヲ要ス

原因以外ノ豫防上ニ關スル注意

- (1) 學校病院社寺銀行諸會社等大建築物ヨリ發火セル場合ニ於テハ大火トナルコト多キハ實例ニ徴シテ明ナルニ拘ハラズ火ノ元注意ニハ缺點多キ虞レアリ殊ニ社寺ノ燬火ヨリ發火シ貴重ナル建物ヲ有ニ歸シタルコト多シ依テ此等建物ニ對シテハ責任者ニ時時戒飭ヲ加フルコト
- (2) 大火ト風力トハ離ルヘカラサル關係アルヲ以テ風力ニ應ジテ警戒ヲ嚴密ニスルコト
- (3) 火ノ番組合ノ設置アル土地ハ之レカ取締ヲ勵行シ最モ有效ニ活用セシムルコト

三、放火ニ對スル注意

- (1) 不相應ノ保險ヲ附シ保險金ヲ詐取スル爲メ放火ヲ爲ス疑アルモノハ豫メ視察警戒シ未然ニ防止スル方法ヲ取ルコト

取ルコト

- (2) 放火ヲ爲ス虞アル乞丐又ハ不良少年ニ對シテハ感化又ハ縣外驅逐等適當ノ方法ヲ講スルコト

- (3) 山林原野ニ於ケル狩獵者其ノ他ノモノノ放火ニ對シ嚴密取締ヲ爲スコト

- (4) 其ノ他一般放火ノ原因ヲ研究シ豫防ノ方法ヲ講スルコト

- (5) 放火犯發生ノ場合ニ於テハ嚴ニ之レヲ檢舉シ以テ他戒ノ一助トナスコト

四、消防ニ關スル注意

- (1) 地理水利等ハ平素ニ於テ消防組員ニ知悉セシムルノ方法ヲ講シ以テ有事ノ際差支ナカラシムルコト
- (2) 機械器具ヲ整理シ且ツ時時檢査ヲ遂ケ有事ニ際シ使用ニ堪ヘサル如キ失態ナキ様注意スルコト
- (3) 消防組員ノ訓練及規律ニ注意シ有事ノ際ニ於ケル活用ヲ期スルコト
- (4) 命令ノ規定ニ依リ設備スヘキ義務アル營業者ノ消防器具及消火器等ハ時々效力ヲ驗シ且ツ適當ノ場所ヲ指シテ備付ケシムルコト

明治三十七年一月示令第十五號明治四十三年一月警保發第一七八號大正二年二月示令第八號ハ之ヲ廢止ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

● 火災警防ニ關スル件

大正八年五月十日 調示甲第一八號

火災ニ依テ生スル慘害ノ大ニシテ如何ニ惧ルヘキモノナルカハ敢テ多言ヲ要セサル處ニシテ之レカ豫防警戒ハ警察上最モ重要ノコトタルハ勿論ナリ而テ火災ヲ未然ニ防止シ又ハ之レヲ速カニ鎮滅シ以テ警察ノ目的ヲ達成セント欲セハ須ラク平素周到ナル注意ヲ拂ハサル可カラス之レニ關シテハ既ニ大正四年一月調示甲第一號ヲ以テ詳細訓達スル處アリ各員モ又之レカ實行ニ努力シ違算ナカラシムルコトヲ期シツ、アルハ深ク信スル處ナリト雖モ客月二十八日横濱市ニ於ケル火災ハ燒失戸數三千内外ニシテ其ノ慘狀甚シク巨額ノ財產ヲ烏有ニ歸シ本縣ニ於テハ未ダ曾テ見サルノ災禍ナリシカ其ノ後燒失地附近ニ左ノ放火未遂事件アリ尙本年ニ於テ縣下各地ニ放火事件ノ發生勢カラズ若シ益々是等事件ノ増加スルコトアラハ世人ヲ不安ノ念ヲ抱カシメ延ヒテ警察ノ威信ニ關スルコトナキヲ保セス故ニ各員ハ自今部下ヲ督勵シ曩ノ調示ニ則リ一層豫防警戒ヲ嚴密ナラシムルト同時ニ犯人檢舉ニ努メ以テ其ノ實績ヲ擧ケラルヘシ

左記

- 一、五月七日午前零時二十分横濱市千歲町三丁目三十番地空箱商坂田定治方表口ニアリタル空箱ニ石油ヲ灌キ放火シタル者アリシモ通行人カ發見直チニ消止メタリ
- 一、同月同日午後五時横濱市富士見町一丁目五番地雜貨商網田利三郎所有物置ニ放火セル者アリシチ同家雇人カ發見直チ消止メタリ 以上

● 火災現場取締ニ關スル件

大正九年十二月二十三日 申警保發第一六二號

夜間ニ於ケル火災現場ノ取締ニ關シ警察官吏出場ノ際ハ制限ノ提灯ヲ携帯スルハ服務規律上ハ勿論職務執行ノ見地ヨリ當然ノ事ニ有之近來火災ニ於ケル現場取締ニ該ル警察官吏中往往提灯ヲ携帯セスシテ之レカ取締ニ從事スルモノアルカ如キハ寔ニ遺憾ノ次第ニ有之殊ニ夜間ニ於ケル火災現場ノ雜沓其他諸般ノ取締上提灯ヲ携帯ノ要ハ警察官吏ノ目標トシテ職務執行上至大ノ關係アルヲ以テ爾今出場ノ際ハ右ニ依リ必ス提灯ヲ携帯セシメラレ候様致度依命此段及通譯候也

● 消防車通行ニ支障ヲ來ス程度ノ道路特別使用認許ニ關スル件

大正八年九月二十二日
未警保收第一五〇三三號保安課長通牒

警察官署長宛

交通ノ完妥ハ火災消防上ニ至大ノ影響アリ當務者ハ其ノ支障等ヲ豫知スル必要有之候ニ付テハ爾今道路橋梁等ノ修繕工事其ノ他ノ事項ノ爲メ街路ノ全部若クハ一部ノ交通ヲ遮斷シタル場合又ハ共同物揚場等ニシテ消防車ノ通行ニ困難ヲ來ス程度ノ特別使用ヲ認許セラレタルトキハ其ノ日時場所期間等ヲ速ニ兩消防署長ヘ通報相成候依命此段及通牒候也

大正八年九月二十二日
未警保收第一五〇三三號保安課長通牒

消防署長宛

消防出場ノ完全ヲ期スル爲メ別紙ノ通り市内各警察署長ヘ通牒致置候條當ニ警察官署ト協商連絡ヲ採リ消防上遺算ナキ様御手配相成度依命此段及通牒候也

(参照)別紙ハ前文未警保收第一五〇三三號消防車通行ニ支障ヲ來ス程度ノ道路特別使用認許ニ關スル件ナリ

● 消防組小頭以下賞與

明治二十八年一月
示令第九號保安

消防組小頭以下ヲ賞與セントスルトキハ一應稟議ノ上執行セラレヘシ

● 消防組員ノ賞與ニ關スル件

明治三十五年四月二十五日
警發第四七號警保局長通牒

消防組合賞與ノ義ニ付テハ其ノ水火災ノ際ニ臨ミ警察上功勞アリタル場合ハ警察賞與規則ニ依リ行賞スヘキ筈ニ有之候處往消防組規則ノ下ニ之ヲ行賞ヲ爲シ得ルカ如ク被解候向有之趣右ハ手當ノ意ニ於テ行賞スルハ格別警察賞與トシテハ警察賞與規則ニ依ルヘキ義ト被存候條爲念此段及通牒候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

● 消防組員中小頭以下賞與辭令書樣式ニ關スル件

明治四十一年一月四日
警發第一號

消防組員中小頭以下ニ對シ賞與辭令下付ノ際ハ左記文例ニ依リ用紙ハ大奉書四ツ切ヲ用ユルコトニ一定致置度依命此段及通牒候也

左記文例

何何消防組	何何	某
小頭又ハ消防手	何	
何警察署長	官 氏	名
年 月 日		

● 消防組員監督ニ關スル件

大正十年
西警保發第一五號保安課長通牒

縣下各市町村ニ於ケル消防組員ニシテ火災出場其他消防出初式或ハ點檢等ノ機會ニ於テ職務上金品又ハ飲酒等ノ寄贈ヲ受ケ或ハ諸種ノ名義ノ下ニ寄附金ヲ募ル等ノ如キコトアリヤノ聞ヘアルハ消防組ノ規律節制上定ニ遺憾ノ次第ニ有之既ニ本件ニ關シテハ消防組規則施行細則第二十三條ノ各項ニ於テ規定セル如ク功勞爭奪紛議又ハ強威粗暴ノ舉動金品飲食物其ノ他ノ寄附ヲ強要スルカ如キコトナキ様明記シアルニモ拘ラス今尙如斯積年ノ弊習ヲ絶タス或ル地方ニ於テハ其ノ災害兇事ノ慘狀ヲモ顧ミス此ノ現場ニ於テ罹災者又ハ附近居住者等ヨリ飲酒ノ獎勵ヲ受ケ甚シキハ慣例トシテ物品ノ寄贈ヲ強要シ居ルカ如キ弊習アリトセハ消防組ノ指導監督上看過放任スヘカラサル舉動ト認メラレ候ニ付此ノ際斯カル積年ノ弊習ハ斷然矯正スルノ必要アルヲ以テ管下各消防組ニ對シ消防點檢其他ノ機會ヲ利用シ深ク調戒ヲ加フルハ勿論特ニ火災出場等ノ場合ニ際シ之カ改善ヲ期スヘク嚴重監督相成度尙ホ爾今消防組ニ對シ消防上ノ功勞アリトシテ謝意ヲ表スルカ爲メ金品ヲ贈與セントスルモノアルトキハ明治三十三年三月十三日示令第二十七號ニ依リ措置相成候様致度此段及通牒候也

● 水火災其ノ他ノ災害異變報告ニ關スル件

大正七年十月十日
午警保收第一七九九七號

本件ニ關シテハ大正三年神奈川縣訓令第六號神奈川縣報告例ニ規定ノ表式ニ依リ報告可相成ノ處近來其ノ罹災戶數ノ計算住家ノ區別等ヲ誤ル向有之取扱上差支不尠候條爾今該表ハ違式或ハ違算誤記等無之様慎重ニ御取扱ノ上進達期日遅延セサル様御注意相成度依命此段及通牒候也
追テ別紙ノ表式ハ豫メ印刷シ各管區巡查ニ配付シ置クハ報告ノ正確ト敏速トチ期スル一方法ト被存候間御參考迄ニ添付致候

火災取調表 (月日ノ分)

市町村別	人			戸		棟		計
	死	傷	不明	全燒	半燒	住家別	全燒半燒	
						住家		
						非住家		
						住家		
						非住家		
						住家		
						非住家		
						住家		
						非住家		
						住家		
						非住家		

備考

一、罹災戶數ノ計算方ハ住家非住家ノ區別ニ拘ハラズ其ノ所屬ノ戶數ヲ計上スルモノトス例ヘハ住家一棟納庫一棟倉庫一棟ヲ一ト構ヘトスル居住者一戸アル場合ニ於テ全部燒失シタルトキハ罹災戶數一戸住家一棟非住家二棟ト計上シ單ニ倉庫一棟ノミ燒失シタルトキハ罹災戶數一戸非住家一棟ト計上シ若シ右一構ニ世帯ヲ別ニセル同居者アル場合ニ於テ全部燒失シタルトキハ罹災戶數二戸住家一棟非住家二棟ト計上シ單ニ倉庫一棟ノミ燒失シタルトキ共有ナレハ罹災戶數二戸非住家一棟ト計上シ共有ナラザ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

レハ罹災戶數一戸非住家一棟ト計上スルモノトス
水害取調表 (月日ノ分)

市町村別	人			戸		棟		計
	死	傷	不明	全潰	半潰	住家別	全潰半潰	
				床上	床下	住家		
				床上	床下	非住家		
				床上	床下	住家		
				床上	床下	非住家		
				床上	床下	住家		
				床上	床下	非住家		
				床上	床下	住家		
				床上	床下	非住家		

備考

一、罹災戶數ノ計算方ハ住家非住家ノ區別ニ拘ハラズ其ノ所屬ノ戶數ヲ計上スルモノトス例ヘハ住家一棟納屋一棟倉庫一棟ヲ一構トスル居住者一戸アル場合ニ於テ全部流失シタルトキハ罹災戶數一戸住家一棟非住家二棟ト計上シ單ニ倉庫一棟ノミ流失シタルトキハ罹災戶數一戸非住家一棟ト計上シ若シ右一構ニ世帯ヲ別ニセル同居者アル場合ニ於テ全部流失シタルトキハ罹災戶數二戸住家一棟非住家二棟ト計上シ單ニ倉庫一棟ノミ流失シタルトキ共有ナレハ罹災戶數二戸非住家一棟ト計上シ共有ナレハ罹災戶數一戸非住家一棟ト計上スルモノトス

● 火災調査ニ關スル件

大正十一年三月二十八日
商第四七八號農商務省商務局長通牒

今般當省ニ於テ火災保險料率算定ノ參考資料トシテ本邦火災ニ關スル統計表編纂致度候條貴管下ノ自大正五年至大正十年六ヶ年間ニ發生シタル火災ニ付別紙様式ニ依リ御調査ノ上御回報相煩度此段及御依頼候也
追テ大正十一年以降ノ分ニ付テハ毎年御調査ノ上其ノ翌年六月末日迄ニ御報告相成様致度申添候様式及記載例

大正 年(自一月至十二月) 中火災ニ關スル調査 縣名

郡區市町村名	年始現 表戸數	一年間ニ於ケル火災度數				同上欄ノ内		一年間ニ 火災ニ關リ燒失セシ タル戸數建坪
		失火	放火	其他	計	延燒 度數	延燒セサ ル度數	
小區								
何區								
何區								
何區								
何區								
何區								
其他町								
合計								

備考

- 一 本表中戸數ハ棟數又ハ世帯數ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ戸數ヲ棟數又ハ世帯數ト改ムルコトヲ要ス
- 二 本表中年始ニ於テ壹千戸ニ滿タサル町村ノ計數ハ之ヲ一括シテ記載スルモノトス
- 三 本表中郡區市町村ノ廢置分合境界變更改稱等アリタルトキハ其要領及年月日ヲ又戸數棟數又ハ世帯數ニ著シク増減異動アリタルモノハ其ノ事由ヲ附記スルコトヲ要ス
- 四 發火後即時消止メタルモノト雖本表相當欄ニ各記載スルコトヲ要ス
- 五 本表ハ壹ケ年分毎ニ之ヲ作成スルコトヲ要ス

火災調査ニ關スル件

(大正十一年四月四日
戌警保收第一一三二九號)

必要有之候條貴管下ニ於ケル大正五年ヨリ大正十年ニ至ル六ケ年間ニ發生シタル火災ニ付別紙様式ニ依リ詳密御調査

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

查ノ上來ル十五日迄ニ御報告相成度依命此段及通牒候也

追テ大正十一年以降ノ分ニ付テハ毎年御調査ノ上翌年五月末日迄ニ御報告相成度申添候

別紙様式ハ(大正十一年三月二十八日商第四七八號農商務省商務局長通牒)ノモノト同式ニ付省略ス

●火災月報様式改正ノ件

大正十二年三月十二日
亥警保發第五六號

別紙ノ通り火災月報様式改正相成候條爾今同式ニ據リ御進達相成度依命此段及通牒候也
追テ報告期限ハ從來ノ通り(毎翌月十日)ト御承知相成度申添候

種類	出火度數	原失										延燒 棟數	延燒セサ ル度數	計		
		電	瓦	管	洋	提	焚	灰	小兒	惡	戲					
延燒シタルモノ	即タ半ム (メ止メノ含)															
善察官吏ニヨリ	消防官吏ニヨリ															
消防組員ニヨリ	消防組員ニヨリ															
其他ニヨリ	其他ニヨリ															
計	計															

失 燒	因 別														
	全 燒		果 計	原 計	化 學 的 不 作 用	雷 火	放 火	神 佛 燈 火	湯 佛 殿 火	煙 佛 殿 火	汽 車 ノ ソ 煤 煙	自 家 ノ 用 煙 竈	火 鉢 火 盆	混 燵 火 盆	安 火 及 煙 燵
棟 戶 延 燒	棟 戶 延 燒	棟 戶 延 燒													

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

者 傷 死	別 種	半 燒		損 害		原 野	
		坪 數	延 燒	損 害	價 格	損 害	價 格
傷 者	死 者	棟 戶	棟 戶	損 害	價 格	損 害	價 格
其 他	其 他	其 他	其 他	其 他	其 他	其 他	其 他

● 水火災其ノ他ノ災害異變報告ニ關スル件

大正十三年十月二十七日 十三保發第二九一號

本件ニ關シ大正七年十月十日附午警保收第一七九九七號ヲ以テ依命通牒致シ置候處遭震火災ノ際事務要録焼失等ノ爲メ違式且ツ其罹災戸數ノ計算住家非住家ノ區別ヲ誤ル向有之今後ハ該通牒ニヨリ御取扱ノ上期日ヲ遲延セサレ様御注意相成度此段及依命通牒候也 追テ該通牒ニ因ル様式ハ省略ス

● 火災報告ニ關スル件

大正十三年四月十七日 警保局種村屬ヨリ電話通牒
從來貴廳ヨリ被害ノ多寡ニ不拘火災ノ爲メ死者アリタル場合御報告アリタルモ右ハ内務省報告例ニ基キ焼失戸數百戸以上若ハ特ニ注意ヲ要スルモノト認メラルモノノ外ハ御報告ニ及ハサル儀ニ有之候間御含ミ相成度及通知候也

● 火災通報方ニ關スル件

大正十三年九月十日 檢發第一九二四號檢事正

保安課長宛
 檢事總長ヨリ通達ノ次第モ有之候條本年一月ヨリ八月迄ノ縣下火災(損害額一萬圓以上ノモノ及官衙、公署、學校等ノ焼失ハ一萬圓以下ノモノ)ノ別紙雛形ニヨリ取調報告相成度及照會候也
 進テ九月以後ノ分ニ付テハ毎月報告相成度候
 (別紙) 記載例 火災調査表

火災年月日	發火ノ原因	火元住所氏名	延焼及被害ノ狀況	焼失棟數及戸數	犯人ノ處分
年月日	火消臺ノ不始末	横濱市野毛町三ノ九四 佐藤繁太郎	西南方ノ強風且ツ乾燥シ居ル爲メ火勢猛烈チ極メ市内各警察署所屬消防組ヲ召集消防ニ盡力シタルモ延焼ス 損害額何百何十圓	何 戸	

● 消火器設備ニ關スル件

明治三十七年四月六日 示令第四三號

今般火災豫防ノ設備ニ關シ演藝場取締規則、觀物場取締規則、貸座敷引手茶屋取締規則、宿屋營業取締規則中改正ノ事項發布相成候ニ付テハ左ノ規程ニ準シ施行スヘシ
 一、消火器ハ郡部ノ旅人宿ニシテ土地ノ狀況ニ依リ危害發生ノ虞ナシト認ムルモノハ其ノ設備ヲ要セス
 一、消火器ハ一個六升入以上ノモノヲ使用セシムヘシ
 一、消火器ハ金屬ノモノヲ使用セシムヘシ

● 消火器設備ニ關スル件

明治三十七年四月六日 示令第四四號

學校病院、觀工場、料理店、工場其ノ他衆人ノ集合スヘキ建造物ニ在リテハ火災發生シ易ク從テ危險甚シキモノニ
 (神奈川警)

(神奈川警)

付之カ豫防法トシテ左記事項ノ設備ヲ爲サシムル様懇篤諭示シ相當ノカ措置ヲナスヘシ

- 一、學校病院、觀工場、料理店、工場其ノ他衆人ノ集合スヘキ建造物ニ於テハ建坪五十坪毎(二階以上ハ各別トス)其ノ他臺所及浴場等ハ一ヶ所ニ一個宛ノ消火器ヲ設備セシメ而テ私立ノ建造物ニアリテハ之カ設置ノ場所個數等ハ警察官署ニ於テ指示スヘシ但シ消火器ハ一個六升入以上ノモノヲ使用セシムヘシ
- 一、前項ノ建造物ニ於テ使用スル燈火ノ消火ハ金屬ノモノヲ使用セシムヘシ
- 一、建設五十坪未満ニシテ小ナル學校病院等ハ危害發生ノ虞レナシト認ムルモノニ限り之カ設備ヲ省略スルコトヲ得

● 消火液ニ關スル件

大正十一年十一月十八日 戊午保發第二二七號

近來各所ニ於テ販賣セラレル消火器中當課ニ於テ試験ノ結果消火力顯著ナルモノト認メタルモノニ限り消火器ト見做シ御取扱相成度依命此段及通達候也
 進テ現在當課ニ於テ試験ノ結果消火力顯著ナルモノト認メタルモノノ左記ノ通りニ有之候

- 一 名稱 火事知ラス
- 二 製造發賣元 東京市日本橋區南茅場町六十番地 長沼工業所
- 一 名稱 火災防止液(かじどめ液)
- 二 製造發賣元 東京市小石川區初音町十一番地 東洋社工業所

● 消火液ニ關スル件

大正十二年三月二十三日 亥午保發收第二三三九號

横濱市松影町二丁目

右製造ニ係ル消火液ハ當課ニ於テ試驗ノ結果消火力顯著ナルモノト認メ候條客年十一月十八日附發第二一七號依命通牒ニ基キ消火器ト見做シ御取扱相成度依命此段及通牒候也

●消火液ニ關スル件

大正十二年五月七日
保收第四一〇〇一號

東京市四谷區片町三七

千葉商會

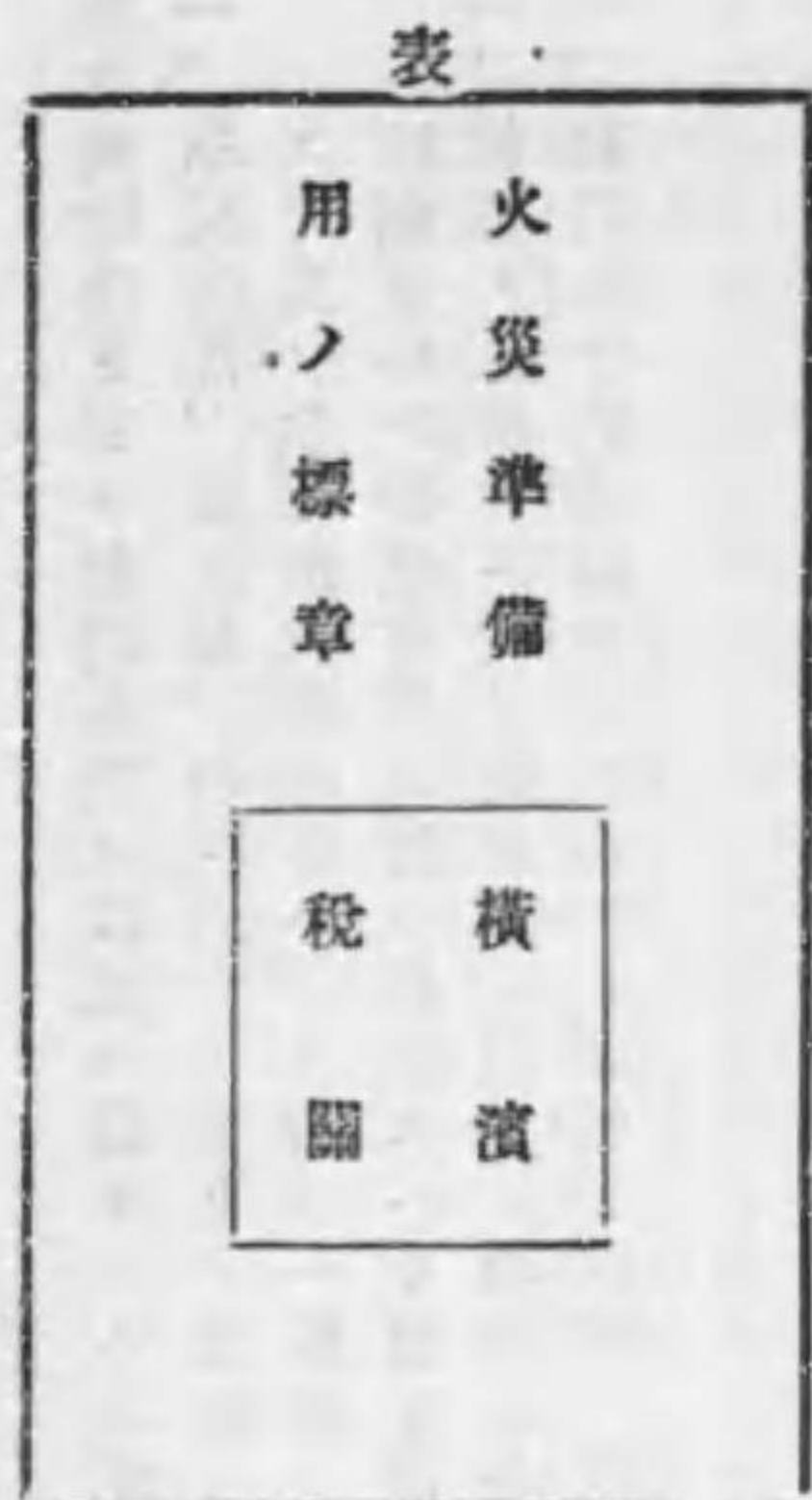
右製造ニ係ル和田式強度消火液ハ當課ニ於テ試驗ノ結果消火力顯著ナルモノト被認候條客年十一月十八日附發第二一七號依命通牒ニ基キ消火器ト見做シ御取扱相成度依命此段及通牒候也

●横濱税關職員非常線内通行ノ件

明治二十七年八月二十三日
示令第六八號

横濱税關附近ノ場所ニ於テ失火其ノ他非常事件有之候場合ニハ取締上監吏及監吏補ハ明治二十三年勅令第二百十四號ノ制服ヲ著シ他ノ職員ハ左記ノ標章ヲ携帯シテ税關へ出入候趣ニ付消防線内ヲ故障ナク通過スル様取計ラレヘシ

左記



〔神奈川県〕

●横濱電話交換局員非常線内通行ノ件

明治三十一年一月
示令第一號

明治三十年十月十示令第九十一號東京電話交換局ト改稱ニ付同局又ハ電話加入者近傍出火ノ節消防線内へ立入ノ節携帯ノ印鑑左記ノ通定メタル旨通知アリ

木製

烙印



縦 壹寸八分 横 壹寸壹分



厚サ 壹分八厘

●横濱葉煙草專賣所員非常線内通行ノ件

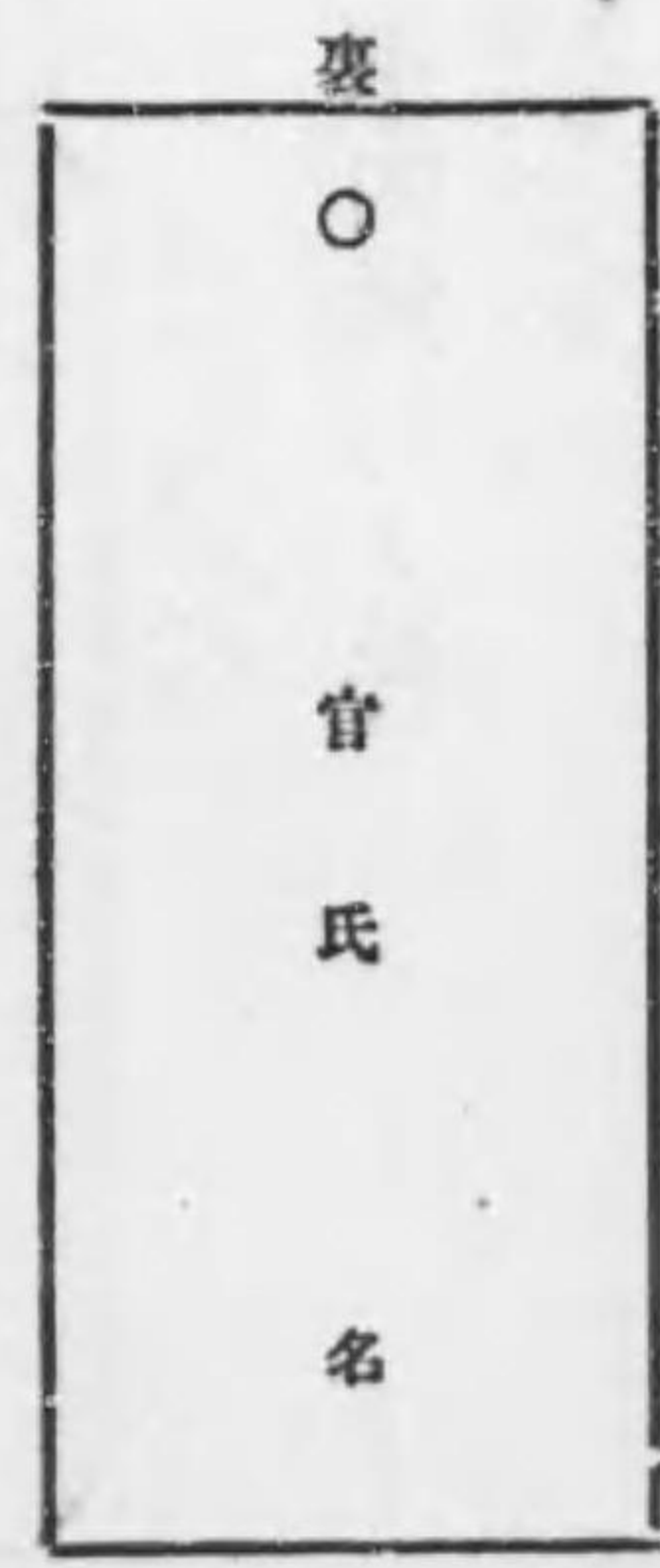
明治三十一年二月
示令第一二號

横濱葉煙草專賣所近傍出火ノ節所員ニシテ消防線内へ立入ノトキハ左記標札携帯ノ旨同所ヨリ通知アリ

第二編 保安 第一章 安寧

六一三

二寸五分



● 橫濱市部醫會會員消防線內立入ノ目標届出

木質樟子
 神奈川縣醫會橫濱支部會員ニシテ消防組規則ノ施行細則第十九條ニ依リ病人及親戚知朋ヲ支應ノ爲メ消防線内ニ立入ルトキハ左式ノ目標ヲ携帯スル旨届出タズ
 視ハ提灯ヲ用ユ



〔神奈川縣〕

畫ハ下ニ示ス
名刺ヲ用ユ



神奈川縣醫會
 橫濱市部會
 何之誰

● 橫濱正金銀行近火ノ際非常線内出入ノ標札届出

明治三十三年二月
 示令第一〇號
 橫濱正金銀行ヨリ附近出火ノ際非常線内ニ出入セシムル爲メ左記ノ標札ヲ携帯セシムル趣届出有之候條此旨心得ハ

横一寸 縦一寸八分



●横濱商業會議所會員出火又ハ近火ノ際火防線内ニ出 入方

明治三十三年二月 示令第一三號
横濱商業會議所會員ニシテ出火又ハ近火ニ遭遇シタル者アレトキ左記ノ名刺又ハ提燈ヲ携持スル會員ヲ火防線内ニ
出入セシメ度旨願出候條此旨心得ラレヘシ



名 刺
夜 間



●横濱市瓦斯局員及職工火災ノ際非常線内通過ノ件

明治三十六年十二月 示令第一二一號
火災ニ際シ瓦斯管保護及斗量器撤去等ノ爲メ瓦斯局員並ニ職工等ハ晝間瓦斯局ト記シタル徽章ノ布片ヲ袖ニ附著ス
ル趣ニ付非常線内ヲ可成通過セシムル様取計フヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

●横濱市吏員火災其ノ他非常事變ノ際非常線内通過ノ 件

明治三十六年十二月 示令第一二一號
火災其ノ他非常事變ニ際シ救護若クハ實況視察等ノ爲メ横濱市吏員夜間左記徽章提燈携帶候趣ニ付非常線内ヲ可成
通過セシムル様取計フヘシ
左記(提燈圖略)
酸漿形馬乘燈三分ノ一上部中心ニ「市」字「黒」ニテ崩シ幅五分ノ赤横線ノ五分ニ隔テ二線ヲ畫シタルモノ

●横濱市水道吏員及職工工事並非常用ノ提燈届出

横濱市水道吏員職工等ニ於テ工事並非常用ノ爲自今左記雛形ノ提燈使用ノ旨届出有之候條此ノ旨心得ヘシ

水道常設委員
同臨時委員
工 師 長
主 幹
事 務 長
技 師



水道書記
同 技 手
檢 査 掛 長





價シ水ノ色ハ黑色

●横濱稅務監督局員及稅務署員消防線内通過票證

横濱稅務監督局員及稅務署員ニシテ消防線内へ立入ルトキハ左記ノ標證携帯ノ趣ニ付右心得ラセシ

明治三十五年十二月
示令第一〇四號

表

第 號

非常線内 通行 券

印ハ朱ニテ「横濱稅務監督局印」トアリ

裏

横濱稅務監督局
又ハ何稅務署

官 氏 名

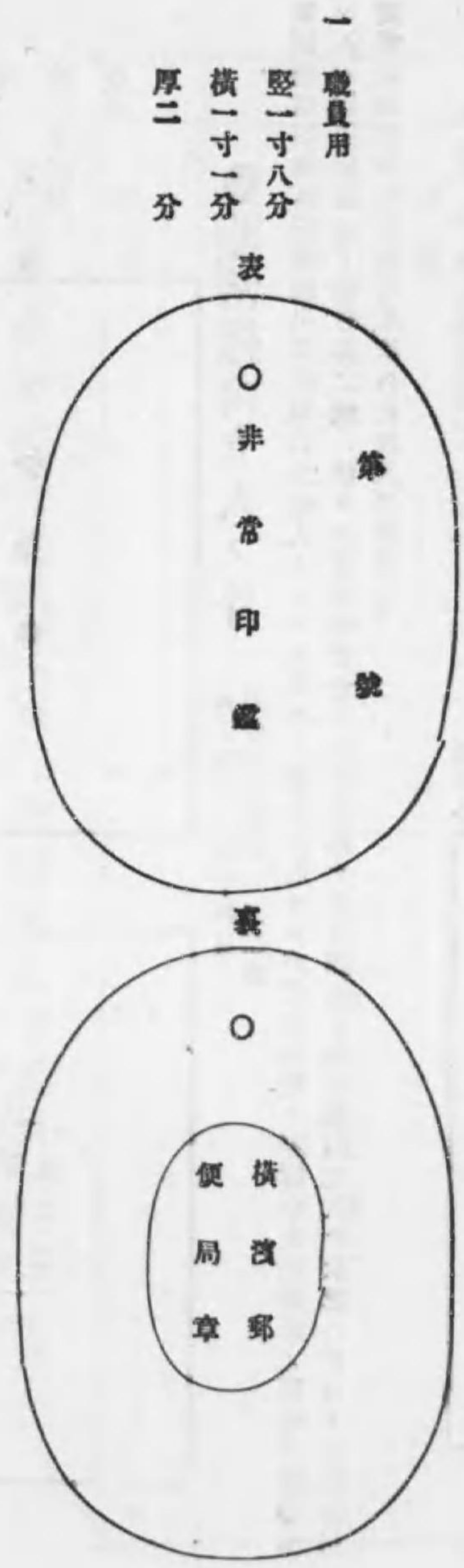
〔神奈川警〕

●郵便局員非常線内通行ノ件

大正三年十月十六日
實保收第六二四五號

明治四十一年二月警保收第一〇二三號ヲ以テ及通謀置候横濱市内郵便局職員及所屬員ニシテ火災其ノ他非常事變ニ際シ非常線内通行ノ證票ヲ今同左記ノ通り改正候趣キ横濱郵便局長ヨリ照會有之候條爾今當該警察官ニ於テ支障無之ト認ムル限リ線内立入ヲ承認相成度依命此段及通謀候也

左記（木製ニシテ文字ハ鐵ヲ烙印）



二 所屬員用

竪二寸
横一寸五分
厚三分



●非常線内立入ノ件

大正四年八月十四日
卯警保收第四一二二號

東部通信局海軍部横濱出張所職員及備人ニシテ火災等ノ場合ニ於ケル非常線通過ノ際爾今左記雜形ノ印鑑ヲ携帯セシムル旨同所長ヨリ照會有之候ニ就テハ當該警察官ニ於テ支障ナシト認ムル限リ線内立入ヲ承認スルコトニ回答相成候條相當御取計相成度依命此段及通譯候也

左記

用材材



用材材

用人備



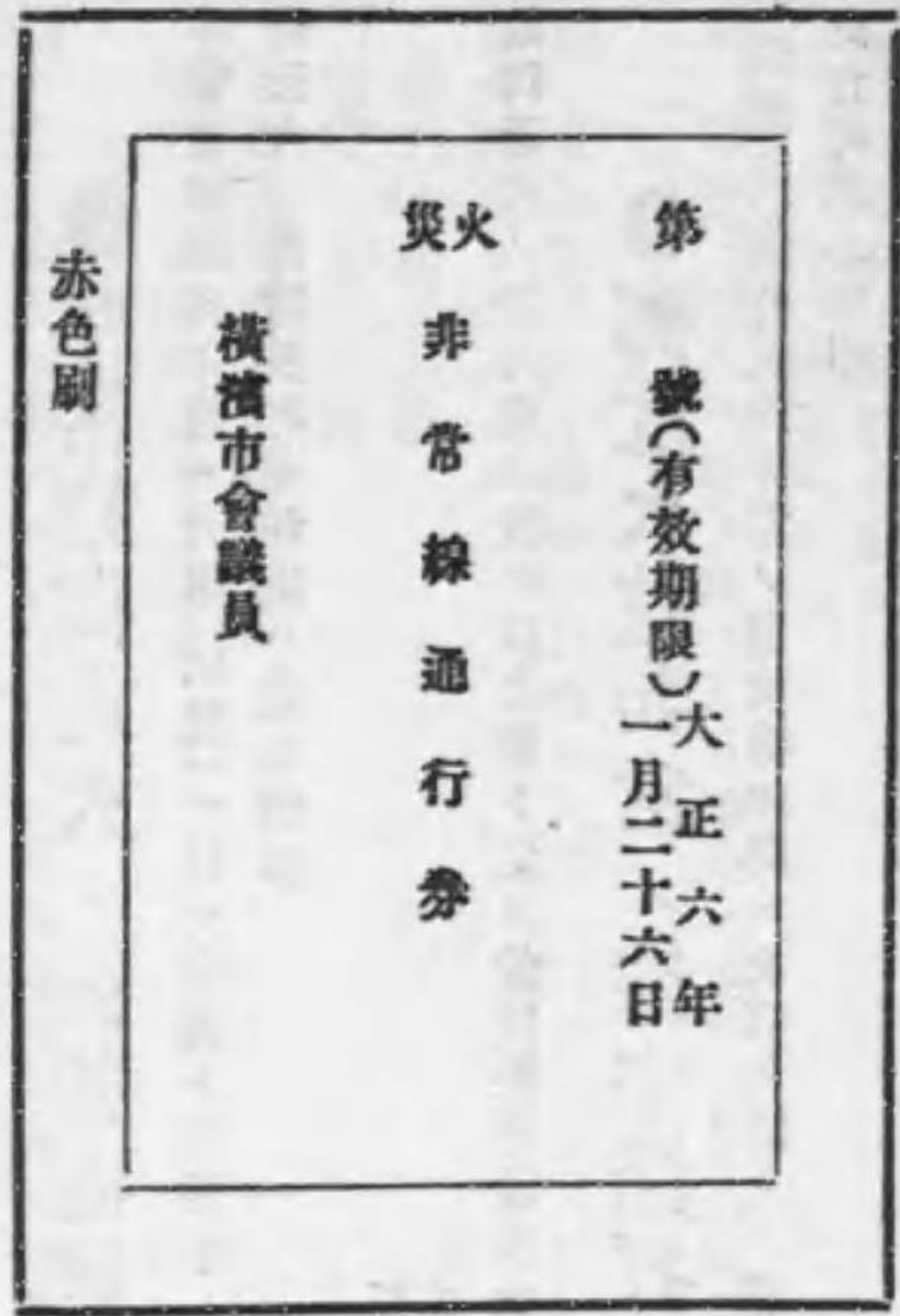
〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

●横濱市會議員非常線通行ノ件

大正五年一月十三日
辰警保收第一六七號

本件ニ關シテハ客年一月二十二日付卯警保收第三四三號ヲ以テ及通譯置候處今同前發行ノ分期限満了ニ付爾今左記雜形ノ通行券携帯ノ趣照會有之支障無之旨回答候條右御了知ノ上可然御措置相成度依命此段及通譯候也



赤色刷

●横濱市左官煉瓦請負業組合員火災非常線通行ニ關スル件

大正十二年八月六日
保收第六號

横濱市左官煉瓦請負業組合ヨリ火災ノ際組合員カ自己ノ得意先ナル土藏所有者ノ土藏目塗ノタメ左官服裝ヲ爲スニ付火災非常線ヲ通過ノ義許可セラレ度旨出願有之候ニ付調査候處之ニ對シテハ非常線ノ設定上一般ノ非常線通過

第二編 保安 第一章 安寧

六二一

第二編 保安 第一章 安寧

警署交付スルコトナク具體的ノ場合ニ非常線警戒警察官ニ於テ其事由調査ノ上支障ナシト認ムル場合ニ於テ之カ通
過ヲ許可スルヲ以テ適當ナル措置ト認メラレ候條爾今左官服裝ヲ爲スモノニ限リ右ニ依リ御取扱相成度依命此段及
通牒候也

● 出火場近傍乘馬禁止

明治三年二月三日
太政官布告

出火之節出役之外馬上ニテ其近傍へ乗込候儀以來禁止候事

● 非常竝御近火ノ節號砲發射

明治五年三月九日
太政官布告第七十五號

自今非常竝御近火ノ節ハ大砲(三發)ヲ以テ合圖ト定候事
但御近火ノ節鐘鼓打交候儀ハ廢止候事

明治五年三月十四日
太政官布告第八十三號

非常竝御近火ノ節大砲三發ヲ以合圖ト定メ候段相違置候處非常ハ五發御近火ハ三發ト改定候條此旨更ニ相違候事

● 御近火竝非常ノ節半鐘打方

明治六年六月八日
太政官布告第九十三號

〔赤阪假皇居〕御近火竝非常ノ節號砲相聞エ次第各區火ノ見ニ於テ御近火ハ半鐘四點ツ、非常ハ五點ツ、連々打鳴シ
候條此旨可相心得事

● 御近火境界

明治五年四月二日
史官達

御近火境界

本丸大手 和田倉 馬場先 櫻田 牛藏 田安 清水 竹橋 平河

〔神奈川警〕

諸省府縣

〔神奈川警〕

右九門内
右御門外ト雖モ風竝ニ依リ候テハ號砲相發候事

● 火番取締規則

明治三十七年一月十三日
縣令第五號

火番取締規則左ノ通之ヲ定ム

一 火番取締規則

第一條 本則ニ於テ火番ト稱スルハ個人ニ於テ火災及竊盜豫防又ハ消防ノ爲道路ヲ巡視シテ各自ヲ警戒スルモノナ
ク

第二條 多衆共同シテ組合ヲ組織シ火番ヲ設ケムトスルトキハ左記事項ヲ具シ組合員又ハ總代ヨリ所轄警察官署ニ
願出テ許可ヲ受ケヘシ

一 費用ノ徵收方法

二 經費ノ支出方法

三 火番人ノ勤務方法

四 總代及事務取扱者ノ氏名

五 組合員ノ氏名

第三條 左ノ場合ニ於テハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 第二條第一號乃至第四號ニ異動アリタルトキ

一 火番人ヲ選定シタルトキ及異動アリタルトキ

第四條 警察官ハ火番人ノ勤務ヲ指揮監督スルコトアルヘシ

第五條 警察官署ハ素行不良又ハ不精勤ト認ムル火番人ノ勤務ノ停止又ハ禁止ヲ命スルコトナ得

第六條 警察官署ハ公益ニ反シ又ハ公安ヲ害スルト認ムルトキハ火番組合ノ許可ヲ取消スルコトナ得

第七條 本則第二條又ハ第三條ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ料科ニ處ス

第八條 本則ハ明治三十七年二月一日ヨリ施行ス
第九條 従前設置シタル火番ハ本則施行ノ日ヨリ一个月以内ニ本則第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三節 治水

●河川法

明治二十九年四月八日
法律第七十一號

大正四年六月法律第四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法

第一章 總則

第二章 河川ノ管理

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第五章 監督及強制手續

第六章 訴訟及訴訟

第七章 附則

河川法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケ

タルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク

ノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ

第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ムルト

キハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料

徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ

其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキ

ハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セ

シムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又

ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシ

テ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ

施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ

第二編 保安 第一章 安寧

關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得
河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方
行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シ
ルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務年限並
其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ
施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方面、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ
行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シ
タル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル

〔神奈川管〕

爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルト
キ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ
他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實
ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ
必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ
在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命ジ又ハ下級公共團體ニ命ジ
テ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナ
サシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命ジテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若
ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

六二七

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル
第二十五條 通航料徴収ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徴收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徴收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ
災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得
河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノナルトキ又ハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補助金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナシシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命ジテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スルハシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲メノ工作物ノ施設其他ノ河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲メ又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲メ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂ヲ止メ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂ヲ止メ爲メ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

〔神奈川県警〕

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲メ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五節 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設ケルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲メ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命ジテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ整頓ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜サ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セザルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的及ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

六三一

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押アルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

●河川法施行規程

明治二十九年六月三日 勅令第二百三十六號

改正 明治三十二年六月勅令第二八六號

朕權密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第三條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命ジテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ(土木監督署長)之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項敷地ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

〔河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ〕

〔神奈川管〕

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受ケヘキコトヲ命ジタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 内務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

●河川法ニ依ル罰則ノ件

明治三十三年四月十七日 勅令第四百四十八號

朕親密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ(重禁錮)ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

●河川ニ關スル行政監督ノ件

明治二十九年六月三日
勅令第二百三十五號

改正 明治三十二年六月勅令第二八七號

河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但河川ニ影響スルコト小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

一 河川ノ支川、派川及河川ノ附屬物ノ認定

二 河川ニ關スル新築、改築若ハ除却工事ノ施行並ニ其ノ計畫及其ノ工費豫算

三 河川法第十七條、第十八條及第四十三條ニ依リ與フル許可

四 内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分

五 河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法

六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課

七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却

第三條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分

二 河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課

此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其ノ認可ヲ受クヘキモノヲ定ムルコトヲ得

第四條 河川法第三十五條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付チナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

〔神奈川県〕

〔神奈川県〕

一 河川ニ關スル事業ニシテ寄付チナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト

二 寄付チナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ寄付チナシ得ヘキコト

第五條 河川法第三十六條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助チナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二 補助チナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ補助チナシ得ヘキコト

●河川法第四條第二項ニ依レル特別規定

明治三十五年六月二十五日
内務省令第十六號

河川法第四條第二項ニ依レル特別ノ規定左ノ通之ヲ定ム

第一條 河川ノ附屬物カ府縣ノ境界ニ係ルトキハ關係府縣知事ノ一ニ於テ其附屬物ノ全部又ハ其一部ヲ管理スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ關係府縣知事協議ノ上管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者確定シタルトキハ關係府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三條 管理者タル府縣知事ハ其附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ其維持ヲ爲スノ義務アルモノトス

第四條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ要スル費用ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣ノ負擔トス

前項ノ費用ニ付テハ他ノ關係府縣ヲシテ其一部ヲ負擔セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ明治三十二年内務省令第二十二號ノ規定ヲ準用ス

第五條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ヨリ生スル收入ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣ニ歸ス

第六條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ付テハ各關係府縣知事ニ於テ其管轄區域ニ屬スル部分ノ河川臺帳ヲ調製スヘシ

河川法第五條ニ依レル命令ノ件

明治三十二年十月十四日
勅令第四百四號

朕河川法第五條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス
府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ
第二條 前條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條(敷地ヲ除ク)第四條第二項、第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス
第三條 前條ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ内務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若ハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス
府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

河川法第九條ニ依レル命令ノ件

明治三十二年五月十五日
內務省令第十六號

改正 大正八年二月內務省令第二六號

河川法第九條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルニハ其ノ行政廳ハ河川ニ就キ直接ニ利害ノ關係ヲ有スル公共團體ノ行政廳タルコトヲ要ス

〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

河川法第四十三條第二項ニ依レル命令

明治三十三年五月二十九日
內務省令第二十八號

河川法第四十三條第二項ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十三條ニ依リ通航料ノ徵收ヲ許可スルトキハ其ノ金額及徵收期間ヲ定ムヘシ

第二條 通航料ノ金額及其ノ徵收期間ハ原資及其ノ利子ノ償還ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三條 公益ノ爲メ必要アルトキハ府縣知事ハ通航料徵收ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四條 通航料徵收ノ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ許可ヲ取消サレタル者ノ申請ニ依リ府縣ニ於テ補償金ヲ下付スルコトヲ得

第五條 前項ノ補償金額ハ原資ノ未償還額ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條 通航料徵收許可ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シタルニ因リ其ノ收入ノ減少シタルトキ又ハ更ニ新築若ハ改築ヲ爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ通航料ノ増額及徵收期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第七條 通航料ハ左ニ掲ケタル舟筏ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得ス

一 河川ノ視察其ノ他公務ノ爲メ通航スル船舶
二 行政廳ノ使用スル船舶
三 國及府縣以下ノ公共團體ノ所有ニ屬スル筏
四 自家耕作ノ肥料ヲ積載スル船舶
五 府縣知事ニ於テ特ニ定メタル舟筏

- 第八條 左ニ掲ケタル各號ニ該當スル者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 許可ノ效力停止期間内ニ通航料ヲ徵收シタル者
- 二 第六條ノ規定ニ違背シタル者

●河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件

明治三十三年七月十三日
勅令第三百號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得
- 第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱等ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
 - 一 河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物ノ新築、改築又ハ除却
 - 二 河川附近ノ土地ノ掘鑿其ノ他土地ノ形狀ノ變更
 - 三 堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築若ハ除却又ハ竹木ノ栽植若ハ伐採
- 第五條 沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スヘシ
- 第六條 沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 第一條、第二條、第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下付

〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

スヘシ

- 第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クモ十五日前ニ、第三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クモ五日前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ
- 第九條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 第一條ニ依ル處分
 - 二 第四條ニ掲ケタル行爲ニシテ重大ナルモノノ許可
- 第十條 第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

●河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件

明治三十年十月二十三日
勅令第三百七十七號

朕河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ關フ
- 第二條 河川トナルヘキ區域並ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ
- 第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得
- 第五條 此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

- 一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アリトキ
 - 二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ
 - 三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ
 - 四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ
 - 五 法律命令ニ違背シタルトキ
 - 六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ
- 第六條 此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス
- 第七條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムを得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得
- 河川トナルヘキ區域ニ消ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲ニ必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得
- 前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス
- 第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス
- 第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シテ發スル命令ニ規定シタル事項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得
- 第十條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命ジテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スルコトヲ得
- 第十一條 左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ依リ有スル職權ノ施行ニ關シ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 一 第七條ニ依リ建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セムトスルトキ
 - 二 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命ジテ工事ヲ施行セシムルトキ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件

明治三十三年四月十七日
勅令第四百四十八號

股權者顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ許偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

- 一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ許偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者
- 二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者
- 三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ許偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

河川法ノ規定ニ依レル命令ニ關シ協議ヲ受ケタル場合ニ於ケル措置方ノ件

明治四十二年二月二十日
内務省訓令第三號

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

各縣ニ於テ明治三十年十月勅令第三百七十七號及明治三十三年七月勅令第三百號ニ記載シタル行爲ヲ爲サムトスルニ當リ協議アリタルトキハ一般ノ規定ニ準シ本大臣ノ認可ヲ受ケ若ハ直ニ處理スヘシ

運河法(抄録)

大正二年四月九日
法律第十六號

第二條 免許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定シタル期限内ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第三條 國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接続若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ河川、溝渠、道

路、橋梁、鐵道、軌道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ建設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ效用ニ妨ナキ限リ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接続、横斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四條 前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ妨アリヤ否ニ付爭アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條 工事力其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケテハシ

第七條 免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケテハシ

第八條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ヨリ事業ノ報告ヲ徵シ又ハ其ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第九條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 運河及附屬物件ハ免許ノ效力存續スル間及其ノ效力消滅後一年間ハ内務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 株式會社又ハ株式合資會社力事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分一迄下ルコトヲ得

第十二條 國又ハ公共團體ハ免許ノ效力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

コトヲ得

第十六條 國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條 工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

●砂防指定地取締規則

大正十三年十二月二十六日 縣令第百六號

砂防指定地取締規則左ノ通相定ム

砂防指定地取締規則

第一條 明治三十年法律第二十九號砂防法第貳條ニ依リ内務大臣ノ指定シタル土地ノ内崩壞地ノ周圍拾間以内ノ土地並砂防設備ヲ行ヒタル土地ニ於テハ總テノ作業ヲ禁止ス但知事ニ於テ公益ノ爲必要ト認ムル作業ハ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條以外ノ指定地ニ於テハ知事ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 開墾(地租條例ニ規定シタルモノ、外燒畑、切替畑ヲ含ム)
- 二 地目變換
- 三 木竹ノ皆伐、擇伐、間伐又ハ枝打
- 四 枯木根木ノ伐採
- 五 焚火
- 六 火入
- 七 土地ノ掘鑿
- 八 土、石、切芝又ハ木竹ノ根株若ハ小柴ノ採取
- 九 下草又ハ落葉ノ採取

- 十 炭燒竈又ハ小屋掛類ノ施設
- 十一 家畜ノ放牧又ハ牽入
- 十二 木竹及土石ノ滑下又ハ地曳等總テ地皮ニ毀損ヲ生セシムル行爲
- 十三 鋸、斧、鎌、鉋、鋸等ヲ携帯シテ立入ルコト
- 第三條 前二條ニ依リ與ヘラレタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ知事ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

- 第四條 第一條ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五條 第二條第三條ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
- 第六條 本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ自己ノ家族又ハ雇人ノ行爲ト雖其ノ責ヲ免ルコトヲ得ス
- 第七條 第一條第二條ニ依リ許可ヲ得ントスル者ハ其ノ願書ニ目的、期間及區域ヲ記載シ且計畫方法書並附近ノ實況ヲ知ルニ足ルヘキ平面圖ヲ添附シ著手後定期日參箇月前ニ願出ヘシ但特別ノ事由アルモノハ此限ニ在ラス
- 前項ノ作業期間ハ壹箇年以上ニ涉ルコトヲ得ス但左記作業ニ限リ特ニ參箇年以内ノ期間許可スルコトアルヘシ
 - 一 植樹ノ枝打、間伐等保護ノ爲ニ行フ作業
 - 二 小柴、下草、落葉ノ採取

第八條 本規則第一條第二條ノ行爲ト雖砂防工事ノ施行上必要ノモノハ別ニ出願ヲ要セス但工事認可ニ際シ特ニ條件ヲ附シタルモノハ此限ニ在ラス

附則
本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●治水條例並副則

明治十二年十月九日 布達甲第百八十三號

治水條例並副則左之通相定候條此旨布達候事

治水條例

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 第一條 治水ニ關スル事務ハ總テ成規ニ從ヒ該町村(戶長)ノ擔任スルモノトス
- 第二條 用器水路管網井等ノ修繕其工費ノ協議費ニ屬スル分ハ該町村限リ(戶長)ノ認可ヲ經テ直チニ施行スルコトヲ得尤利害ノ他ニ影響スルモノハ豫メ其町村ニ協議スヘシ
- 第三條 毎年農隙ヲ計リ場上適宜ノ場所ヲ撰ミ防禦ニ緊要ノ木石等蓄積シ出水ノ豫備ヲナスヘシ
- 第四條 川流ノ迂直水勢ノ強弱ニ仍リ若シ其利害ニ關シテ川脈ヲ變換シ及ヒ修繕ヲ要スルトキハ見込ヲ具狀スヘシ
- 第五條 河水暴漲及大風雨ノ節ハ晝夜ニ限ラス沿川ヲ巡視シ防禦ニ盡力シ且減水ノ後ハ破損ノ箇所詳細取調(區)役所ヲ經テ届出ヘシ
- 第六條 流筏ノ者水勢ニ因リ堤塘及ヒ水制器械ノ類ノ障礙トナリ瀆違ヒ水路ヲ設ケルヲ要スル等ノ節ハ其旨取調具狀ノ上指彈ヲ受ケヘシ
- 第七條 總テ犯則ノ者アルトキハ地元町村ニテ願末取札詳細具狀スヘシ
- 第八條 毎年十月ニ至リ村々目論見ノ節ハ豫メ現場ヲ實査シ置キ派出官ヘ見込申立ツヘシ
- 但協議費ニ屬スル分ハ箇所附報相添出願スヘシ
- 第九條 各川堤防水制ノ切及ヒ堤塘ニ係ル諸修繕ニシテ臨時工事ヲ要スルトキハ必ス(戶長)檢査ノ上目論見帳ヲ添ヘ出願許可ヲ得而テ後始メテ著手スル事ヲ得
- 但出水ノ際一時ノ防禦及ヒ道路兼用ノ堤塘ニシテ其修繕ノ協議費ニ屬スル分ハ該町村限リ(戶長)ノ認可ヲ經テ直チニ施行スルコトヲ得尤前岸上下ノ障礙トナルヘキ上置キ等ハ此限ニアラス
- 第十條 河港堤塘缺崩シ及ヒ水制類ノ損所アルトキハ大破ニ及ハサル前町村持場限リ怠慢ナク補修ヲナスヘシ
- 第十一條 川脈ヲ變更シ或ハ新ニ堤塘溝渠等ヲ設ケルトキハ土地ノ種類ハ勿論地坪ノ増減及ヒ其幅員間敷等詳細ノ圖面目論見帳並前岸上下各町村故障有無ノ連署ヲ以テ出願許可ヲ經テ而テ後著手スルコトヲ得(尤竣功ノ上ハ明治九年六月租第百五十四號並雜形ニ照準工費決算概相添其都度遺漏ナク届出ヘシ)
- 〔但新規起工ニ係ルモノハ總テ明治九年第三百三十號又ハ同十二年第二十二號公布ノ旨趣履行濟ノ廉價面ニ詳明ナラシムヘシ〕

第十二條 「堤防用悪水路樋管溜井等ノ工事ニシテ既ニ竣功セシモノハ明治十年本縣乙第二百二十六號達ニ據リ毎三ヶ月ツ、遺漏ナク調製シ翌月十日限リ郡區役所ヘ送致スヘシ」

第十三條 副則第五條第八條ニ付工事上不得止トキハ情實具狀ノ上指揮ヲ受クヘシ

治水條例副則

- 第一條 河港堤防用悪水路樋管溜井等ノ修築補繕ハ些少ノ事業タリトモ私ニ著手スルコトヲ許サス
- 第二條 堤防堤脚ヲ侵蝕シ溝渠ヲ縮耕スル等ヲ許サス
- 第三條 許可ヲ得スシテ河中へ杭ヲ打チ或ハ蘆荻卷ヲ沈メ築ヲ設クルコトヲ許サス
- 第四條 川除牛柵及ヒ石籠等總テ堤防器械上へ登ルコトヲ許サス
- 第五條 毎年五月ヨリ十月迄ノ間河原敷へ竹木ヲ積置クコトヲ許サス
但本文期限外ト雖モ豫定シアル物揚場外ヨリ諸物品ヲ運搬スルヲ許サス
- 第六條 流筏渡船營業者ト雖モ堤防水柵欄杭等へ衝突シ又ハ繫留スルコトヲ許サス
- 第七條 堤外へ居宅及ヒ渡船場漁小屋筏小屋等ヲ私ニ築造スルヲ許サス
- 第八條 許可ヲ得スシテ堤防拾間以内ニ於テ土砂ヲ掘取ルコトヲ許サス
但私有地ニ係ル年季起返シ土砂掘取りノ事業ト雖トモ無届ニテ著手スルヲ許サス
- 第九條 職遊漁ニ論ナク堤塘又ハ浪除ヨリ拾間以内及ヒ土留欄等貳間以内ニ於テ釣餌又ハ貝類ヲ掘取ルコトヲ許サス
- 第十條 出水ノ節其際又ハ水剝類へ流寄リタル蘆荻及ヒ竹木等其地元町村吏員〔戸長〕ノ差圖ヲ經スシテ私ニ拾ヒ取ルコトヲ許サス
- 第十一條 前條條ヲ犯シタルモノハ相當處分ノ上尙該犯ヨリ生スル所ノ損失ヲ辨償セシムヘシ

●水車規則

大正三年九月四日 縣令第五十七號

改正 大正一二年二月縣令第一〇八號 水車規則左ノ通定ム

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

水車規則

- 第一條 本則ニ於テ水車ト稱スルハ其ノ自家用タルト營業用タルトヲ問ハス水力ヲ利用スル諸車ヲ謂フ
- 第二條 水車ヲ設置セントスル者ハ町村役場、郡市役所ヲ經由シテ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ
前項ノ許可ヲ受ケタル後第三條第二號及第三號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ郡ニ在リテハ郡長市ニ在リテハ市長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 水車設置ノ願書ニハ左記各號ヲ具備スヘシ
 - 一、水車設置ノ位置並利用河川、水路ノ名稱
 - 二、水車設置ノ目的並自家用營業用ノ區別
 - 三、水車ノ輪徑及員數
 - 四、据付動力機ノ名稱及其ノ員數、箇數、又ハ棒數
 - 五、平面圖 水車設置ノ位置並附近ノ形狀、利用河川、水路ノ流向及新水路、堰埭ノ位置、方位等明示
 - 六、水車設置ノ土地力他人ノ所有ニ屬スルトキハ其ノ所有者ノ承諾書又ハ連署
 - 七、水車設置ノ爲新ニ水路又ハ堰埭ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ設計書、圖面
 - 八、水車設置ノ期間
- 第四條 許可ヲ受ケタル後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ直ニ町村役場、郡市役所ヲ經由シテ知事ニ届出ツヘシ
 - 一、水車ヲ廢止シタルトキ
 - 二、水車ヲ賣買若ハ讓渡シタルトキ
 - 三、遺産相續又ハ家督相續ニ依リ水車ノ所有權ヲ取得シタルトキ
 - 四、改姓名ヲナシタルトキ
- 前項ノ届書ハ賣買讓渡ニ在リテハ當事者之ニ連署シ相續改姓名ニ在リテハ市町村長ノ證明ヲ受ケ又ハ戶籍抄本若ハ謄本ノ添付ヲ要ス
- 第五條 公益上其ノ他知事ニ於テ必要アリト認ムルトキ又ハ本則ノ規定若ハ許可ノ條件ニ違背シタリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ又ハ水車ノ改造若ハ除却ヲ命ジ又ハ水車ノ設置ニ因リテ生スル障害ヲ豫防ス

スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第六條 許可ヲ受ケスシテ水車ヲ設置シ又ハ漫リニ其ノ位置ヲ變更シタル者ハ之ヲ原狀ニ回復セシム但シ實地ノ狀況ニ依リ特ニ事後ニ於テ許可スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ基キ復舊ヲ命スルニ當リ原狀ノ不明ナル場合ハ其ノ回復ノ程度ハ知事之ヲ指定ス

第七條 許可ヲ受ケタル者又ハ許可ヲ受ケスシテ水車ヲ設置シタル者ニ於テ本規定若ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ノ義務ヲ履行セサルトキハ知事ハ代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第八條 本規定又ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ノ義務ヲ履行スル爲ニ生スル費用及前條ノ費用ハ總テ其ノ義務者ノ負擔トス之カ爲義務者ニ於テ損害ヲ被ルコトアルモ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九條 第二條ノ規定ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第十條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十四年七月甲第百二十三號布達水車規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條 本則施行前ニ許可ヲ受ケ水車ヲ設置シタルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十二條 發電ノ動力ニ供スル目的ヲ以テ設置スル水車ニハ本則ヲ適用セス

● 流水取締規程

大正十年一月二十一日 縣令第七號

流水取締規程左ノ通定ム

第一條 本規程ニ於テ流水ト稱スルハ河川ニ流送スル竹木又ハ筏ヲ謂ヒ河川ト稱スルハ流水ヲ利用シテ竹木ヲ流送シ得ル水流ヲ謂フ

第二條 河川ニ於テ竹木又ハ筏ヲ流送セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ河川ノ狀況ヲ知ルニ足ルヘキ圖面及第五號ノ設計構造圖ヲ添ヘ知事ニ圖出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ河川ノ狀況並出願事件ノ種類ニ依リ之ヲ取捨スルコトアルヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 一 河川ノ名稱
- 二 流送起點及終點地名(郡市町村大字名)
- 三 流水ノ種類形狀員數、用途並一日ノ流送數及其ノ方法
- 四 流送期間
- 五 揚卸場並流水留工ノ位置及構造
- 六 流水看守人ノ住所氏名年齡
- 七 流水ニ刻印スヘキ記號又ハ押捺スヘキ極印
- 第三條 流水ニハ各個ニ願書記載ノ記號ヲ刻シ又ハ極印ヲ押捺スヘシ
- 結東シタル流水ニハ前項ノ記號ヲ刻シ又ハ極印ヲ押捺シタル木札ヲ附スヘシ
- 第四條 許可ヲ受ケタル者ハ第二條各號ニ記載シタル裏面ニ指令書寫ヲ添ヘ直ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第五條 許可ヲ受ケタル者ハ河川ノ要所ニ看守人ヲ配置シ流水ノ遺流若ハ河川工作物(橋梁ヲ含ム以テ下之ニ依リ)ニ衝突又ハ停留スルヲ防止スヘシ
- 第六條 流送目的地ニ到達シタル流水ハ直ニ陸揚スヘシ
- 第七條 流水ヲ了リタルトキハ三日以内ニ無遲滯其ノ旨届出ツヘシ
- 流水留工ヲ施設シタルトキハ流送終了後五日以内ニ原狀ニ回復シテ其ノ旨届出ツヘシ
- 第八條 流水ノ爲河川工作物其ノ他ノ設備ヲ毀損若ハ滅失シタルトキハ許可ヲ受ケタル者ハ知事ノ指示ニ從ヒ復舊工事ヲ施行スヘシ
- 許可ヲ受ケタル者二人以上アル場合ニ於テ前項ノ行爲カ其ノ何レノ流水ニ起因シタルカヲ知ルコト能ハサルトキハ連帶責任トス
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ知事ハ許可ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既設工作物ノ改築除却若ハ原狀ノ回復又ハ危險豫防ニ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ
- 一 本規程若ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ
- 二 許可ノ後ニ起リタル事實ノ爲他ニ障害ヲ與ヘ又ハ與ヘントスルノ虞アルトキ

第二編 保安 第一章 安寧

- 三 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキ
- 四 法律命令施行ノ爲必要ナルトキ
- 五 公益ノ爲必要ナルトキ
- 前項ニ依リ許可ヲ取消シタル場合ニ於テハ河川内ノ流水ハ直ニ陸揚スヘシ
- 第十條 許可ヲ受ケタル者ト雖指定水位ニ達シタルトキ又ハ指定水位以上増水ノ虞アリト認メタルトキハ竹木ヲ流送スルコトヲ得ス
- 前項ノ水位ハ許可ノ際ニ指定ス
- 第十一條 洪水ノ際流失ノ虞アル竹木、筏ヲ溪崖河岸其ノ他ノ場所ニ蓄積スルコトヲ得ス但シ流失ヲ防止シ得ヘキ相當ノ設備ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 第八條ノ規定ハ許可ヲ受ケスシテ流水ヲ爲シタル者及前條ノ規定ニ違反シ竹木ヲ流失セシメタル者ニ之ヲ準用ス
- 第十三條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ本規程若ハ本規程ニ基ク處分ニ因ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期間内ニ修了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜キヲ得サルトキハ知事ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ
- 知事ニ於テ急迫ノ事情アリト認メタルトキハ第八條及第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ命スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ
- 前項ノ費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス
- 第十四條 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ竹木又ハ筏ヲ流送シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十五條 第三條乃至第七條及第十條第十一條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 水路取締規則

大正十一年六月一日
縣令第四十九號

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

水路取締規則左ノ通定ム

水路取締規則

- 第一條 本則ニ於テ水路ト稱スルハ舟筏ノ航行シ得ヘキ河川及運河ニシテ河川法及運河法ヲ適用又ハ準用セザルモノヲ謂フ
- 第二條 水路ニ於テ舟筏航行ノ際ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一、右側ヲ航行スルコト
 - 二、他ノ舟筏ト行進フトキハ互ニ右方ニ避讓スルコト
 - 三、後方ヨリ進行スル舟筏前方ニ在ル者ヲ追越ス場合ハ後者ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ前者ノ避クルヲ待チテ進行スルコト
 - 四、水路ノ屈角、埠頭、棧橋又ハ碇泊船ニ接シ航行スルトキハ之ヲ右舷ニ見テ航行スル者ハ小廻リヲ爲シ左舷ニ見テ航行スル者ハ大廻リヲ爲スコト
 - 五、夜間航行スルトキハ燈火ヲ點スルコト
- 第三條 水路ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一、堤防、護岸、橋梁、零標量其他之ニ類スル工作物ニ舟筏其ノ他ノ物件ヲ繫留シ又ハ之ヲ損壞スルコト
 - 二、濫ニ水路ノ中央又ハ共同物揚場、棧橋等ニ舟筏其ノ他ノ物件ヲ停留セシムルコト
 - 三、筏其ノ他ノ物件ヲ繫留場以外ノ場所ニ繫留スルコト
 - 但シ一時的繫留ニシテ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 四、他船ニ引曳セラル、舟筏ノ操舵ヲ忽ニスルコト
 - 五、舟筏其ノ他ノ物件ノ繫留ヲ忽ニスルコト
 - 六、前各號ノ外警察官署ニ於テ禁止スル事項
- 第四條 水路ニ於テ區域ヲ定メ筏其ノ他ノ物件ノ繫留場ヲ設置セムトスル者ハ區域、期間、目的及周圍ノ狀況ヲ示シタル圖面ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第五條 前條繫留場ニ於テ筏其ノ他ノ物件ヲ繫留セムトスル者ハ區域、期間、種別、石數、噸數又ハ本數及他人ノ

第二編 保安 第一章 安寧

警察官署ニ於テ警察留セムトスルトキハ其ノ承諾書ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

同一ノ筏其ノ他ノ物件ハ同一ノ警察留場ニ於テハ其ノ期間三十日ヲ越ヘテ警察留スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタムトキハ此ノ限ニ在ラス

筏ハ長十五間幅二間以内トス

第六條 水路ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ爲サムトスル者ハ事由、場所、區域、期間及方法ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 一、舟筏其ノ他物件ノ運搬又ハ引曳航行
- 二、端艇競漕其ノ他ノ團體的競技
- 三、前後左右ニ各二尺以上突出スヘキ物件ヲ搭載セル舟ノ航行
- 四、一時足代、假棧橋等ヲ設ケルコト
- 五、火藥其ノ他ノ爆發質物ヲ含有シ危險ノ虞アル物品ヲ搭載セル舟ノ警察留
- 六、祭典又ハ施餼鬼ノ執行
- 七、舟ノ進水式ノ執行

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第四條、第五條第一項、第二項但書又ハ第六條ノ許可ヲ爲サス

- 一、場所不適當ト認ムルトキ
- 一、公害アリト認ムルトキ

既ニ第四條第五條第一項第二項但書又ハ第六條ノ許可ヲ受ケタル後ト雖トモ前項各號ノ一ニ該當スルトキハ縣廳ニ於テ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第八條 他ノ法令ノ規定ニ基キ所轄警察官署以外ノ官廳ヨリ水路ノ占用又ハ浚渫ノ許可ヲ受ケタル者ハ占用又ハ浚渫著手前遲滞ナク所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第九條 水路ニ於テ舟筏ノ航行ニ因リテ人ヲ殺傷シ若ハ物件ヲ損壞シ又ハ航行上障害ヲ及ボスヘキ虞アル物件ヲ沈没セシメタル時ハ遲滞ナク警察官吏ニ申告シ其ノ指揮ヲ受ケヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第十條 公安、風俗又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ命スルコトアルヘシ

- 一、舟筏ノ航行又ハ警察留ノ禁止又ハ制限
- 二、水路又ハ沿岸ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ニ付危害豫防若ハ除去ノ施設

第十一條 第二條、第三條、第四條、第五條、第六條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十條ノ規定ニ基キ命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二條 前條ノ罰則ハ未成年者又ハ禁治産者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

第十三條 本則ノ施行區域ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 水路取締規則施行區域

大正十一年六月十三日 告示第百九十一號

一、横濱市一區

● 水路取締規則施行手續

大正十二年八月十三日 訓示甲第一六號

- 第一條 水路取締規則(以下單ニ規)第四條ノ出願アリタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ遲滞ナク之ヲ進達スヘシ
- 一 規則第四條所定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤ
- 二 區域及期間ハ適當ナルヤ否ヤ
- 三 規則第七條第一項ニ該當スルコトナキヤ否

第二編 保安 第一章 安寧

- 四 交通上支障ナキヤ否
 - 五 苦情等ヲ唱フルモノナキヤ否
 - 六 出願所河幅及水深
 - 七 伐其他ノ繋留場カ相對スルコトナキヤ否
 - 八 前各項ノ外參考事項
- 第二條** 規則第五條第一項ノ出願アリタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ但シ支障アリト認ムルトキハ意見ヲ具シ警察部長ニ稟議ノ上處分スヘシ
- 一 規則第五條第一項所定ノ事項ヲ具備スルヤ否
 - 二 規則第七條第一項ニ該當スルコトナキヤ否
 - 三 前二號ノ外參考事項
- 第三條** 規則第五條第二項但書ノ願出アリタルトキハ左記各項ノ事項ヲ調査シ六十日未滿ノモノニシテ支障ナシト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ但シ六十日未滿ノモノト雖モ支障アリト認ムルトキ及六十日以上ノモノアルトキハ意見ヲ具シ警察部長ニ稟議ノ上處分スヘシ
- 一 特別ノ事由アリヤ否
 - 二 規則第七條第一項各號ノ一ニ該當スルコトナキヤ否
 - 三 前二號ノ外參考事項
- 第四條** 規則第三條第三項但シ書ノ出願アリタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ三十日未滿ノモノニシテ支障ナシト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ但シ三十日未滿ノモノト雖モ支障アリト認ムルトキ及三十日以上ノモノアルトキハ意見ヲ具シ警察部長ニ稟議ノ上處分スヘシ
- 一 事情已ムヲ得サルモノナルヤ否
 - 二 第一條第二號及第八號ノ事項
- 第五條** 規則第六條ノ出願アリタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ之ヲ許可スヘシ但シ支障アリト認ムルトキ及其期間三十日以上ナルトキハ意見ヲ具シ警察部長ニ稟議ノ上處分スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 一 規則第六條所定ノ事項ヲ具備スルヤ否
 - 二 規則第七條第一項ニ該當スルコトナキヤ否
 - 三 場所區域期間及方法ハ適當ナルヤ否
 - 四 交通上支障ナキヤ否
 - 五 前二號ノ外參考トナルヘキ事項
- 第六條** 規則第七條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ取消必要アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ上申スヘシ
- 第七條** 規則第九條ノ申告アリタルトキハ遲滞ナク現場其ノ他ヲ調査シ適當ニ處置スヘシ
- 第八條** 規則第十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發スル必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ警察部長ニ稟議ノ上處分スヘシ
- 第九條** 所轄警察官署ニ於テハ常ニ警察官吏ヲ派遣シ規則ニ違反スルコトナキヤ否ヲ查察スヘシ
- 第十條** 所轄警察官署ハ左記様式ノ臺帳ヲ調製シ所要事項ヲ記載シ異動アル毎ニ之ヲ整理スヘシ
- 臺帳様式
- 第一號様式 伐其ノ他繋留場臺帳
- | |
|----------------|
| 繋留場設置者原籍住所氏名年齢 |
| 伐繋留場其ノ他ノ種別 |
| 繋留場地名番地 |
| 許可區域 |
| 許可指令及年月日 |
| 許可期間 |
| 備考 |
- 第二號様式 伐其ノ他繋留許可臺帳
- | |
|---------------------|
| 伐其ノ他ノ繋留者住所氏名年齢 |
| 伐其ノ他ノ繋留場ノ所有者住所氏名及年齢 |
| 區域 |
| 期間 |
| 種別 |
| 石數 氏數 事故 |
| 許可年月日 |
| 備考 |

●水路取締規則ニ關スル件

大正十二年八月二十四日
十二保發第二〇四號

大正十一年六月縣令第四十九號水路取締規則ニ據ル施行手續ハ本月十三日訓示相成候處尙左記事項注意取扱相成度此段依命及通候也

左記

- 一 本則ニヨリ當廳ニ進達及稟議スヘキ筏繋留場其ノ他ノ願届ニシテ官有土地水面ヲ使用スルモノナル時ハ其ノ使用許可願ヲ提出シタルヤ否ヤヲ調査シ若シ未提出ノ際ハ提出方注意スルコト

●洪水氾濫ノ虞アル地方ノ水防ニ關スル件

大正五年四月十四日
內務省訓令第四號

府縣

洪水氾濫ノ虞アル地方ニシテ未タ水防ニ關スル施設ノ完カラサルモノニ在リテハ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水害豫防組合ヲシテ其ノ土地ノ狀況河川ノ狀態等ニ鑑ミ大體左ノ標準ニ依リ水防施設ヲ完備セシムルト共ニ之ヲ監督指導ニ努メ以テ水害豫防ノ實績ヲ舉グルコトヲ期スヘシ

- 一 地域廣闊其ノ他特別ノ事情アルモノニ對シテハ適宜水防區ヲ設ケシムヘシ
- 二 水防ノ必要アル公共團體ニ對シテハ左ノ設備ヲ爲サシムヘシ
 - 一 貯藏小屋
 - 一 材料及器具
 - 一 洪水標
- 三 貯藏小屋ハ堤防延長凡五百間乃至千間毎ニ堤防又ハ其ノ附近ニ之ヲ設置セシムヘシ
- 四 材料及器具ハ知事ニ於テ其ノ種類及數量ヲ定メ之ヲ藏置セシムヘシ
- 五 洪水標ニハ警戒水位ヲ表示シ出水ノ虞アルトキハ豫メ水防長ニ於テ選定シタル水防員ヲシテ之ヲ監視セシメ警戒水位ニ達シタルトキハ速ニ水防ノ準備ヲ爲サシムヘシ

〔神奈川県〕

〔神奈川県〕

- 六 材料及器具並洪水標ハ出水期前官吏員ヲ派遣シテ檢閲セシムヘシ
- 七 水防上警戒ヲ要スル場合ニハ水位ヲ時々下流公共團體ニ順次通報セシムヘシ
- 八 水防ノ必要アル公共團體ニハ左ノ水防員ヲ置カシムヘシ

- 一 水防長 水防事務ヲ掌理スル者 一名
- 一 水防部長 水防長ノ命ヲ承ケ水防事務ヲ分擔スル者 若干名
- 一 水防組頭 水防部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮シ水防ニ從事スル者 若干名
- 一 水防小頭 水防組頭ヲ助ケ水防組頭故障アルトキハ之ニ代ル者 若干名
- 一 水防夫 水防長以下ノ命ヲ承ケ水防ニ從事スル者 若干名
- 九 毎年一回若ハ數回水防員ヲシテ水防方法ノ練習ヲ爲サシムヘシ
- 十 水防ノ方法及練習ニ關スル規定ハ當該公共團體ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケシムヘシ
- 十一 明治二十七年二月勅令第十五號消防組規則ニ依リ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼テシムルヲ適當トスルモノニ在リテハ前各項ノ趣旨ニ準シ相當ノ施設ヲ爲サシムヘシ

●水防監視員職制

大正九年六月二十五日
訓令第四十四號

大正九年六月神奈川縣令第六十三號水防施設規則第八條第二項ニ依リ水防監視員職制在ノ通之ヲ定ム

郡役所 警察署 警察分署 町村役場

第一條 水防監視員ハ水防監視總長一名同次長一名同委員若干名ヲ以テ組織ス

第二編 保安 第一章 安寧

總長ハ内務部長ヲ以テ之ニ充テ委員ノ職務ヲ指揮監督ス
次長ハ警察部長ヲ以テ之ニ充テ總長ノ職務ヲ分擔又ハ代理ス
委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充テ水防ノ指揮命令ヲ爲シ及其ノ施行ヲ監視シ又ハ特ニ命セラレタル職務ニ從事
スルモノトス

- 一、理事官及土木事務ニ從事スル技師
- 二、土木事務ニ從事スル屬及技手
- 三、土木事務ニ從事スル縣有給吏員
- 四、警視、警部、警部補
- 五、郡長郡書記
- 六、其ノ他特命ヲ受ケタル官吏、吏員

第二條 河川法ヲ施行シ又ハ同法ノ規程ヲ準用シタル河川ニ於テ洪水ノ危險切迫ノ場合官吏タル水防監視員ニ對シ
テハ同法第二十三條第一項及第二項ノ職權ヲ委任又ハ臨時代理セシム

第三條 水防監視員其ノ職務ヲ行フニ當リ必要アルトキハ協議ノ上左ノ分擔ヲ爲スヘシ

- 一、技術ノ指揮
- 一、現品ノ徵收
- 一、夫役ノ集配
- 一、其ノ他必要ノ事項

第四條 水防監視員ニシテ河川法第二十三條第一項ノ處分ニ依リ著シク損害ヲ受ケタル者アリト認メタルトキハ其
ノ損害物件ノ種類員數補償見積價格及所有者名ヲ調査シ歸屬後遲滞ナク復命スヘシ

● 水防施設規則

大正九年六月二十五日
縣令第六十三號

水防施設規則左ノ通之ヲ定ム

水防施設規則

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第一條 洪水ノ氾濫又ハ潮害ノ虞アリト認メ指定シタル市町村又ハ水害豫防組合ハ本則ノ定ムル處ニ依リ水防ニ關
スル施設ヲ爲スヘシ

第二條 水防ノ施設區域ハ市町村又ハ水害豫防組合ノ區域ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況又ハ從來ノ慣習ニ因リ之ニ依
リテ得ルコトヲ得此ノ場合ハ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

第三條 水防ノ爲準備スヘキ器具及材料ハ特ニ命スルモノノ外凡ソ左ノ種類中ヨリ其ノ地方ニ必要ト認ムルモノヲ
撰擇シ豫メ其ノ品目數量ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

- 一、高張提灯 一、鉈 一、蛇籠 一、空俵 一、警鐘 一、スコップ 一、筵 一、梯子 一、繩 一、鋤
- 一、鐵線 一、足代板 一、擔籠 一、唐竹 一、畚 一、土壤 一、石材 一、掛矢 一、鋤木 一、鋸 一、
- 一、枕木 一、鐵 一、鶴嘴

第四條 準備器具及材料ハ堤防又ハ其ノ近傍ノ地ニ貯藏庫ヲ設ケ之ヲ保管スヘシ

貯藏庫ハ堤防延長約五百間乃至壹千間毎ニ一ヶ所ヲ設置シ庫内ニハ其ノ在庫品ノ品目數量ヲ揭示スヘシ

第五條 水防ノ施設ヲ要スル市町村又ハ水害豫防組合ハ豫メ左ノ水防員ヲ設ケ水防組ヲ組織スヘシ但シ消防組ヲシ
テ水防組ヲ兼ネシムルモノハ此ノ限リニアラス

第六條 青年團ヲシテ水防組ヲ組織セシメ團員ヲ以テ水防員ト爲スヲ便宜ト認メタル組合ハ豫メ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

第七條 水防組長 一名

第八條 水防副長 一名

第九條 水防長ヲ補佐シ水防長事故アルトキハ之ニ代ル者

第十條 水防部長 若干名

第十一條 水防長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮シテ水防事務ヲ分擔スル者

第十二條 水防組頭 若干名

第十三條 水防部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮シテ水防ニ從事スル者

第十四條 水防小頭 若干名

水防組頭ヲ助ケ水防組頭事故アルトキハ之ニ代ル者
一、水防夫 若干名

水防長以下ノ命ヲ承ケ水防ニ從事スル者

第六條 水防ノ施設ヲ要スル市町村又ハ水害豫防組合ハ水防區域ノ各要所ニ警戒水位ヲ示シタル洪水標ヲ建設シ水防員ニ命ジテ之ヲ監視セシメ警戒水位ニ達シタルトキハ直ニ水防ノ準備ヲ爲スヘシ

第七條 水防長ハ毎年一回準備器具及材料ノ點檢ヲ行フノ外水防員ヲシテ水防方法ヲ練習セシムヘシ

第八條 知事ハ必要ニ應ジ水防監視ノ職責ヲ有スル官吏員ヲ派シ水防ニ關スル指揮命令ヲ爲サシメ又ハ水防準備器具及材料ノ檢閲若ハ水防方法ノ指導練習ヲ爲サシムヘシ

第九條 水防ノ施設ニ關スル職制ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 水防ノ施設ニ關スル一切ノ費用ハ當該市町村又ハ水害豫防組合ノ負擔トス但シ從事ノ價額アルモノハ此ノ限リニアラス

第十一條 知事ハ沿岸土地ノ狀況ニ因リ水害ノ虞ナシト認メタル市町村又ハ水害豫防組合ニ對シ第三條乃至第六條ノ施設ノ全部又ハ其ノ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

附則

第十一條 本令ニ依リ提出スヘキ書類ハ總テ所轄土木派出所ヲ經由スヘシ

第十二條 本令ハ發行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●水防指定町村

大正九年六月二十五日
告示第二百五十五號

大正九年六月 神奈川縣令第六十三號水防施設規則第一條ニ依リ水防ノ施設ヲ要スル町村ヲ左ノ通指定ス

一、多摩川

橋本郡大師河原村、川崎町、御幸村、中原村、高津村、稻田村

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

橋本郡生見尾村、町田村、日吉村、大綱村、城郷村、旭村

都筑郡都田村、新田村、新治村

一、荒川

鎌倉郡川口村、大正村、中和田村、瀬谷村、村岡村

高座郡藤澤町、六倉村、益谷村、大和村

一、粕尾川

鎌倉郡村岡村、深澤村、本郷村、豊田村、戸塚町、小坂村、玉繩村

一、相模川

高座郡茅ヶ崎町、寒川村、有馬村、海老名村、大澤村、座間村、新磯村、麻溝村、田名村

津久井郡湘南村

中郡須馬村、大野村、神田村、相川村

愛甲郡厚木町、依知村、高峰村

一、中津川

愛甲郡妻田村、三田村、下川入村、翻澤村、中津村、高峰村、愛川村、依知村

一、小鮎川

愛甲郡林村、及川村、小鮎村、厚木町、妻田村、南手利村

一、金目川

中郡平塚町、大磯町、旭村、金田村、大野村、金目村、土澤村、大根村、秦野町

一、玉川

中郡豊田村、成瀬村、城島村、太田村、相川村、神田村、大野村

愛甲郡南毛利村

一、鈴川

中郡岡崎村、比々多村、金田村、豊田村

第二編 保安 第一章 安寧

- 一、酒匂川
 - 足柄下郡酒匂村、下府中村、豊川村、足柄村
 - 足柄上郡櫻井村、曾我村、金田村、吉田島村、松田町、酒田村、福澤村、川村、北足柄村
- 二、狩川
 - 足柄上郡岡本村、南足柄村、足柄村
- 三、早川
 - 足柄下郡早川村、大窪村、湯本村、宮城野村

第十四節 氣象、報時

●測候所事務取扱規程

明治三十年一月十八日
應訓第四百八號

改正 明治三十年一月五號、三十二年一月一七號、四〇年二月第四號、四一年七月第三〇號

内務部 測候所

測候所事務取扱規程左ノ通之ヲ定ム
右訓令ス

測候所事務取扱規程

- 第一條 所長ハ所務ニ關シ職名若ハ所名ヲ以テ中央氣象臺測候所學校人民及本縣内郡市役所町村役場農會等ト文書ノ往復ヲナスコトヲ得但シ重要ノ事件ハ知事ノ指揮ヲ受ケヘシ
- 第二條 所長ハ職員ノ出張ヲ要スルトキハ其事由及日數等ヲ詳記シ知事ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三條 平素觀測シタル氣象及郡役所又ハ有志者ヨリ發スル氣象報告ハ之ヲ月報ニ編纂シ翌月十日限り知事ニ報告スヘシ
- 第四條 非常天候ヲ觀測シタルトキハ直チニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 第五條 暴風又ハ天候不穩ノ虞アリト認ムルカ又ハ中央氣象臺ヨリ警報ノ達シタルトキハ直チニ之ヲ揭示場ニ掲グルト同時ニ知事、内務部長、警察部長、郡市役所及關係町村役場ニ報告スヘシ
- 第六條 強震以上ノ地震ヲ觀測シタルトキ其ノ報告手續亦前條ニ同シ
- 第七條 本所ノ天氣豫報ハ中央氣象臺ニ於テ發シタル天氣豫報ト共ニ之ヲ揭示スヘシ
- 第八條 觀測シタル氣象及郡役所又ハ有志者ヨリ發スル氣象報告ハ毎年之ヲ編纂シ知事ノ許可ヲ經テ發刊スヘシ
- 第九條 測候所條例及其ノ細則ニ定メタル氣象觀測時ノ外ト雖中央氣象臺測候所學校及本縣内郡市役所町村役場農會又ハ内外國人ヨリ特別ノ依頼ヲ受ケタルトキハ臨時觀測ヲ行フコトヲ得
- 第十條 氣象觀測表ヲ乞フモノアルトキハ之ヲ付與スルコトヲ得
- 第十一條 調査シタル記事ニシテ差支ナキ事項ハ望ニ應シ内外國新聞紙ニ掲載セシムルコトヲ得
- 第十二條 内外國人ヨリ天氣模倣ノ質問ヲ受ケタルトキハ直ニ應答スヘシ
- 第十三條 左ニ記載スル金額ノ範圍内ニ於テ便宜ノ方法ニ依リ隨意物品ヲ購買並修繕若ハ借入レ又ハ臨時傭人小使ヲ借入レ又ハ解僱スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ正當本人ノ請求書ヲ徴シ代金ノ下付ヲ知事ニ請求スヘシ
 - 一 一廉見積價格二十圓未滿
- 第十四條 郵便電信料ハ二ヶ月分使用高ヲ豫定シ所長ヨリ知事ニ請求スヘシ
- 第十五條 締約郵便ヲ以テ發送シタル報告書ハ翌月五日限り箇數及量目ヲ記載シ知事ニ報告スヘシ
- 第十六條 郵便電信料及消耗品支拂高ハ翌月五日限り知事ニ報告スヘシ
- 第十七條 不用品拂下ハ見積金額五圓未滿ノモノニ限り所長ニ於テ二名以上ノ當業者ニ指名入札セシメ隨意拂下ヲナスコトヲ得
- 第十八條 此ノ場合ニ於テハ所長ハ知事ニ報告シ其代金ハ正當拂下本人ヲシテ縣廳ニ納付セシムヘシ

●天氣豫報發布手續

明治三十一年五月三十一日
告示第百一號

第二編 保安 第一章 安寧

改正 明治三十六年一月告示第六號、三月第一〇五號、四一年五月第一一六號、大正七年八月第二〇七號
神奈川縣測候所ニ於テ左ノ手續ニ據リ本年六月一日ヨリ横濱地方天氣豫報ヲ發布ス

横濱地方天氣、豫報發布手續

- 一 晴雨豫報ヲ分テテ風向、晴雨、溫度及臨時ノ四種トス
- 一 風向豫報、用語並ニ其ノ信號旗ノ種類ハ左ノ如シ



- 一 風向一定セサル豫報ナル時ハ風ノ向定ラスト豫報シ信號旗ヲ掲揚セス又風力微弱ナル時ハ豫報ヲ發セス從テ信號旗ヲ掲揚セス
- 一 晴雨豫報ノ用語並ニ其ノ信號旗ノ種類ハ左ノ如シ



- 一 晴雨豫報ニハ小變化ヲ附記スルコトアルヘシ
- 一 晴雨ノ豫報中小變化ヲ附記シタル時ハ方旗二個以上ヲ連揚ス但シ下部ヲ小變化ノ信號トス例之ハ晴レ但シ小雨アリト豫報セハ白方旗ヲ上トシ藍方旗ヲ其下ニ連揚スルカ如シ
- 一 溫度豫報ノ用語並ニ其信號旗ハ左ノ如シ但シ溫度ノ信號ハ前日ト大差アルヘシト豫報セル時ノミ之ヲ掲揚ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕



- 一 信號旗ヲ掲揚スルニハ風向ヲ上トシ晴雨ヲ中トシ溫度ヲ下トス
- 一 地方天氣豫報ハ毎日正午ニ發シ其有效時間ハ當日午後六時ヨリ翌日午後六時ニ至ル二十四時間トス又必要ノ場合ニハ午後六時前更ニ追報ヲ發スルコトアルヘシ
- 一 臨時豫報ハ霜、出水又ハ大雨アルヘキ豫報ナル時之ヲ發ス
- 一 臨時豫報ヲ發スルトキハ特ニ次項ノ信號ヲ掲揚シ注意スヘキ狀況消滅シタルトキ之ヲ降下ス
- 一 臨時豫報信號旗ノ種類ハ左ノ如シ



一、天氣豫報ニ東西南北ノ用語ヲ重用スルトキハ其信號旗ハ左ノ三角旗ヲ用フ

第二編 保安 第一章 安寧

北東ノ風



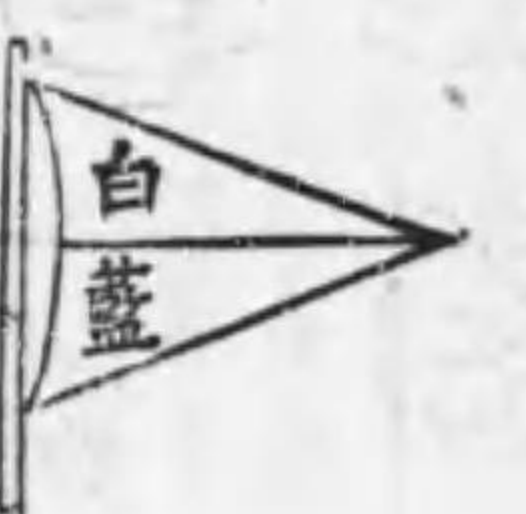
又晴、曇、雨、雪ノ用語ヲ重用スルトキハ左ノ方旗ヲ用フ
晴一時曇



曇少雨



北西ノ風



晴時々少雨



曇少雪



南東ノ風



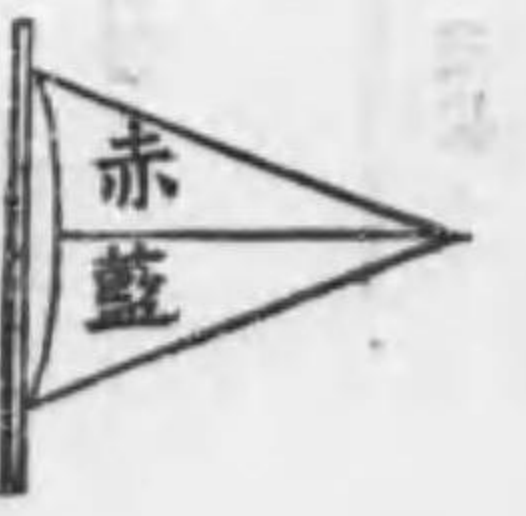
晴時々少雪



雨又ハ雪



南西ノ風



曇一時晴



以上記載外ノ豫報用語ニ對シテハ近似用語ノ信號標ヲ掲グルモノトス
豫報ヲ前後數段ニ分ツトキハ信號標ハ其順序ニ連掲スルモノトス
一豫報信號旗ハ當日午後六時ヨリ翌日午後六時ニ至ル二十四時間ノ豫報ニ對シ其ノ日ノ正午ヨリ日没迄掲揚ス但シ
〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

臨時信號ハ此ノ限リニ在ラス
一豫報不著ニシテ豫報ヲ發セサル場合ニ於テハ信號旗ヲ掲揚セス

● 地方暴風警報並地方天氣豫報ノ區域

明治四十二年三月三十日
告示第七十三號

本年四月一日ヨリ神奈川縣測候所ニ於テ發布スル地方暴風警報並地方天氣豫報ノ區域左ノ通之ヲ定ム
東部 橋樹、都筑、久良岐、三浦、鎌倉、高座ノ六郡
西部 津久井、愛甲、中、足柄上、足柄下ノ五郡
東部ノ沿海 橋樹、久良岐、三浦、鎌倉、高座五郡ノ沿海
西部ノ沿海 中、足柄下兩郡ノ沿海

● 地方暴風警報信號掲揚

明治三十年十二月十四日
告示第五百五十三號

● 地方暴風警報信號掲揚
告示第五百五十三號
本月十五日以後中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ發シタルトキハ横濱市海岸通一丁目神奈川縣測候所内ニ於テ左ノ通信號

晝間信號

夜間信號



本標ハ風強ナルヘキ時ニ掲揚ス

本標ハ風雨強ナルヘキ時ニ掲揚ス



本標ハ暴風雨ノ虞アル時ニ掲揚ス

明治四十五年三月十二日
告示第七十六號

改正 大正六年八月告示第一九七號、一三年一月第四六七號
本年三月二十日以降左ノ四ヶ所ニ於テ地方暴風警報信號ヲ掲揚ス
中郡大磯町宇南下町海岸
足柄下郡小田原町幸町二丁目海岸
同 郡真鶴村真鶴小學校内
三浦郡三崎町西野字中ノ町六十一番地
晝間信號 夜間信號



本標ハ風強カルヘキ虞アル時ニ掲揚ス

本標ハ風雨又ハ風雪強カルヘキ時ニ掲揚ス



本標ハ暴風雨又ハ暴風雪ノ虞アル時ニ掲揚ス

(位置地勢略圖)

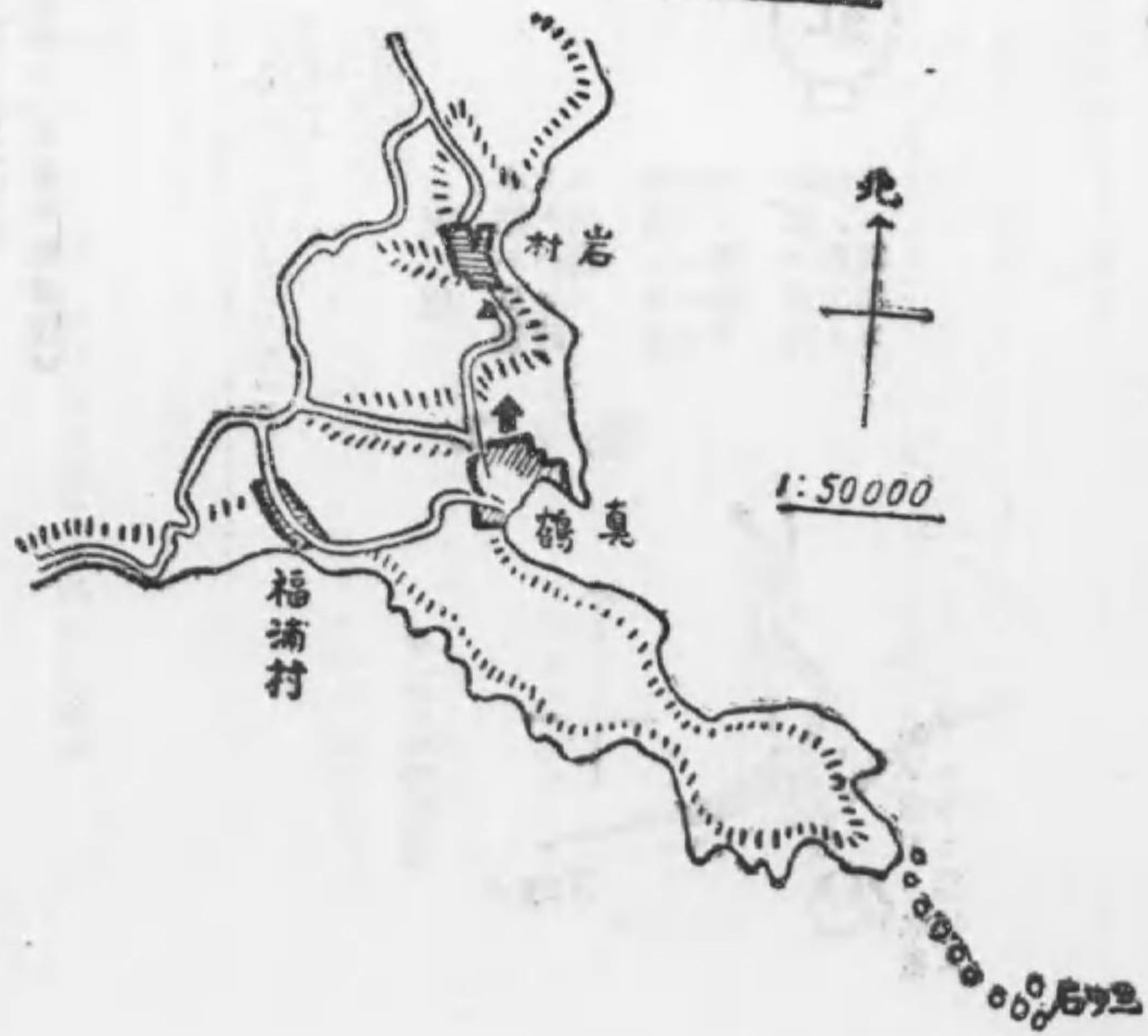
〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

小田原



真鶴



本年八月十五日以降左ノ箇所ニ於テ地方暴風警報信號ヲ掲揚ス(位置附圖參照)
鎌倉郡川口村江ノ島字西町二百〇二番ノ一

大正九年八月十日
告示第三百二十號

晝間信號



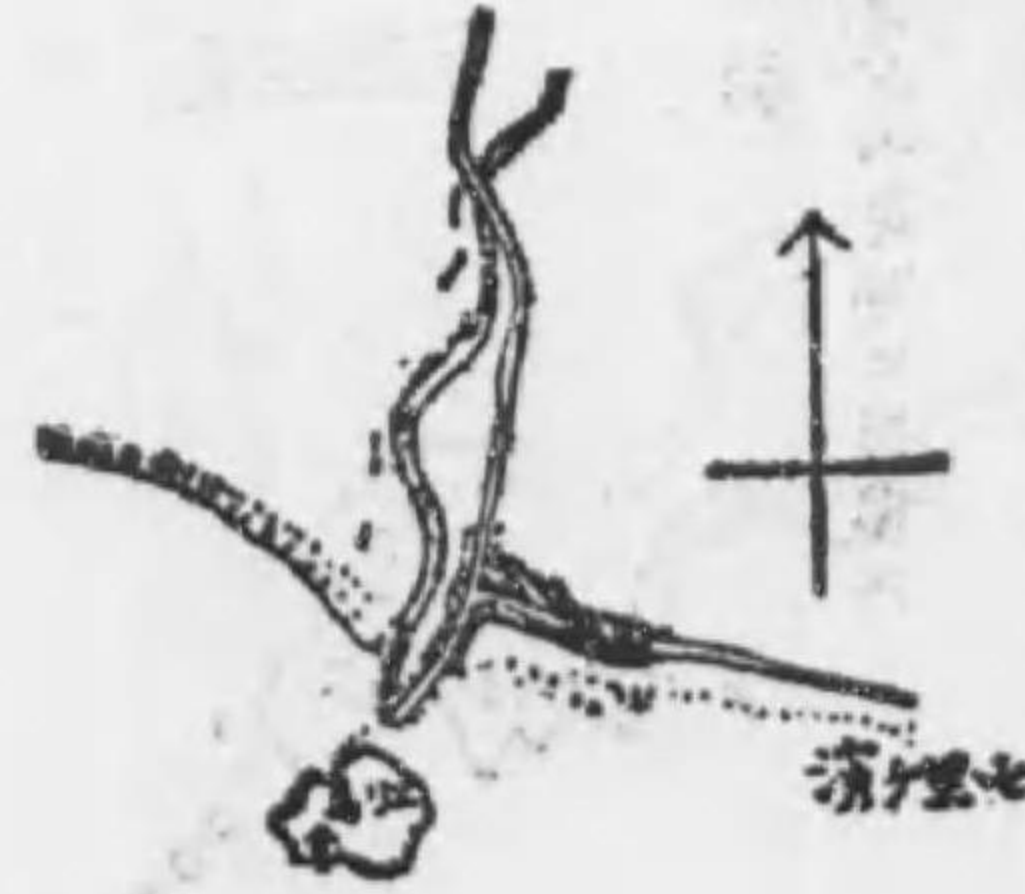
夜間信號



説明

本標ハ風強
カルヘキ時
ニ掲揚ス
本標ハ風雨
強カルヘキ
時ニ掲揚ス
本標ハ暴風
雨ノ虞アル
時ニ掲揚ス

江ノ島



鎌倉郡川口村江ノ島

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

本年九月十五日以降左ノ箇所ニ於テ地方暴風警報信號ヲ掲揚ス(附圖參照)
三浦郡浦賀町川間字越戸七百五番地
大正九年九月十七日
告示第三百七十號

晝間信號



夜間信號



説明

本標ハ風強カルヘキ時ニ掲揚ス
本標ハ風雨強カルヘキ時ニ掲揚ス
本標ハ暴風雨ノ虞アル時ニ掲揚ス



合巻風信標位置

本年二月一日以降左ノ箇所ニ於テ地方暴風警報信號ヲ掲揚ス
(附圖参照)
三浦郡長井村二千九百四十二番

大正十年一月二十九日
告示第三十六號

〔神奈川警〕

晝間信號



夜間信號



説明

本標ハ風強カレハキ時ニ掲揚ス
本標ハ風雨強カレハキ時ニ掲揚ス
本標ハ暴風雨ノ虞アル時ニ掲揚ス

暴風信標位置圖



暴風信標

●報時球及暴風雨標信號

大正七年一月四日
告示第六號

橫濱港北防波堤見張所北側ニ新設ノ報時球暴風雨標信號柱新設ニ付大正七年一月十五日ヨリ報時球及暴風雨標信號
ヲ掲揚ス

報時球信號手續ハ神奈川縣告示第六十八號暴風雨標信號標式ハ神奈川縣告示第四百一號ニ依ル

●氣象報告取扱手續

明治三十年七月六日
訓令第四十六號

郡役所

氣象報告取扱手續左ノ通之ヲ定ム

氣象報告取扱手續

- 第一條 郡役所ハ其ノ所在地ノ溫度、雨量、風向、風力、天氣等毎日午前十時一箇ノ觀測ヲナスヘシ
- 第二條 郡役所ハ左ノ場合ニ於テハ第一條觀測ノ外臨時觀測ヲ行フヘシ
 - 一 神奈川縣測候所ヨリ暴風警報ヲ受ケタルトキ
 - 二 降雨多量ナルトキ
 - 三 天候不穩ト認メタルトキ
- 第三條 郡役所ハ神奈川縣測候所ニ左ノ報告ヲ爲スヘシ
 - 一 雷雨
 - 二 降雹
 - 三 地震
 - 四 結霜
 - 五 降雪
 - 六 暴風
 - 七 強雨

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 八 洪水
- 九 觀測 (月報)
- 十 雜報

- 十一 右ノ外特ニ神奈川縣測候所ヨリ照會ヲ受ケタルトキ
- 第四條 暴風警報ハ中央氣象臺ノ報知ニ依リ神奈川縣測候所ヨリ郡役所及船舶碇泊地三浦郡三崎、同郡浦賀、ノ町村中郡須馬、足柄下郡真鶴ニ通報スルモノトス但シ天候及暴風警報ノ狀況ニ依リ之ヲ發セサルコトアルヘシ
- 第五條 郡役所ニ於テ暴風警報ヲ受ケタルトキハ直チニ所在地ノ警察署町村役場ニ急報シ且ツ便宜ノ場所ニ揭示スヘシ
- 第六條 船舶碇泊地ノ町村役場ニ於テ暴風警報ヲ受ケタルトキハ直チニ便宜ノ場所ニ揭示スヘシ
- 第七條 郡役所及船舶碇泊地ノ町村役場ハ警戒解除ノ通報ニ接シタルトキハ直チニ第五條第六條ノ揭示ヲ撤去シ且ツ向フ二十四時間以内ニ警戒中ノ氣象概況ヲ神奈川縣測候所ニ報告スヘシ
- 第八條 郡役所ハ觀測主任者ヲ定メ置キ其ノ官氏名ヲ神奈川縣測候所ニ通報スヘシ但シ異動アリタルトキ亦同シ
- 第九條 氣象報告並ニ暴風警報揭示書式ハ別紙様式ニ依リ調製スヘシ

(書式略ス)

●天變地異ニ關スル應答方

明治十六年十月十二日
布達乙第二百三十八號

郡(區)役所

天變地異ハ凡テ氣象ニ關係候ニ付雷電霰雪霜風雨旱澇地震噴火光物隕石海嘯等臨時異兆ノ現象有之節ハ時機ニ
ヨリ(内務)省氣象臺ヨリ直ニ郡(區)役所ヘ問合候儀モ可有之候條其節ハ速ニ應答可致此旨相達候事

●天變地異ノ兆ヲ認メタルトキ急報方

大正十三年二月八日
訓令第三號

第二編 保安 第一章 安寧

六七八

左記各項及之ニ類スル異變ヲ認メタルトキハ最モ迅速ノ方法ニ依リ直ニ本縣測候所ニ急報スヘシ
一、土地、海湖、河水、井水、温泉等ノ變化
一、音響及流星其ノ他天體ノ異常現象
郡市役所 警察署 警察分署 町村役場 學校

●横濱報時球信號手續

明治三十六年二月二十五日
告示第六十八號

改正 明治四〇年一月告示第二七號

横濱市山下町東波止場ニ報時球ヲ設置シ左ノ手續ニ據リ本年三月二日ヨリ報時信號ヲ開始ス

横濱報時球信號手續

- 一 報時球ハ日曜日及大祭日ヲ除キ毎日日本邦中央標準時ノ正午後（東經百三十五度ニ於ケル平時正午時即チ英國欸威平時ノ十五時）ニ墜下セシム
- 二 報時球ノ位置ハ北緯三十五度二十六分四十分九八八東經百三十九度三十九分零秒三三〇トス
- 三 報時球ノ球ハ横ニ其上下ノ兩部ヲ赤色ニ中部ヲ白色ニ塗リ橋ハ白色トス
- 四 球ハ常ニ下部橋木上ニ据置キ正午時約五分前（午前十一時五十五分）ヨリ之ヲ上部橋木下マテ引揚ケ東京天文臺ヨリ電氣作用ヲ以テ之ヲ墜下セシム其ノ墜下シ始ムル瞬時ヲ以テ正午時トス
- 五 報時信號ニ過誤アリタルトキ又ハ故障ノ爲該信號ヲ爲シ能ハサルトキハ球橋ノ下桁端ニ萬國船信號ノW旗ヲ掲ケ

〔神奈川時〕

〔神奈川警〕

第二章 風俗

第一節 社寺、宗教

●神佛祭禮開扉等ノ節奇怪ノ打粉ヲ爲スヲ禁ス

明治六年七月五日
教部省第二十六號

府縣

神佛祭禮開扉等之節兼テ信仰之者ハ夫々禮敬ヲ盡シ參拜可致管之處從來之弊風ニ混ミ奇怪之打粉或ハ男女委粧ヲ易ヘ候等之儀有之趣隨處ヲ極メ候ノミナラス却テ神佛ヲ褻瀆シ以之外之儀ニ付以來右様之儀無之尊崇之本意ヲ體シ候様可致事

●諸神社祭禮神輿渡御ノ節取締方

明治六年九月二十二日
教部省第二十九號

府縣

諸神社祭禮神輿渡御之節往々祭儀ニ托シ粗暴ノ所業有之或ハ途中之人家ニ觸レ或ハ往來之妨碍ヲ爲ス等許多之弊害不少候趣相聞不都合之至候條向後取締方精々注意シ粗暴之所業無之様可致此旨布達候事

●私邸内神祠佛堂衆庶參拜停止及出願方

明治九年十二月十五日
教部省達書第三十八號

府縣

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂へ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様之姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信向人共有之筋ヲ以尙參拜之儀願出候ハ、永續方法竝神官僧侶之受持等夫々取調爲申出候上管轄處見込相立可伺出此旨相違候事
但從前願濟之分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出事

●自祭ノ神祠佛堂參拜停止ノ件

明治十年一月八日
布達甲第一號

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂へ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様ノ姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信向人共有ノ筋ヲ以尙參拜ノ儀願出候ハ、永續方法竝〔神官〕僧侶ノ受持等夫々取調來ル三十一日迄ニ可出願右ハ教部省達ニ付此旨布達候事
但從來願濟ノ分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出事

●社寺境内民有地使用及管理方

明治二十八年四月十六日
訓令第十九號

郡役所 市役所

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シ取扱フヘシ

●寺院佛堂境内官有地木竹管理規則

明治三十六年三月二十六日
内務省令第二號

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

改正 大正二年四月内務省令第八號

寺院佛堂境内官有地木竹管理規則左ノ通相定ム

寺院佛堂境内官有地木竹管理規則

第一條 寺院佛堂ニ於テ其境内官有地ノ木竹ヲ採取セントスルトキハ本規則ニ依ルヘキモノトス

第二條 枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 寺院佛堂ノ本堂庫裡ノ造修用材ニ必要ナル木竹ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得但寺院佛堂ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク外樹木ニ付テハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

一 目通五尺以上一丈未満ノ樹木ハ其一割以內

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其二割以內

前項ニ該當セサル建造物ト雖モ古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及寺院佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條 前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第五條 林藪ノ經營上必要ナル採伐ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 前三條ニ該當スルモノト雖モ寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル木竹ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第七條 境内地ノ林藪五町歩以上ニ涉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但五町歩以下ノモノト雖モ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第八條 境内地ノ林藪ニ於テハ土石切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但寺院佛堂ニ於テ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ非ス

第九條 地方長官ニ於テ境内地ノ林藪荒廢ノ虞アリト認ムルトキ其他境内地ノ狀況林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其經營ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第十條 境内地ノ林藪ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ三日以前ニ警察官署ニ届出テ境内ノ林藪ニ對シ防火ノ設備ヲ爲スヘシ